



ISSN 2435-7898

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
要覧 2021



東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2021

目 次

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	12
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	16
(3) 入試センター	19
(4) 言語・文化教育センター	21
(5) グローバルラーニングセンター	24
(6) 学際融合教育推進センター	27
(7) 学習支援センター	28
(8) キャリア支援センター	30
(9) 学生相談・特別支援センター	32
(10) 保健管理センター	34
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	36

III 2021年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	39
2. 刊行物一覧	41
3. 教員の活動	42

IV 資料編

1. 統計データ	112
2. 外部資金獲得状況	123
3. 共同研究員受入状況	123
4. 研究業績による受賞	124
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	125
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	127
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	128
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	129
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	130
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	130
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	131

I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2021」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための中核と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2021年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個人ごとの活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

新型コロナウイルス感染症禍が未だ終息の気配を見せない中、大学教育や学生支援も新たな方向性へと踏み出す1年でした。教育や学生支援の在り方や方法論に関する学内外の議論も大いに進み、まさに高等教育の転換点を迎えたところです。2022年度からは新しい全学教育も始動します。1993年の教養部廃止以来、全学教育の名のもとで教養教育が展開されてきましたが、この度、高年次教養教育や現代的リベラルアーツの涵養を目指した新カリキュラムの開講を迎えることができました。高度教養教育・学生支援機構の果たすべき役割は一層高まってきていると自覚しています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

2022年8月

高度教養教育・学生支援機構長 滝澤博胤

2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

【ミッション】

高度教養教育・学生支援機構は、研究第一・門戸開放・実学尊重という東北大学の使命に従い、平和で公正な社会の実現を先導するリーダーを育成する教養教育の構築と、多様な学生の学修と生活に必要な学生支援の実現を目指します。そのために、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画と提言、及びそれらの方法の開発と実施を、関係部局や審議会との連携の下に一体的に行います。

【重点戦略】

1. 未来社会を先導する挑戦心と創造力を育む高度教養教育と学修支援の展開

学生一人ひとりの学修状況、能力や個性、その他の条件に応じて最適化された教育の実現に向けて、学生の挑戦と創造を支える学修支援体制を整備し、既存の学問領域や学年にとらわれない学際的・総合的な学修を可能とする柔軟な教育カリキュラムを開発・推進します。そのために、①円滑な高大接続と「学びの転換」を実現する効果的な初年次教育の充実強化、②SLA サポート事業をはじめとするピアサポート学習支援体制の構築拡充、③学生の授業時間外学習活動を質と量の両面から充実させるための調査研究や企画実施の推進、④高年次教養教育や学際研究を通じた学習機会の提供、⑤アスリート、芸術家、職人などの多様な実践知の導入、を展開します。さらに、⑥各学部・研究科・研究所・審議会等との連携を強化し、「現代的リベラルアーツ」を育成する実践的な教育プログラムを研究開発します。

以上の取組を通して、専門教育課程の基盤となる基礎的な教養教育から、学際融合による教育及び研究を発展させる高度教養教育までを含む総合的な教養教育を推進します。

2. ワールドクラスの研究総合大学にふさわしい最先端の包括的グローバル教育を全学一体で推進

21世紀型地球市民を育成する包括的グローバル教育として、①国内外の優秀な学生を惹きつける国際的な教育プログラムの開発・整備を加速させ、②希望する全ての学生に多彩な海外研鑽の機会・支援を提供し、③留学促進のための調査・分析とプログラム改善を連動した理論・実践循環体制を確立し、④抜本的な語学教育改革とともに全ての教育課程に国際的な視点を取り入れる「カリキュラムの国際化」を推進します。また、⑤語学教育、国際教育、教養・専門教育を融合した包括的なグローバル教育と多様な文化背景の学生による協働・相互研鑽を取り入れた「国際共修」を全学に広め、⑥国際教育のシンクタンクとして我が国における国際共修の推進を先導する中核拠点を形成し、教職員研修やアーカイブの構築による普及活動を展開します。

3. アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を確保するための持続可能な新たなアドミッションの構築

入学者等の実績や各種入試動向調査などのエビデンスを踏まえ、本学のアドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から広く確保するための入試制度の研究・開発・実施と入試広報および高大接続活動を強化します。そのために、①本学のビジョンに対応したアドミッション・ポリシーの策定、②学部・大学院における志願者拡大に向けた国内外の戦略的マーケティングと入試広報の実施、③多様な学生を広く国内外から確保するための入試制度の開発、④学部・大学院入試における課題解決支援及び入試業務における教員の負担軽減策の立案・実施、⑤各教育委員会と連携した高大接続事業の継続的な実施、⑥アドミッションの学術的基盤の確立と大学院教育と連携した指導的アドミッション・オフィサーの養成等を行います。

4. 21世紀の知識集約型社会に対応した大学教育開発の推進と教育・学習マネジメントの強化支援

21世紀の知識集約型社会に対応し得る大学教育への再構築を目指し、大学教育の内容・方法の研究開発、教職員能力開発の企画・実施、教育・学習マネジメントの強化を通して、本学における全学的な大学教育改革・改善の推進に貢献し、我が国の大学教育をリードする世界水準の拠点としての地位を確立します。そのために、①国

際連携を基盤にした、高等教育の動向・政策・実践に関する研究開発の推進と国内外への成果発信・還元、②教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営等について大学執行部や教職員に求められる各種能力を育成する専門性開発プログラムと動画コンテンツの開発・提供、③産学共同人材育成システムの開発・運営による実務家教員の育成・輩出、④本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データの収集・分析・提供を通じた本学の教育・学習マネジメントの強化支援を展開します。

5. 多様性を尊重し自己・社会の未来構想に挑戦する主体的学生を育成する包括的学生支援の推進

変化に富んだ社会に対応し多様な文化や価値観を受け入れ、自己や社会の未来構想に意欲的に挑戦する心身ともに豊かな個人へと成長する機会を促す包括的な学生支援を推進します。そのために、①学生の心身発達の支援と対峙する危機への介入（健康管理、メンタルヘルスケア、学生相談、ハラスメント防止）、②グローバルな視点からの感染管理、③多様な背景を持つ学生への支援とインクルーシブな環境の提供（障害のある学生、留学生等への支援）、④自己を見つめ未来を主体的に切り拓くキャリア形成の支援、⑤学生の自発的な課外活動や東日本大震災の経験を活かし未来社会の構想に挑戦するボランティア活動の支援等を、全学連携的な支援体制を構築して行います。

3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進 <p>世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。</p> 2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進 <p>英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。</p> 3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進 <p>「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。</p> 4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進 <p>人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。</p> 5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実 <p>留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。</p> 6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進 <p>社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的學生支援を推進する。</p> 7. 東北大学型A0入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ <p>社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。</p> 8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援 <p>研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。</p> 	

<p>◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【】は、対応する全学の中期計画</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキィ・コンピテンシーを身に着け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。</p> <p>2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。</p> <p>3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学 IR 機能を強化・確立する。</p> <p>2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。</p> <p>3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。</p> <p>3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学務審議会、IR室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。</p> <p>1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。</p> <p>3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図るPDプログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。</p> <p>3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連</p>

<p>2. 【15】総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。</p>	<p>携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。</p> <p>2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。</p> <p>2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。</p>
---	--

(4) 入学者選抜に関する目標 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【17】【18】アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。</p>	<p>1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。</p> <p>1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。</p> <p>1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。</p>
---	--

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【19】【20】高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。</p>	<p>1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野の教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。</p>
---	---

(2) 研究実施体制等に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【31】国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。</p>	<p>1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究拠点を形成する。</p> <p>1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先導的研究の国際的ネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。</p>
--	---

<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標</p> <p>1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。</p>
<p>5 その他の目標</p> <p>(1) グローバル化に関する目標</p> <p>1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。</p> <p>1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。</p> <p>1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。</p> <p>1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。</p> <p>1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。</p>

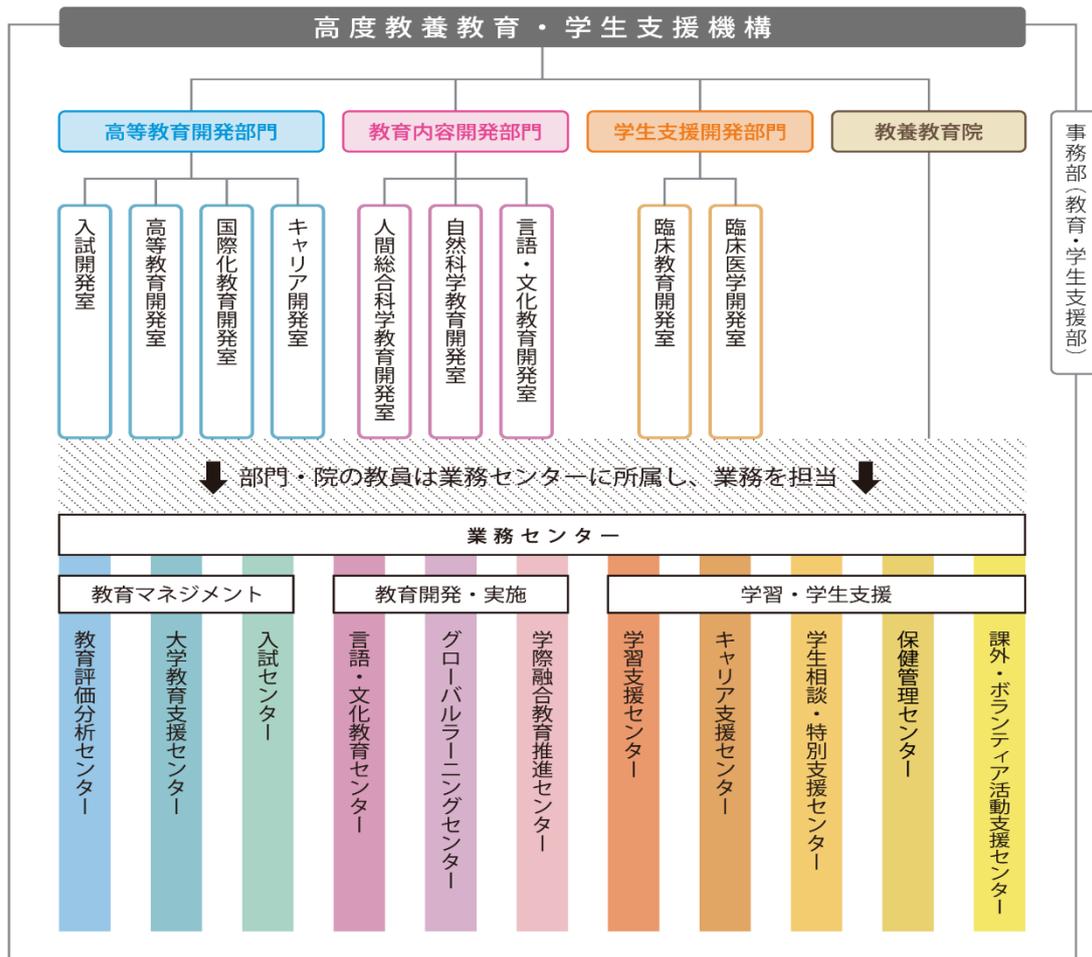
<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。</p>	<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多面的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。</p> <p>1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。</p> <p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p>

4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

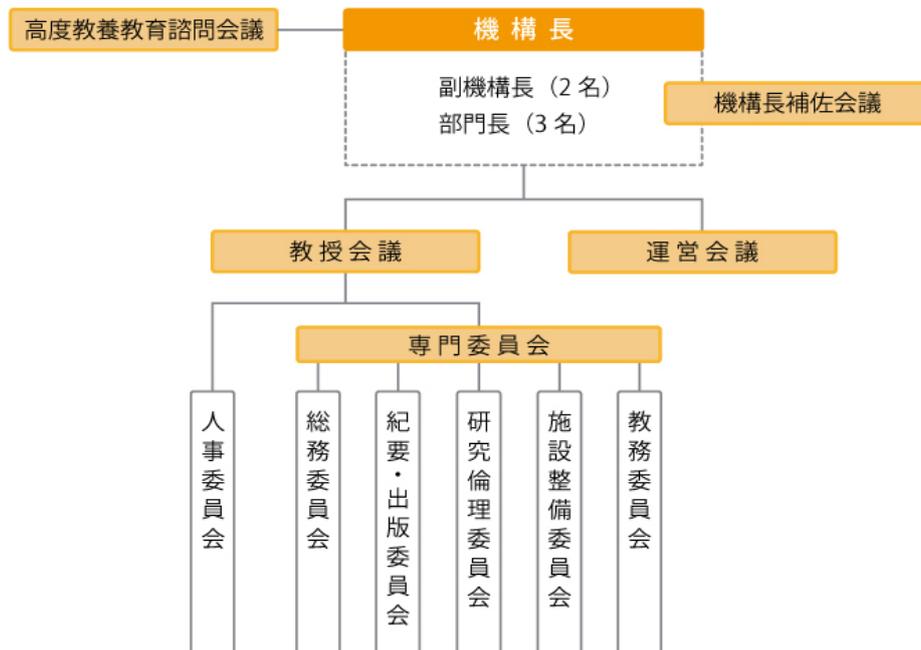
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	高度教養教育・学生支援機構設置。 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。 花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（平成 28 年度～平成 32 年度）。
平成 30 年 4 月	滝澤博胤理事・副学長（教育・学生支援担当）が機構長に就任。
令和 2 年 7 月	文部科学省より，「大学教育イノベーション人材開発拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（令和 3 年度～令和 7 年度）。

5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

(1) 組織構成図



(2) 運営部門



Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院

(1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

入試開発室

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、AO入試・一般選抜の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

高等教育開発室

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

国際化教育開発室

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際必修科目の開発・改善、オンラインを活用した教育・支援・広報等の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

キャリア開発室

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育や部局と連携したキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした進路・就職支援のためのフェア（説明会）、セミナー、ワークショップや個別相談等を実施している。

(2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

人間総合科学教育開発室

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。主に、人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践とその経験に基づく教育活動およびカリキュラム開発をおこなっている。また、運動生理学の観点からの研究にもとづき、運動生理学の研究成果の授業を担当している。

自然科学教育開発室

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目「自然科学総合実験」を担当するユニットと自然科学系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。理系初年次学生約1,700名を対象とした必修の理科実験科目である「自然科学総合実験」と学士課程英語コース（FGL）の初年時学生を対象とした「Introductory Science Experiments」を企画・運営している。また、文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」も担当している。

3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）向けの自然科学系基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献している。

言語・文化教育開発室

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learningを利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

(3)学生支援開発部門

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生活のなかで経験する身体的・精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングやハラスメント等の問題解決に向けての支援、障害のある学生等の支援、学生の心身の保健管理を行うとともに、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

臨床教育開発室

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談及び特別支援の活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや障害のある学生への支援活動の充実・開発、学生支援体制の整備に資する研究を行っている。

臨床医学開発室

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

(4)教養教育院

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成20年4月に設置され、平成26年4月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成され、教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育を推進する先導的な役割を果たしている。主な活動・取組は、以下のとおりである。

① 基礎ゼミクラスの担当

初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）を担当し、「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、情報収集のスキルや分析の方法、発表の仕方などを教示すると共に、“モノを見る眼”の涵養を図り、学生たちが自ら考え、研究の道筋を作っていく“場”の創設を支援している。

② 全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2年次学生を対象に行われる全学教育におき、教養教育院の特命教授と特任教員はそれぞれの専門分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな工夫を行い、教養教育を推進する上での試みを行っている。

③ 教養教育への理解を深める

教養教育をテーマにした「教養教育特別セミナー」や「総長特命教授合同講義」をそれぞれ年一回企画し、初年次学生をはじめとする本学学生に、教養に裏打ちされた知性を高めることの意義を理解してもらう機会を提供している。2021年度からは「総長特命教授合同講義」を「ILAS コロキウム」と改めて、本学若手教員の研究への取り組みを紹介している。

④ 小冊子『読書の年輪』の発行

「大学での学び」を始める上でのガイドブックとして、『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行し、教務課との協力のもと入学予定者に配布している。本書には歴代の総長特命教授それぞれが、自らの教育研究活動の経験に立って選んだ、新入生に推薦すべき“導きの書籍”6冊にコメントを付けて収録しており、毎年増補している。

⑤ 「東北大学教養教育院叢書」の刊行

教養教育院で開催してきた「特別セミナー」や「合同講義」、それぞれが担当の授業内容などの中から特定テーマを選び、それを特集した叢書の刊行を行っている。これまで「教養と学問」「震災からの問い」「人文学の要諦」「多様性と異文化理解」の4冊を世に問うてきたが、2021年度には第5巻として「生死を考える」を刊行した。

⑥ 教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育推進に寄与している。

2. 業務センター

(1) 教育評価分析センター

使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA 実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

①教育評価分析センターでは、基礎的データ収集システムを整備し、各種調査結果や授業アンケート結果等のデータを様々な分析に用いられるようデータベースサーバーに整理・保存している。このうち、全学教育の授業アンケートおよび成績評価に係るデータについては教務課から提供を受け、DBへ格納・蓄積を進めるとともに、令和3年度の第1・第2学期の結果概要について概要作成を行った（東北大学全学教育ホームページにて公開済み）。また、学務情報システムと調査結果を連動させた教育学習データ分析として、CIR Insights Vol.13（2021年夏号）において「入試区分による学生認識の違い」を特集し、一般入試（前期日程）とAO入試の2つの入学形態による学生の学修意識や満足度等の比較を行った。

②国内外におけるIRの先進的取組に関する調査として、鹿児島大学高等教育研究開発センターを訪問してセンター長及び教学IR担当教員と事前質問に基づく面談を行い、同大学における教学マネジメントの構築状況等に関する質疑・意見交換を行った。また、IRに関する最新動向の把握、基礎スキルの習得・向上のため、下記セミナーへ事務局員を派遣した（オンライン参加）。

- ・広島大学IRよろず相談会（令和3年8月6日、令和4年3月11日）
- ・全国大学教育研究センター協議会（令和3年9月15日）
- ・IR合同シンポジウム&EMIR勉強会（令和3年11月5～6日）
- ・第10回大学情報・機関調査研究会（MJIR）（令和3年11月12～14日）
- ・第2回「PROGによるIRの推進」セミナー（令和4年2月21日）
- ・関西大学教学IR/FD合同フォーラム（令和4年2月26日）

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①学生生活支援審議会の下に設置された「第15回東北大学学生生活調査WG」に教育評価分析センターから2名（うち1名は副委員長）が参画し、令和3年12月に「第15回東北大学学生生活調査」を実施した。今年度は、昨年度立ち上げた本調査用ランディングページを「東北大学ミライ・プロジェクトウェブサイト」と名称変更し（http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/student_voices_15/）、引き続き過去の調査結果に基づく改善事例を紹介することで、学生に調査協力を行った。その結果、回答率は34.1%となった。同調査結果は、『令和3年度【東北大学学生生活調査】のまとめ 東北大学生の生活』として刊行し、本学HPに掲載の上、学内外に情報提供されている。

②4年に1回の計画としている卒業生調査を、令和3年12月～令和4年1月に「第4回東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」として実施した。総務企画部基金・校友事業室の協力も得ながら、教育評価分析センター内で調査票（全学共通項目）を設計・作成し、令和3年11月開催の学務審議会にて学部・研究科独自の調査項目の設定希望を募った上で、同年12月20日に調査対象者に発送・回答依頼を行った。その結果、回答率は13.4%であった。データの分析及び結果共有は令和4年度に実施する予定である。

(3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①教育情報・評価改善委員会と協力して、全学教育の授業アンケート・成績評価（令和3年度）の分析を行い、全学教育ホームページや CIR Insights 等の媒体を用いて情報発信・共有し、本学における全学教育の質保証・教学マネジメントを支援した。特に、CIR Insights Vol.14（2021年冬号）では「全学教育における授業アンケートの回答と成績の関係」を特集し、授業アンケート回答学生の成績や自由記述の特徴について定量的・定性的分析を行って情報発信を行った。

②本部の教育改革推進会議の下に置かれた「教育の質保証検証部会」（部会長：滝澤博胤教育担当理事）に、教育評価分析センターの3名の教員（うち1名は副部会長）が参画し、令和3年度に受審した機関別認証評価（認証評価機関：（独）大学改革支援・学位授与機構）への準備・対応に関して中心的役割を担った。また、「教育の質保証検証部会」が毎年度実施している、各部局から提出された「令和3年度 東北大学における教育の質保証に関する報告書（令和2年度取組状況）」の精査と各部局へのフィードバックを行うことで、本学における教育に係るマネジメントや内部質保証の取組を推進した。

(2)大学教育支援センター

使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発・実施する。
- (2) 高度教養教育・学生支援機構の各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。
- (4) 教育関係共同利用拠点として、以上の取組の成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) 大学教育開発及び大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

大学教育支援センターでは、その使命を果たすべく、国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するため、学内外の競争的資金を含め各種調査研究と連携を図り、その成果に基づくプログラムを開発・実施している。令和3年度は、文部科学省「教育関係共同利用拠点」(機能強化経費：教育関係共同実施分)、同「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」(研究拠点形成費等補助金)、科学研究費補助金、東北大学全学的基盤経費における事業と連携し、調査研究及びその成果に基づくプログラムの開発・提供を行った。

- (2) 大学教職員のキャリアステージに対応した専門性開発プログラム(PDP)の開発・提供

教育関係共同利用拠点事業において、日本の高等教育の多様性に対応するため、機構内各業務センターと連携し、分野別プログラムとして4領域15カテゴリーにわたる専門性開発のためのPD(Professional Development)セミナー(ワークショップを含む)を実施した。令和3年度は、23セミナーを実施し、46都道府県、530機関より、計2,488名が参加した。

受講満足度では、総合評価3.5(4件法)と高い成果が得られ、継続して高い水準を維持している。高等教育の多様な領域をカバーすることで、セミナー参加者の能力開発に貢献した。

- (3) 「PDP online」におけるPDセミナーの動画配信

PDセミナーを収録・編集した動画をオンデマンド形式で提供することで、遠隔による能力開発の機会を提供した。令和3年度末時点で90の動画を配信しており、質・量ともに国内で類を見ない規模のコンテンツとなっている。令和3年度の閲覧数は34,488件で、平成26年度の提供開始時からの累計閲覧数は約19万件となった。誰でもいつでもどこでも自由に利用できるオンデマンド型e-learning教材としての特色を生かし、全国規模で個人・組織によるFD・SD等の能力開発に活用されている。

上記については、自力でFD・SDを実施することが難しい大学等のための「機関利用」を推進している。機関利用登録は、39機関(国立大学3、公立大学4、私立大学30、民間組織2)となり、前年度と比べて5機関増加した。機関利用の推進により他大学における組織的なFD・SD研修への支援を行うこととなり、全国の大学教職員に自己啓発の機会を提供した。

- (4) 専門教育指導力育成プログラム(DTP)の開発・提供

STEM(科学・技術・工学・数学)分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた「分野別教育方法研究」(DBER: Discipline-Based Education Research)の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏(スタンフォード大学教授。2001年ノーベル物理学賞受賞者)による、先進的・組織的取組の全貌を詳述した著書『Improving How Universities Teach Science: Lessons from the Science Education Initiative』の翻訳作業を進め、令和3年7月に『科学立国のための大学教育改革—エビデンスに基づく科学教育の実践』(大森不二雄監訳)を玉川大学出版部より出版した。

- (5) 大学教員準備プログラム(PFFP)・新任教員プログラム(NFP)の開発・提供

大学教育支援センターでは、大学教員の教育力向上を目的に、大学教員を目指す大学院生・ポスドクには大学教員準備プログラム(PFFP)を、教育経験が少ない新任教員には新任教員プログラム(NFP)を提供

している。前年度の検討を経て、令和3年度は従前のプログラムを大幅に変更する形で実施した。第1回は令和3年6月15日から8月3日にかけて週1回(180分)クォーター形式で実施し、修了者は12名であった。第2回は令和4年2月28日から3月4日(3月2日は課題学習時間)にかけて10~17時までの集中形式で実施し、修了者は23名であった。プログラム全体の評価は3.9(4件法・第2回)、「学習目標が明確に設定されていた」「プログラムの内容はよく整理、計画されていた」「研究室や知り合いの大学院生にも勧めたいプログラムであった」では回答者の全員が「強くそう思う」を回答するなど(強くそう思う・そう思う・そう思わない・全くそう思わないの4件法・第2回)、肯定的な評価を得ることができた。

(6) 大学変革リーダー育成プログラム(TLP)の開発・実施

履修証明プログラム「大学変革リーダー育成プログラム(TLP)」は、所属機関における改革案の企画・実施を含む実践的カリキュラムにより、大学マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指している。TLP(令和元~2年度)は新型コロナウイルス感染症への対応として修了期間を令和3年9月とする長期履修制度を採用し、結果、4名が修了した。

なお、本プログラムは、文部科学省・職業実践力育成プログラム(BP)の認定、厚生労働省・教育訓練給付金制度対象講座としての指定を受けている。

(7) 大学マネジメント力開発プログラム(SDP)の開発・提供

職員に加えて教員や執行部も対象とするSDの趣旨に照らし、教育研究と大学運営の高度化の担い手を育成するため、「大学マネジメント力開発プログラム」(SDP)シリーズを実施している。令和3年度は、「大学等の連携・統合」(令和3年7月31日)をオンラインで開催した。このセミナーには、32都道府県・106機関より計121名が参加した。受講満足度は3.4(4件法)であり、18歳人口の減少の中で注目を集める大学等の連携・統合について時宜にかなった専門知識等を提供することができた。

(8) 「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に関する業務

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」(令和元年度~5年度)において、東北大学が代表校となり、熊本大学、大阪府立大学、立教大学を連携校として実施する取組「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」が、運営拠点及び中核拠点として採択された。

履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム(AIBET)」(実務家教員育成研修)を令和2年度より開発・提供し、令和2年度11月に受講を開始した第一期生56名の内、48名が令和3年7月に修了した。第二期生は、令和3年7月18日より計107名(計4コース)が受講を開始し、内97名が令和4年3月に修了した。達成目標に対する受講有益度(受講満足度)は、第一期生が3.5(4件法)、第二期生が3.6(同)であった。

AIBETは、令和2年度に文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」の認定を受け、令和2年度より先行してプログラムを開講した、東北大学が提供する「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」及び熊本大学が提供する「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」について、令和4年度実施の第三期より厚生労働省「教育訓練給付金」の認定を受けた。

令和2年度設立の「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム」(30組織:大学等4組織、企業・自治体等26組織が加盟)において、令和3年6月23日にコンソーシアム運営委員会を開催し、多様なステークホルダーからプログラムの開発・改善に役立てる意見を得ることができた。

本事業運営拠点の取組として、令和4年2月19日に文部科学省及び一般社団法人日本経済団体連合会より後援を受け、本事業実施校(中核拠点4つ)が主催する「大学改革を担う実務家教員フェア2022(第3回)」を開催した。参加者数は延べ268名、受講者評価(満足度)は3.5(4件法)であった。

同じく運営拠点の取組として、大学等と本事業実施校(中核拠点4つ)が実施する実務家教員研修プログラムの受講者・修了者とのマッチングサポート(<https://matching-jitsumuka.jp/>)を構築・実装した。本サイトには、実務家教員研修プログラムの受講者・修了者が377名、採用側である大学等が32機関登録した。このほか、国立研究開発法人科学技術振興機構(略称JST)と連携し、大学関係者に広く認知されている「research map」及び「JREC-IN」を活用した仕組みづくりについて継続して協議した。

産学連携により、知識集約型社会に対応した大学改革に貢献する「教育イノベーター」の育成を推進し、経団連からの協力も得られるなど、社会的な意義と認知度の高い取組として成果を挙げている。

(9) 大学教育イノベーション日本 (HEIJ) を通じた他機関との連携

国公立の設置形態の区別なく大学教育改革に取り組む 15 組織 (13 大学 14 組織及び 1 コンソーシアム) が加盟する「大学教育イノベーション日本 (HEIJ)」に参画しており, 令和 3 年 10 月 22 日開催「第 5 回 大学教育イノベーションフォーラムー若手からみた大学教育と FD・SD の未来ー」に参加した。

(3)入試センター

使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入学共通テストや一般選抜をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・国の高大接続改革における多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO入試を定員の30%に拡大する方針に基づき、令和3年度入試でKPIである入学定員比30%を達成した(31.6%)。
- ・入試企画・広報委員会のワーキング・グループ及びAO入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化(AO入試Ⅱ期・Ⅲ期の実施本部体制拡充、入試関連FDの実施、入試ミス防止支援等)を進めた。
- ・工学部及び医学部保健学科の入試関連委員会に加わり、AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、各学部のAO入試等に関し相談対応・助言、また、国際学士コースの入試に関して国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。
- ・感染症対策のガイドラインや高校調査等に基づき、令和4年度(2022年度)入試におけるコロナ対応(コロナ感染予防対策、追試験実施)を行った。
- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連業務の活動を行った。例年の活動(『大学案内』編集等)に加え、コロナ禍の下での広報活動のオンライン化(オンライン入試説明会、オンライン進学説明会・相談会、オンラインオープンキャンパス等)の対応を行った。
- ・オンラインによる広報活動の効果を検証するために、入学者へのアンケートの項目を検討・改定の上、実施し、入学者の動向を分析。回収率は98.7%
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)はオンラインで実施され、5件の研究発表を行った。
- ・大学入試研究ジャーナルに4本、機構紀要に3本の論文が掲載された。
- ・会長及び事務局を務める国立大学アドミッションセンター連絡会議の総会を実施した。第34回高等教育フォーラム(後述)を同会議のシンポジウムとして共催した。国立大学間の連携・情報交換の場を提供した。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。
- ・高大接続改革やコロナ禍の下での入試に関する調査研究を実施した。
- ・一昨年発刊の東北大学大学入試研究シリーズ第4巻の発行を監修した。前年度実施の第32回東北大学高等教育フォーラムの成果を第5巻として刊行した。
- ・シンポジウム(第34回東北大学高等教育フォーラム)を開催した。
- ・科研費基盤A「コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的・大学入試研究」、科研費挑戦的研究(開拓)『大学入試学』基盤形成への挑戦——真正な評価と実現可能性の両立に向けて——」を継続して実施し、ウェブサイトを通じて研究成果を公開するなど、大学入試研究の成果発信に努めた。
- ・新たに科研費基盤B(「主体性」評価支援を目的としたCAT方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発)、若手研究(過去問データベースとAIを活用した大学入試個別学力試験作題支援システムの構築)を獲得し、研究を開始した。

- (2) 入学者選抜の実施(入試実施本部、入試企画・広報委員会、入試実施委員会構成員)

- ・入試実施本部(大学入学共通テスト、一般選抜前期・後期日程)、作題班支援、共通テスト試験監督等
- ・入学試験審議会、入試実施委員会、入試企画・広報委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施(志願者926名、合格者269名) 前年比志願者179名減
- ・AO入試Ⅲ期実施(志願者756名、合格者362名) 前年比志願者109名減
- ・医学部地域枠入試(志願者17名、合格者9名)
- ・科学オリンピック入試実施(志願者2名、合格者0名)

- ・国際バカロレア入試実施（志願者 2 名，合格者 1 名）
- ・帰国生徒入試実施（志願者 15 名，合格者 6 名）
- ・私費外国人留学生入試実施（志願者 65 名，合格者 18 名） 前年比志願者 2 名増
- ・グローバル入試Ⅰ期実施（志願者 3 名，合格者 1 名）
- ・グローバル入試Ⅱ期実施（志願者 6 名，合格者 1 名）
- ・一般選抜（前期日程）実施（志願者 4,392 名，合格者 1,733 名） 前年比志願者 107 名減
- ・一般選抜（後期日程）実施（志願者 1,332 名，合格者 117 名） 前年比志願者 81 名増

(3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催，高校等主催の説明会・相談会への参加，高校訪問・高校教員との懇談会，冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供，学内への情報提供）

- ・オンライン入試説明会（高校教員対象）を 20 回実施 参加者 229 名（34 都道府県 202 校）
 - ・入試説明会仙台会場（高校教員対象）を 6 月 29 日に完全予約制*で開催。参加者 142 名 57 校）
 - ・オンライン進学説明会（受験生・父兄対象）ウェブサイト開設 訪問者 27,433 名
 - ・対面型進学説明会・相談会（受験生・父兄対象）は上記のとおりオンラインで代替*（R1 年実績 3,010 名）
 - ・民間業者等開催のオンライン説明会 2 件
 - ・高校訪問 5 校（入試センター教員分）
 - ・東北大学案内の作成 35,000 部発行
 - ・入試センターウェブサイトによる情報の発信
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第 34 回高等教育フォーラム（5 月 17 日）「検証 コロナ禍の下での大学入試」をオンラインと対面のハイブリッド方式で実施。参加者 529 名（オンライン参加 472 名 来場参加 57 名）（前年比 154 名増）
 - ・オンラインオープンキャンパス ウェブサイト開設 訪問者 158,256 名（R2 年実績 76,278 名）
 - ・対面型オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
- ※R3 年度入学者参加率 53%
- ・高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 7 件（対面型 4 件 オンライン 3 件）

(4)言語・文化教育センター

使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語4技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

事業内容及び活動状況

(1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

- 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。
- 「英語」科目に関しては、2018年11月に学務審議会内に「英語教育改革推進WG」が設置され、2019年度にかけ、英語教科部会と連携し、全学英語教育体制の見直しに取り組んだ。その結果、1年次学生対象科目である「英語A」及び「英語B」については、2020年度から新しいカリキュラムのもとで授業が実施されている。2年次学生対象科目である「英語C」については、2021年度から新しいカリキュラムのもとで授業が実施されることから、外国語委員会の下に設置された「英語教育改革実施WG」や英語教科部会と連携し、「英語A」と「英語B」も改めて含めた形でカリキュラムの見直しを行った。その結果、全学教育の「英語」科目の授業は、2021年度からすべて新しいカリキュラムのもとで実施されている。また、2019年度以降においては、新しいカリキュラムへの移行を円滑に行うための説明会の開催、新しいカリキュラムに合わせたシラバスサンプルの準備、教授用資料や教材（特にオンライン教材）の作成など、関連する作業を継続的に行っている。
- 2019年7月に日本の大学で初めて米国ETS（Educational Testing Service）と包括協定を結び、英語教育の実践と研究開発について協力を進めることとした。日本国内の窓口であるETS Japanとも協働しながら、各種の提携や協働を推進しようとしているところである。
- 全学部の1年次学生を対象に実施されているTOEFL ITP®テストについて、特に新しいカリキュラムの効果の検証を主な目的として、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。2021年度においても、同様に分析を行い、2種類（制限なしの公開用と関係教員のみ配付の部内用）の『実施報告書』を作成した。
- 2021年度から1～2年次学生対象の全学教育「英語」科目の授業がすべて新しいカリキュラムのもとで実施されることに伴い、英語学習ハンドブック *Pathways to Academic English* を大幅に改定し、*Pathways to Academic English 2021* として、2021年度新入生全員に販売した。また、2022年度入学生用には、小幅な改訂作業を行い、*Pathways to Academic English 3rd Edition* として、東北大学出版会から発行した。
- 2020年度後半から全学教育全体の改革が進められてきた。この改革では、カリキュラムのみならず、運営体制なども見直された。その一貫として科目ごとに企画運営責任部局が設けられることになり、言語科目類「英語」「初修語」「日本語」科目については高度教養教育・学生支援機構（実質的には、言語・文化教育センター）が責任部局になった。さらに、新体制への移行を円滑に進めるため科目ごとに科目委員会準備部会が設置され、英語・初修語・日本語の各準備部会については言語・文化教育センターの教員が委員のほとんどを占めることになった。この準備部会では、新しい授業科目の内容やクラス数などの検討、2022年度及び2023年度の時間割帯の検討、2022年度時間割編成（教員配置）とそれに伴う新規採用非常勤講師の公募と審査、シラバス見本の準備や教員FDの開催、教員及び学生用配付資料（『全学教育科目履修の手引』や年度当初に配付または掲示する資料など）の作成など、新しいカリキュラムのもとで2022年度を迎えるための膨大な作業を行ったことに加え、資格取得関係での文部科学省への申請など関連する作業を行った。

- 8月28日に第60回 JACET 国際大会にて東北大学の一般学術目的の英語教育 (EGAP) カリキュラムに関する発表を行った。
- 3月13日に ATEM 東日本支部大会にて東北大学で実践しているインタラクティブビデオを使用したアカデミックスピーキング学習法を紹介した。
- フランス語では、毎年フランス語検定の受験を推奨しているが、2021年度では受験者数がのべ239名と過去最高を突破した。また「展開フランス語Ⅲ・Ⅳ」を受講している文学部2年の学生が、全国で最高得点を取り、文部科学大臣賞を受賞した。
- 2021年11月に DELE (スペイン語能力検定試験) を東北で唯一実施し、多くの受講生を得た。
- 中国語では、本学及び国内他大学各言語における事例に鑑み、中国語検定試験による単位認定制度の整備に向けて取り組んでいる。
- 日本語教育では、オンライン授業方法及び評価方法の開発を進め、外国語教授法を学ぶ大学院生との交流を授業に組み込むなど、学習意欲の向上につながる活動を実践している。

(2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

- 外国人留学生等一般課程を企画・運営し、のべ約588名が受講している。
- 外国人留学生日本語研修コース(定員:各学期合わせて30名)を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 日本語・日本文化研修留学生プログラム(定員10名)を文学部と共同で企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。
- 短期留学受入プログラム JYPE (理系), COLABS (理系大学院), IPLA (文系) の日本語コースを企画・運営している。
- 留学生就職促進事業「DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラム」の日本語カリキュラムを企画・運営している。

(3) e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

- 2020年度入学生から BYOD 環境に移行していることから、それに合わせた e-learning 環境の整備について検討を開始している。
- TOEFL ITP・iBT®テスト関連の教材を入手し、来年度の2年次学生対象科目である「英語 III」に e-ラーニングシステムを導入できるよう、TOEFL ITP から iBT に繋がる EGAP 教育のための運営管理体制構築にとって必要な教材の検討・開発を行うことができた。
- スペイン語では、ウィズ・ポストコロナに対応するためにオンライン・対面授業・ハイブリッドのいずれにも対応可能なオンライン教材の開発を逐次進めている。

(4) 外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

- 「多読」については、2015年度から補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。2017年度は多様な学問領域における入門書にあたる図書を精選して整備することで、専門科目の内容を英語で学ぶ環境を作った。「英語」科目の新しいカリキュラムのもとの有効な活用については、その方法を模索しているところである。
- オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間を確保するよう努めている。
- フランス語では、ゴンクール賞日本委員会、アンスティチュフランセ東京、在日フランス大使館、本学文学研究科などと連携し、教員及び学生が「日本の学生が選ぶゴンクール賞」に参加した。ゴンクール賞はフランスで最も権威ある文学賞だが、日本の学生が選ぶゴンクール賞が2021年度より新たに創設された。本学からは全学教育のフランス語を受講している14名の学生が選考委員(うち1名は北海道・東北地区代表)となり、言語文化教育センターの教員2名も運営委員を務めた。2021年秋より半年間、週2回読書会を開催し、最終候補に選ばれた小説4作品をフランス語で読んだ。3月29日にアンスティチュフランセ東京で行われた最終討論を経て、第1回の受賞作を決定した。
- 中国語は、ウィズコロナに対応した効果的な学習環境の構築を目指して、ICT活用によるオンデマンド

型授業、Microlearning 型のスマホ利用の復習、及び対話型対面授業からなるブレンディッドラーニングを設計し実践した。さらに、ポストコロナ時代の教育を見据え、オンライン学習と対面学習を融合した新たなブレンディッドラーニングの開発に取り組み始めた。

- 中国語は、遠隔でも学生がコミュニケーションの勉強ができるように、音声付パワーポイントスライドを細かい工夫を入れて作成した。また、リアルタイム型オンライン授業では、ペアで会話したり挨拶したりする場面を多く設け、授業に参加する雰囲気作りを心がけた。

- (5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上させるためのプログラム開発を推進する。

2021年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。

- 7月に第4回 J-CLIL 東北支部学会をオンラインで開催した。
- 2021年11月13日に京都外国語大学主催で行われた「第3回全日本学生フランス語プレゼンテーション大会」に本学から2名の学生が参加し、うち「展開フランス語Ⅲ・Ⅳ」を受講している文学部3年の学生が、準優勝に輝いた。
- 2022年3月4日に「東北大学プルリリングル・シンポジウム」を文学部の協力の下、オンラインで開催した。
- 2022年度に実装される「東北大学プルリリングル・スタディーズ・プログラム (TU Plus)」の企画・運営に携わる準備を行った。
- 韓国文化をより深く理解させるために「(Zoom) 日本人の韓国文化の享受に関する調査発表会」(発表内容:「長期享受者が感じる韓国文化の魅力と違和感」、「接触経験による韓国文化理解の特徴」、「コロナ禍での日韓交流」、「韓国文化の受容とその変化」、「韓国文化と韓国語の関わり」、「渡韓経験と自文化」)を実施した。(2021年12月17日)

- (6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

○ グローバルラーニングセンターと協力し、平成26年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム (SAP) を実施するなど Native 教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAP プログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。

- 日本人学生と留学生との共修授業への参画など、グローバルラーニングセンターでの英語教育活動への協力と推進を図っている。

○ グローバルラーニングセンター及びモンタナ大学と連携し、東北大学生のための特別開発 ONLINE プログラム「Virtual Exchange Program」を実施 (2021年9月14日～9月28日)。事前研修 (7月17日) と事後研修 (9月29日) も含め、英語技能やプレゼンテーションスキル、環境問題を英語で学び、モンタナ大学の学生とオンライン上で交流できる機会を設けた。

○ グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等一般課程 (日本語) の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。2021年度は、34クラスの国際共修ゼミクラスを、オンライン形式・ハイブリッド形式で開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

- 2022年2月4日から17日にかけて、スペインとの Faculty Led プログラム (オンライン) を開催した。

(5)グローバルラーニングセンター

使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進め，本学のプレゼンスの向上を図る。

事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施し，本学のプレゼンスの向上を図る。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，ニューノーマル時代に即したオンライン・デジタル媒体を含めて，グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

欧米を中心に交換留学を一部再開し，約 40 名の学生を派遣した。APRU を中心にオンラインデジタル教育交流等を引き続き積極的に推進した。

海外拠点の整備について，バンコクの海外代表事務所，ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センター，その他，これまで関係を構築したインドネシア等の東南アジアの進学校において，オンライン教育交流プログラムの実施や留学生のオンラインリクルート等，バーチャルな取り組みを実施した。研究，教育，管理のそれぞれの分野で，ワシントン大学と東北大学間の国際連携および産学官連携の構築・発展の拠点となる，ワシントン大学東北大学代表事務所（University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)）を基礎とし，オンラインでワシントン大学・東北大学の教員・学生・事務員が AOS を通じて交流した。2019 年 9 月に大野総長と Cauce ワシントン大学総長との間で合意した，今後の学術交流の更なる発展に寄与するようワシントン大学総長の本学訪問の準備を行った。さらに，研究テーマも材料，土木，航空，機械，流体，災害，看護と幅広く育ち，オンライン交流を深め，国際共著論文も着実に出版され，本学のプレゼンスの向上の一端を果たした。これらの成果を踏まえて，2022 年 4 月にコロナ禍によりオンラインでの開催となったが，大野総長と Cauce ワシントン大学総長の間で AOS に関する延長された協定への調印が行われる運びとなり，米国をはじめとする世界との産学官連携事業の今後のより一層の発展が期待される。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援（学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等）を充実する。

令和 2 年度より実施している「東北大学 Be Global プロジェクト」（コロナ禍にあって物理的な移動が制限される中において，オンラインによる国際教育の拡張を立案・実施）を継続し，ニューノーマル時代の新たな国際教育のモデルを以下のように構築している。

英語による学士課程「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等においてグローバルラーニングセンターが主導的役割を果たしてきたが，新たに 8 名の国費留学生配置枠を得，3 コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。オンラインプロモーション等を通じた国際学士コースの広報の結果，初めてのオンライン入試の実施にもかかわらず優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースの教員を対象としたアンケート結果を基に，英語での教育力の向上を支援する PD プログラム，種々の問題バンクを含む教育プラットフォームを開発し，教育指導・学生生活支援に関する改善を引き続き図った。

JYPE や IPLA プログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。人文社会科学系の IPLA では引き続きオンラインで学生を受け入れ，チューターや学生支援団体 IPLANET 協力のもと対面同様の支援も展開した。大学院生を対象にした COLABS プログラムの受入れに際し事前内諾制度を導入し，世界各地から優秀な大学院生を本学の先進的な研究環境により合致した交換留学生としてオンライン環境下においても受け入れる態勢を整えた。また，日本語ショートプログラム (TUJP) は，令和 2 年度に 2 回（参加者計 35 名），

令和3年度には5回(計51名)オンラインで開催した。さらに、環太平洋地域の先端的大学によって組織される国際大学間コンソーシアム「環太平洋大学協会(APRU)」の実施する、オンライン交換留学による単位互換プログラム「Virtual Student Exchange: VSE」にも引き続き参画した。英語で開講する全学教育科目を20科目提供し、51名がAPRU加盟大学より履修登録をした。本学が提供した課外オンラインセミナー・イベントには令和3年度には計248名がAPRU加盟大学より参加するなど正課内外で活発に学生交流を継続させた。令和3年度からは「東アジア研究型大学協会(AEARU)」の実施する「Global Learning Initiatives Program: GLIP」にも参画し、4科目を提供し、計52名の履修申込があった。

海外で待機する外国人留学生のためのオンライン教育プラットフォーム:JV-Campus 特設ページ「留学生応援特別ボックス」(文部科学省が主導)へ開設当初より積極的に参画し、「本学や日本での生活」「本学留学生とのコミュニケーションプログラム(2月~3月実施予定)」「渡日できない留学生への応援動画(2月~3月予定)」などの動画コンテンツ掲載を行い、本学のみならず未渡日留学生全般への支援に繋がることとなった。

留学生に対するきめ細やかな支援をより一層充実するため、学生スタッフによるピアサポート「留学生ヘルプデスク」を令和2年6月にオンライン化し、情報を入手しにくく不安を抱える外国人留学生・研究者に対し、メール等により迅速に対応できる体制を構築した。令和3年4月以降は、Google Classroom等を活用したリアルタイムでの質問対応や留学生向けの生活適応支援プログラム「Welcome Week」セッションシリーズを新たにオンラインで開始するなど、より多様な留学生支援を展開した。

これらのプログラムにおいて、グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務をオンラインを含めて行っている。また、本学学生による支援団体を統括し、学生による留学生支援の拡大を図っている。留学生支援は学生相談所やキャリア支援センターなど機構内の組織との連携も図っている。特に、学生相談・特別支援センターとの密な連携により、特別支援や精神的な支援等を必要とする学生の支援にあたった。令和3年度通年で外国人留学生数はコロナ禍により交換留学生受入プログラムの学生の入国が制限された中でもおよそ3,000人を確保し、令和2年(2020年)度の達成目標である3,000人規模を維持することができた。

- (3) 国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学生支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

海外への渡航が不可能となる中、オンライン留学プラットフォームを構築し、海外研修と同等の学習効果を得ることのできるオンライン海外研修プログラム等を海外の協定校等と連携のうえ開発し、合計204名の学生にオンライン留学の機会を提供した。また、本学が加盟する大学間コンソーシアム(APRU)の加盟校と連携し、加盟校において開講されている通常の授業をオンライン履修した。本学入学予定者を対象とした入学前海外研修をオンライン形式で実施し令和3年度は3つのプログラム87名が参加した。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行い、交換留学予定者に対して、留学準備教育を行っている。グローバルラーニングセンターが主催する中長期(セメスター単位)の大学間学術交流協定に基づく留学申請者数は、コロナ禍における渡航制限の中にあっても、令和2年度は94名、令和3年度は81名が申し込み応募しておりコロナ禍にあっても留学に対するモチベーションは低下していない(平成30年度84名、令和元年度74名)。令和3年度には海外への渡航制限を一部緩和し、42名が上記制度を利用し海外へ渡航した。

国際共同教育、ダブルディグリープログラムなどの学位取得を目指す学生に対するオンライン留学オリエンテーション、オンライン修学及び帰国支援等を行うとともにJASSOの奨学金の獲得による経済的な支援を実施した。さらに、国際共同大学院との連携を図り、国際共同研究・教育の充実に努めた。

昨年度に引き続き、留学経験者で組織されるグローバルキャンパスサポーターが中心となり、留学啓発を目的とした様々なイベントを催し、留学に関する情報提供を行った。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。正課授業、海外研鑽等を包括的且つ有機的に組み合わせ、グローバル人材としての基盤を養成する東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)を継続して実施し、グローバル社会や異文化における活動に必要な高いコミュニケーション力、国際教養力、行動力を有するグローバルリーダー認定

者数は開始以来 170 名（2022 年 3 月末時点）に上り、多くのグローバルリーダーを輩出している。グローバルリーダーに認定された者を TGL Community Ambassador (TGLCA) として 5 名任命（計 12 名）することで、学内外における TGL プログラムの認知度の向上や本学学生等のグローバル意識の養成を推進するとともに、グローバルリーダーを目指す後輩学生へのメンター活動、ネットワーキングイベント、TGL プログラム説明会等の学生主体のイベントを令和 3 年度は 13 回実施した。グローバル人材の育成に直結する授業科目を集結した国際教育科目群の授業をグローバル人材の素養を育成に資する学習環境を提供した。国際共修のオンライン化を推進し「国際共修サポーター」を新設し教員へのサポートを強化した。

本学が国内最大規模（令和 3 年度国際共修ゼミ 57 クラス）の国際共修の実績・強みを活かし、令和 3 年度から本学（幹事校）のほか、福島大・東京外国語大・信州大・大阪大・神戸大の国内連携大学とともに、それぞれの大学が持つ国際共修授業を共有し国内外へ横展開、発信するプロジェクト「国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICL プロジェクト）」を開始した。本プロジェクトは、文部科学省が SGU 事業内で新たに開始した「大学の国際化促進フォーラム事業」によるプロジェクトとして選定されている。初年度となる令和 3 年度には国内連携大学と「ICL 単位互換協定」を締結し、令和 4 年度から国内連携大学間で単位互換が可能な仕組みを整えた。本学の授業を他大学の大学生（国内学生、留学生）と共有することが可能になり、オープンでボーダレスなキャンパス環境が第 4 期中期目標期間に向けてさらに整備された。海外留学時に必要となる TOEFL スコアと国際的な教育・研究環境下で十分に活動できる英語運用能力の養成を目的とした課外英語授業（東北大学イングリッシュアカデミー：TEA）を実施した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会（TUFSA）等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員と様々なウェビナー等を通して積極的に情報交換するとともに国際ネットワークの維持及び拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページに Be Global プロジェクトのホームページを更新し、グローバルキャンパスに関する国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々へのオンラインを含めた広報活動を行っている。

(6)学際融合教育推進センター

使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学，人文科学，社会科学，スポーツ），分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 全学教育改革対応委員会委員として、改革検討タスク・フォース最終報告書にもとづき、新しい全学教育科目カリキュラム実施に向けた調整作業全般をおこなった。また、全学教育改革推進会議メンバーとして、担当コマ数削減と分属教員問題の解決に貢献した。
2. 全学教育改革検討タスクフォース最終報告書に基づき、新しいカリキュラムに部局横断的な教育プログラムである「学問論群」を、さらに高年次教養教育として「現代素養科目・地球規模課題」を策定した。
3. 全学教育改革検討タスクフォース最終報告書に基づき、ティーチングフェローやベーシック TA といった新しい枠組み導入した新しい TA 制度の設計・実施に貢献した。あわせて東北大学の TA 制度 (<https://www.ihe.tohoku.ac.jp/ta/>) を制作・公開した。
4. 第 10 回教養教育特別セミナー「パンデミックの時代を生きる」及び ILAS コロキウム 2021（総長特命教授合同講義の後継企画）「研究がおもしろい！-未踏への挑戦-」を Hybrid 型で実施した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 部局横断型の自然科学総合実験，文科系のための自然科学総合実験，英語による自然科学総合実験（国際学士コース）を実施した。受講者はそれぞれ 1,603 名，45 名，30 名を受け入れた。コロナ禍に対応し，対面とオンラインのハイブリッド形式の理科実験を実施し，Google Classroom をもちいて教材管理・レポート授受・質問対応をおこなった。3,000 件以上の受講生からの質問とそれへの教員からの回答が可能となった。学生による授業評価アンケートの総合評価は過去最高であった。国際学士コースの授業では，本国に入学できない留学生に対してもホームページや Google Classroom を利用してリモートで実験教材を配信した。文科系のための自然科学総合実験は，完全対面での実験を行い，科学リテラシーを持つ人文社会人材の育成に貢献した。
2. 新入生 2,400 名を対象とした新しい教育科目「学問論」における科学技術社会論や研究倫理教材の開発をおこなうとともに，「学問論」のウェブサイト開発をおこなった。
3. 高年次教養教育科目として開講している「みせる学び」を，オンライン形式の授業で実施した。Google Meet を利用しリアルタイムで授業ガイダンスや授業説明を，オンラインホワイトボード（Miro）を利用してポスター編集を実施することで，時間割に縛られない協働学修を可能にした。これにより，キャンパス移動も必要なく，受講生の好きな時間に，複数人で学習できる環境を構築した。
4. 基幹科目「科学と情報」のビッグヒストリーにおいて，Meet のアウトブレイクルーム機能とオンラインホワイトボード Miro を利用して，文科系・理科系学部の学生が協同して，地球温暖化に抗わない経済成長の方法についてのポスターを制作し，それをリアルタイムオンライン形式での発表会を実施した。また展開ゼミ「遊学」では，学部学生が自分の専門分野とは異なるセミナーに参加して，その知見をオンラインホワイトボードによって受講者全員で共有，自分の興味や問題意識の本質に向き合うという新たな学際融合型授業を実施した。
5. 高等大学院挑戦的研究支援プログラムの必修科目（トランスファラブルスキル研修）を開発した（受講者 504 名）

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

令和 2 年度学務審議会に設置された「全学教育改革対応委員会」において，1 名の所属教員が委員会メンバーとして改革に従事し，新しいカリキュラムの構築に貢献した。

(7)学習支援センター

使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA Student Learning Adviser とは本学学生による学生のための学習支援スタッフである。学部生の授業時間外の教科学修や英語学習、留学生の日本語学習、及び学際的なテーマに関する協同学習実践への支援を行っている。2021年度のSLA数は、前期47名、後期は44名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計18名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②ライティング支援、③英会話、④日本語会話学習支援、⑤学習イベント企画、⑥学習情報発信・広報活動という6つに大きく分けられる。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大により、Web会議システムとGoogle Workspace for Educationを活用しながら、感染拡大収束期に対面も併用する形で、SLAサポート窓口支援の活動を行った。2020年度以降、多くの相談がオンラインで実施され、かつ事前予約制となった点は2019年度以前と異なるが、当該年度はオンラインによる支援にも慣れ、様々な工夫を凝らしながら体制整備を進めることができた。

結果、2021年度の全体の利用者数は延べ1,670名、1活動日あたりの利用者数は12.8名であった。

①理系科目支援

2021年度は、昨年度と比較すると利用者数が増加し、特に数学の相談対応件数が多かった。理系科目全体では、2021年度の利用者数が延べ508名、実数では194名であった。昨年度比での傾向としては、相談内容の幅が広がった。当該科目の学修の初歩でつまづいている学生から発展的な内容の学修を自発的に進めている学生の相談まで、多様な内容での相談があった。個別相談以外にも、積極的な情報発信を行った。物理担当SLAにより、実験レポートの書き方を学ぶワークショップを開発・実施した。実施後にはGoogle classroomを活用し、その内容をオンデマンド教材（全3回）として学生に公開した。

②ライティング支援

年間を通してオンライン支援のみで活動した。ライティング支援の2021年度の窓口利用者は、延べ182名、実数で99名であった。前期は国内学生（主に学部1年生）の利用が多く、後期は留学生による日本語チェックを中心とした利用が多数を占めた。留学生利用者数は延べ73名だった。昨年度と比べると、国内学生（学部1～2年生）の利用が大きく増加した。

例年実施してきたセミナー「レポート指南書入門ゼミ」については、セミナーとしては実施せず、専用のGoogle classroomを作成し、classroomのクラスコードを学生に周知する形で、オンデマンド教材（全5回）として学生に公開した。前期中、当該classroomには約340名の登録があった。

③英会話

SLAサポート窓口をオンライン化したことにより、2019年度以前は「英会話カフェ」を中心とした活動だったが、2020年度以降は「1on1」（個別対応）を中心としつつ、不定期に交流イベントを実施する形での活動となった。2021年度の英会話支援の利用者数は延べ503名、実数129名だった。延べ数では昨年度より増加し、実数では昨年度と同数となった。オンライン化以降、高年次学生や大学院生（留学生含む）等、川内キャンパス以外に通う学生の利用が増加した。相談内容の傾向としては、TOEFLや英検などの試験対策の相談が増加した。

④日本語会話（留学生対象）

年間を通してオンライン支援のみで活動した。2021年度の日本語支援（1on1）の利用者数は延べ228名、実数75名だった。利用者数で見ると昨年度比で減少しているが、担当SLAの減員により予約枠が3割ほど減ったためであり、予約枠は常時埋まっているような状況だった。利用者としては中国の留学生を中心としつつも、多様な地域・国の留学生の利用があった。所属学部・研究科や学年は多様で、多くが複数回利用となっている。海外からの利用（コロナウイルス感染拡大防止措置により未だ日本に入学できない

い留学生等)も相当数あった。2021年度は、留学生と国内学生の交流促進を目的とした「SLA文化カフェ」(90分)や、日本語に関する知識のインプットを支援するための「日本語ミニワークショップ」(30分)も複数回開催し、延べ121名の参加があった。

⑤学習イベント企画

2021年度は、哲学カフェ「かんがえるソファ」(哲学カフェ)開催を中心として活動を行った(平日の5限の時間帯を中心に各回90分で実施)。当該年度は、時事的なテーマを取り上げて参加者間で対話を行う「かんがえるソファ+ (プラス)」や、対話ではなく討議やディベートを行うことを目的とした「かんがえるソファD」という、新しいタイプのワークショップも開発・実施した。

⑥学習情報の発信および広報活動

2022年度の学部新入生に配布予定の『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021』を作成した。この冊子では、学習支援センターの利用案内や、大学で学ぶ上で役立つヒント等を紹介している。また、昨年度に新規作成した、留学生向けの『SLA SUPPORT GUIDE BOOK 2021 for international students』の改訂を行い、内容を充実させることができた。

(2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2021年度は、前年度に引き続き、SLA研修の大半をオンラインで実施した。全てのSLAを対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を開催した。これらの活動により期間を通じたSLAサポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中にはSLAの担当分野別に「部会」(担当別研修会)を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。その他にも、セメスター末には全SLAに対してアンケートやヒアリングを実施した。そのデータや日頃の教職員による観察から得た情報に基づいて課題を抽出し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討し、全体課題の精査を行った。理系科目担当SLAには、2月21日に北海道大学と、学習支援に従事する学生スタッフの合同研修をオンラインで実施した(詳細は後述)。

2021年度中は、外部の講師を招聘しての研修会やセミナーは開催しなかった。ただ、昨年度に実施したSLA研修「留学生が間違えやすい日本語と学習支援」(講師：関西国際大学の伊藤創先生、ご専門は日本語教育・言語学)の収録講義内容をSLAのためのオンデマンド教材として活用することができ、大変有意義であった。

(3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGLプログラム「グローバルゼミ」に対して、レポートの書き方についての出前授業1コマ(90分)を実施した(センター教員が担当、前期4クラス、後期2クラス)。今年度は、昨年度に作成していたライティングに関するオンデマンド教材を改訂し、内容をより一層充実させることができた。その他、化学については、SLA窓口の利用実態(相談内容や件数等)について、個人情報に配慮したうえで、科目委員会にフィードバックした。

(4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLAによる学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。今年度も、昨年度から引き続き、ほとんどがオンラインでの実施となった。哲学カフェ「かんがえるソファ」は、平日(曜日は不定)の5限の時間帯を中心に、各回90分、オンライン(Zoom利用)にて定期開催した。2021年度は特に「多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニングコミュニティの形成を戦略的に促進」することをセンターの重点目標に掲げていたため、留学生のための新規企画として、国内学生との交流を促進するための「SLA文化カフェ」を開発・実施した。

(5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの効果的な連携を継続できた。学外との学習支援ネットワークとしては、昨年度に引き続き、2月に北海道大学との合同研修を実施した。今年度はオンライン実施とし、SLA4名、北海道大学TA3名が参加した。理系科目支援に関するSLAと北海道大学TAとの情報共有や意見交換および交流を図った。

(8)キャリア支援センター

使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるように支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実を図る。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのライフ・キャリアデザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

全学教育におけるキャリア教育科目を、キャリア支援センターが実施する「キャリア支援プログラム」の一部に位置づけるとともに、科目間の体系的やアクティブに学ぶ機会を重視しながら整備を進めている。

令和3年度は、大学生生活、自己分析をテーマとした「ライフ・キャリアデザイン A」, 「同 B」, さらに授業時間外の活動を組み込んだ「同 D」, また社会・仕事を知ることがテーマとし、フィールドワークを取り入れた PBL 科目「フィールドワーク実践：地域とビジネス」, インターンシップを活用した授業科目「インターンシップ事前研修」と「インターンシップ実習」, および新聞社からの寄付講義としての展開ゼミ 2 科目, の合計 8 科目を開講し, 243 名が受講した。

また, 文学部専門科目「キャリアデザイン講座」「キャリア設計演習」の実施に協力した。

- (2) 部局と連携し、正課外としてのキャリア支援の改善・充実を図る。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、フェア、セミナー、ワークショップなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実を図る。

令和3年度は、セミナー19回（視聴・参加学生数 1,808 名、延べ 5,011 アクセス）、ワークショップ 26 回（参加学生数 165 名）などを実施した。新たに公務員志望者向けに公務員等業務説明会をオンラインで開催し、4 団体の説明に 160 名の学生が参加、22 名の学生が動画視聴した。また「夏の選考説明会フェア」（参加学生数 141 名）、「夏のインターンシップ・業界研究フェア」（6・7 月、参加学生数 914 名、参加企業団体 92 社）、冬の「インターンシップ・業界研究フェア」（11 月、参加学生数 1,040 名、参加企業団体 127 社）、「OBOG による業界仕事研究セミナー」（1 月、参加学生数 第 1 部 131 名、第 2 部 430 名、参加企業団体 34 社）を開催した。「キャリア就職フェア」（4 日間、参加企業団体 237 社）もオンラインで開催し、2,879 名の学生が参加した。個別相談はオンラインもしくはオンラインと対面の選択式で実施し、2,697 件に対応した（進路選択に関する相談 208 件、インターンシップに関する相談 499 件、就職に関する相談 1,750 件、公務員志望者向け相談 240 件）。

- (3) 研究科と連携・協力し、学部から大学院への選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

令和3年度は、2 度のキャリア支援連絡会議を通じて、各部局の担当者との意見・情報交換を行うとともに、学生生活支援審議会 FD に講師を派遣した。

また、教育学部・研究科、農学部・研究科、国際文化研究科などに講師を派遣し、学生を対象としたキャリア教育・支援プログラムを実施した。

- (4) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスによらず均等かつ速やかに提供するため、企業・団体等からの情報を蓄積するとともに、ホームページや SNS を活用した情報提供の充実を進めている。令和3年度の求人情報の受付件数は 735 件、インターンシップ募集の

受付件数は 178 件であった。

令和 3 年度は、『キャリアガイド 2022』を制作して全部局に配付するとともに、キャリア支援センターホームページからダウンロードできるように設定した。Twitter フォロワー数は 3,436 名であった。コロナ禍により、キャリア支援センターのオープンスペースの利用は断続的に休止を余儀なくされた。キャリア支援センターの PC 利用学生数は 50 名、書籍貸出件数は 333 件、電子書籍へのアクセス件数は 2,087 件、令和 2 年度末に導入したオンライン面談ブースの利用者数は 55 人であった。また当初予定していた保護者向けセミナーは萩友会からの協力要請により東北大学懇談会の一部として実施し、キャリア支援セミナーには 270 名が参加した。また個別相談では 7 組の保護者の相談に対応した。保護者向けにはその講演内容を含む冊子を作成し、ダウンロードできるようにしている。なお、首都圏での就職活動やインターンシップへの応募・参加を支援するための取り組みとして、新宿ラウンジ（民間企業が運営）を学生の利用に供した。新宿ラウンジ利用者数は延べ 10 名であった。

- (5) キャリア支援に関する専門的知見を高め、特にキャリア支援担当者としての資質を高める専門性開発を重視する。

令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職員の講習会等への派遣は見合わせることにした。令和 3 年度第 2 回学生生活支援審議会 FD に講師を派遣した。

- (6) 学内外の組織・機関と連携し、日本での就業を希望する外国人留学生に対する進路・就職支援を進める。日本語や就業に必要とされるスキル・能力の形成支援を強化する。

平成 29 年度に採択された文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」において「東北イノベーション人材育成プログラム (DATEntre)」の企画開発、および実施にあたった。キャリア支援センターでは、本プログラムのために構築された東北イノベーション人材育成コンソーシアムの事務局を務めるとともに、学内外の組織・機関と連携しながらプログラムを推進している。令和 3 年度には、コンソーシアム運営会議を 4 回、教務委員会を 5 回、部会長会議を 4 回開催した。また、専門委員を交えて事業評価委員会を実施した。

令和 3 年度には、コンソーシアムを構成する 7 教育機関（東北大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城学院女子大学・東北福祉大学・宮城大学・仙台高等専門学校）から第 8 期生として 38 名、第 9 期生として 15 名の留学生が受講した。コンソーシアムとしてセミナーやフェア等を 29 回開催して 1,110 名の学生や企業 83 社が参加するとともに、個別相談 138 件に対応した。またキャリア支援センターでも 236 件の外国人留学生の個別相談に対応した。同年度には 3 名のプログラム正規修了者と 10 名の特別修了者を輩出した。なお、令和 3 年度は本委託事業の最終年度であり、自走化に向けて規約の改正等を含めた準備を進め、東北イノベーション人材育成コンソーシアムは令和 4 年度から新体制で再出発することとなった。

(9) 学生相談・特別支援センター

使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 相談援助活動

学生相談所及び特別支援室への来談学生（留学生を含む）への個別支援、教職員および家族へのコンサルテーション、来談者間の交流支援等

<学生相談所>

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。令和3年度の学生相談に対する個別支援：来談者数 760 名、対応回数 5,231 回（星陵キャンパスでの出張相談も含む）。
- 受付兼インターカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、居場所活動は原則として行わなかった。
- 平成26年12月から星陵地区での相談対応を開始しており、他キャンパスとの相談業務の連携を図っている。ただし、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、星陵キャンパスでの出張相談は対面相談ではなく、川内キャンパスにおいてオンラインで相談を行った（来談者数2名、相談回数10回）。
- 平成28年度より留学生に対する英語でのカウンセリングを開始しており、令和3年度は91名の留学生からの相談があった。

<特別支援室>

- 入試時に配慮申請のあった学生や、修学上のつまずき等を契機に来談した学生については個別支援を行うと同時に、修学上の合理的配慮が必要な場合、各部局の教職員や授業担当教員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。令和3年度：来談者140名、対応回数2,083回。
- 障害のある学生への修学支援、オープンキャンパス来談者等への情報保障や移動支援等のために、学生サポーターの募集・養成を行っている。新規・継続を含む令和3年度のサポーター登録者数：52名。
- 何らかの障害・疾患により修学上の困難を抱える学生のべ42名に対し、部局の教職員や授業担当者とは協働して合理的配慮の申請・協議・決定のサポートおよびフォローを行った。
- 受付兼インターカーの職員が、待合室や休養室を居場所として利用している学生に対してきめ細かく対応している。人混みが苦手な学生や授業に出にくさを感じている学生にとっては、修学・学生生活上の支えとなっている。ただし、令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から待合室や休養室の利用を停止した。

(2) 予防・教育・広報活動

授業の担当、全学FD・部局FDの担当、部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論－学生が会う学生生活の危機と予防」（第1クォーター）を開講した。
- 特別支援室のスタッフを中心に、障害学生支援に関する啓発および学生サポーター養成講座の受講機会を増やすことを目的に、全学教育科目の授業「障害者支援入門」（第2クォーター）をオンライン中心で開講した（受講学生24名）。
- 全学FDである学生生活支援審議会FDを年3～4回企画・実施している。令和3年度は、ハラスメントに関するテーマ（ハラスメント全学防止対策委員会との共催）、本学における学生支援の現状と課題に関するテーマ、発達障害など障害のある学生への支援に関するテーマ（学務審議会との共催）、コロナ禍におけ

る学生の理解と対応に関するテーマの計4回を実施した。加えて、部局FDにおいて、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関するテーマでの講演を実施した（令和3年度：合計13回）。

- 全新入生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（令和3年度：合計17回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（令和3年度：8回）。
- 学生がストレスコントロールや危機状況における対応を学ぶことができるように、啓発活動としてエンパワーメント・リーフレットを平成30年度からシリーズ化して作成している。令和3年度は、「コミュニケーションーキャッチボールの練習をしよう」、「SNSでの人間関係ー心地良く交流するためにー」、「セクシュアリティー自分たちのこと」の3種類（日本語版、英語版）を作成し、配布した。
- 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議への出席、理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室との随時の連絡・情報共有により、部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

(3) 調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

- 従来実施していた全学生対象調査について、その内容を学生の生活状況や不安・抑うつの状態、発達障害関連の困り感の把握を目的としたものに改訂して実施し、結果に応じて個別支援につなげた。令和3年度：9,981名からの回答を得（回収率55.5%）、そのうち生活状況における不適応ハイリスク群は1,125名、不安・抑うつに関する不適応ハイリスク群は575名、発達障害関連の困り感におけるハイリスク群は148名であった。
- 学生相談及び特別支援の実践に基づき、以下のようなテーマでの研究を行った。
 - ・学生相談と障害学生支援の連携に関する研究
 - ・工学系教員のコロナ禍における困難さと対処・工夫

(4) 大学としての学生支援施策および危機管理への貢献

学内委員会等を通じた提案、特別支援を含む学生支援に関する貢献、ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

- センター教員は、学生生活支援審議会、男女共同参画委員会、学生相談・特別支援連絡会議、キャリア支援連絡会議、差別解消推進委員会、ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
- ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、来談者への個別支援等を行っている。令和3年度：相談件数15件、対応回数144回。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。

(5) 他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演、学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

- 他大学からの依頼を受け、障害学生支援やハラスメント、教職員のメンタルヘルス、ピアサポーター養成に関する講演を実施した（令和3年度：5回）。また、第59回全国学生相談研修会の講師を務めた。
- 障害学生支援相互協力協議会を実施した。
- 障害学生支援に関するFDを、障害学生支援相互協力協議会参加校にも公開する形で開催した。
- 第80回、第81回みやぎ学生相談連絡協議会に参加した。
- 仙台学生相談事例研究会、在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会、障害学生支援東北地区大学間情報交換会、全国高等教育障害学生支援協議会オンライン大会2021大会に参加した。

(10)保健管理センター

使命

保健管理に関する専門的業務及び専門的調査，研究を行い，本学における学生の健康教育及び健康の保持，増進を図ることを目的とする。

事業内容及び活動状況

(1) 保健業務の実行についての企画，立案

- 1) 定期健康診断を企画・実施した。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，秋胸部X線検診）の企画・実施。
- 3) 健康科学セミナーを企画・実施した。（年4回開催）
- 4) 健康科学講演会を企画・実施した。（年1回開催）
- 5) 禁煙外来を企画・実施した。
- 6) 体調不良者に対する電話と対面による健康相談を行った。

(2) 保健管理についての専門的調査，研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣について調査を実施した。
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発を継続して行った。
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連について調査・解析を行った。
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究について継続して行った。

(3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を4回実施。（第1回：COVID19 ワクチン，変異株を中心に（木内喜孝），第2回：自殺予防対策（伊藤千裕），第3回：ヒトはなぜ太るのか？循環器内科医から見た糖尿病治療（佐藤公雄），第4回：電動歯ブラシの効用（北浩樹）。
- 2) 大学院教育「健康情報学」を担当した。
- 3) 健康科学講演会にて「COVID19 ワクチン，変異株を中心に」（木内喜孝）を講演した。

(4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を6，10，11月に実施（受診率63.1%），事後処置を必要とした学生は239名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。（1次受診者数11,383人）
- 2) 6月，12月に放射線取扱学生特殊健康診断を実施した。（特殊健康診断受診者数総計3,731人）
- 3) 健康診断証明書の発行（1,417通）

(5) 5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した（令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため歯科診療と栄養相談は一部閉診）。また，片平地区，星陵地区，青葉山地区，新青葉山地区の保健室は新型コロナウイルス感染症対策のため閉室とした。（総健康相談回数は1,987回）

(6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 新型コロナウイルス感染症，インフルエンザに関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮/課外活動における新型コロナウイルス感染症対策を行った。
- 3) 令和3年は継続して大学の対策班会議に参加し，新型コロナウイルス感染症対策を行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 健康診断を実施するにあたり以下の新型コロナウイルス感染症対策を行っている。
 - ・健康診断受診のための web 予約システムの構築
 - ・健康診断のための web 問診システムの構築
 - ・健康診断会場の換気を考慮した設営
 - ・健康診断システムの IT 化（身長体重測定の自動データ取得化，血圧測定の自動データ取得化，健康診断票にバーコードを導入し受付の時間短縮化）
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応を行った。
(各種入学試験，新入生オリエンテーションなど)

(11) 課外・ボランティア活動支援センター

使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

2021年度に本学学生の自主的なボランティア活動や課外活動の支援として、以下を実施した。

1. 東北大学生に対するボランティア活動への参加や震災学習の機会の提供

(1) ボランティア・フェアの開催

学生ボランティア団体やNPO等がブース形式で出展し、東北大学生にボランティア活動の紹介を行うボランティア・フェアを春に3日間開催した(75名参加)。

※これまでの実績

平成29年度：13日間(282名)、平成30年度：12日間(344名)、令和元年度：10日間(369名)、令和2年度：8日間(117名)

(2) 広報誌 Volunteer Seminar Journal の発行

東北大学生を対象として、ボランティア活動に関心を持ってもらうため Volunteer Seminar Journal Vol.16(1,000部)を4月1日に発刊した。

(3) ボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等の開催

2021年度は、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針」(以下、BCP)に基づいて対面活動の「原則禁止」状況が続くなかでスタートした。2021年5月上旬になるとBCPのレベルが一つ下がり、「団体活動再開時のボランティア活動計画書」の提出と学内専門家による確認を経た「許可」制度へと移行する。しかしながら2021年8月中旬にはBCPのレベルが再び上がり、県外活動は不可、県内活動も学内活動のみ許可する対応をとった。2021年9月中旬～10月上旬にかけてBCPのレベルは段階的に下がり、形式的な要件を満たせば許可する状況(実質的な届出制度)となった。ところが2022年1月中旬からは、学内の急速な感染拡大に伴って対面活動の「自粛」要請が提示され、再び規制の強まる状況が続いてきた。このような状況下で、本年度は学内で被災地やボランティア活動に関心を持つ学生を募集して行うボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等を、センター主催・共催の形式で開催した。ここに学生ボランティア団体独自の活動等、ボランティア活動実施届・ボランティア活動報告書が提出された活動をすべて合算すると、計56回、のべ395名の東北大学生がボランティア活動に参加している。

(4) ボランティア体験プログラムの開発・実施

ボランティアへの関心を持つ学生が、気軽にボランティアに参加するための機会を提供する試みとして、「ボランティア体験会」を開催した。多様なボランティア活動に取り組む学内外の11団体と連携して16プログラムを提供、のべ47名が参加した。

(5) ボランティア支援学生スタッフの育成、研修の実施

東北大学における学生の自発的なボランティア活動の活性化を推進するために、ボランティア支援学生スタッフ(愛称SCRUM)を育成した。具体的には、56名(前年度からの継続31名、新規25名)がスタッフ登録し、センターの業務に参画した。また学生スタッフのボランティア・コーディネーターとしての力量形成のため、集中会議(研修会)を4月・10月の計2回計画し、被災地ボランティアの課題やボランティア・リーダーとして必要な知識、新型コロナウイルス感染症で生じてきた課題などについて学ぶ機会を提供した。さらにセンターの実施事業や学生のボランティア活動に関する連絡・相談を行うミーティング(全体ミーティング、事務局ミーティング)を24回開催した。その他にも、震災伝承に関わるツアーを2回、学習会を4回行った。また、人権課題に関わる学習会を計4回開催し、人権に関わる知識の提供を行った。最後に、本年度は昨年に引き続き新入生に対するピアサポート(先輩による何でも相談)を企画し、27名に対して相談対応を行なった。

2. 学生ボランティア団体の支援

(1) ボランティア登録団体への支援

ボランティア団体登録制度を設け、12 の学生ボランティア団体が登録を行った。学生ボランティア団体の活動は東日本大震災以外の活動にも及んでおり、学内で多様なボランティア活動が広まっている。これらの団体に対しては、より良い活動を行えるよう、倉庫の提供や備品の貸し出し等を行った。また、学生ボランティア団体が利用できる助成金や学内外の関連イベント等の情報を随時提供した。

(2) 学生ボランティア団体連絡会議（井戸端会議）の開催

学生ボランティア団体の連絡会議（通称・井戸端会議）を計 8 回開催し、情報交換や課題の共有、コラボ企画の発案、助成金情報の提供等を行った。

(3) 課外・ボランティア活動研修会の開催

学生ボランティア団体および学生スタッフが安心・安全により良い活動を行うことを支援するために、課外・ボランティア活動研修会を計 3 回開催した。テーマとしては、「セルフケア・ストレスケア入門～ストレスと上手に付き合っていくためには？～」（11/21, 講師：認定 NPO 法人 Switch 小野彩香氏）, 「ハラスメント防止に役立つコミュニケーションスキル～自分も相手も大事にする主張の仕方～」（12/21, 講師：認定 NPO 法人 Switch 小野彩香氏）, 「強みを活かした活動づくり・団体運営～成果を生み出す組織をつくるために」（2/15, 講師：大谷大学准教授 赤澤清孝氏）を取り上げた。そのほかにも 2021 年度は、AA の企画による研修会を 2 回（「Slack・Drive 講習会」（6/1）, 「ファシリテーション研修会」（6/22））, 大学間合同の研修会を 1 回（「災害ボランティア講習会」（7/25, 講師：被災地 NGO 協働センター 頼政良太氏））開催している。

3. 学生ボランティア活動の成果の社会への発信

(1) オープンキャンパス・東北大学祭等での活動紹介

オープンキャンパスについては、オンライン中心の開催になったことから、特設ホームページ上での情報更新と新たなコンテンツの追加（「答えて学ぼう！ 震災・ボランティアクイズ」）を行なった。また 2021 年度は、東日本大震災の発災から 10 年という一つの節目を経たこともあり、「震災 10 年検証企画」と題して、被災地の歩みとそれにかかわる東北大学生ボランティアの活動（あるいは学生ボランティア活動視点）の成果について振り返り、発信する事業を 6 回開催した（「東北大学の学生ボランティア支援 10 年をふりかえる教員座談会」（5/4）, 「東日本大震災 10 年写真展」（7/6～7/16）, 「東北大学生のボランティア活動支援 10 年をふりかえる卒業生×現役生座談会」（7/11）, 「東北大学のボランティア活動 10 年をふりかえる地域×支援団体×大学生座談会」（10/2）, 「東北大学学生ボランティア支援 10 年検証シンポジウム」（12/5）, 「被災地で学生ボランティアに何ができるのか～東日本大震災 12 年目に考える～」(3/31)）。その他に、東北大学生協が企画する「ビジョン Navi」への参加（2 年連続）、東北大学が開催校となった日本 NPO 学会研究大会での取り組み紹介、仙台市が主催する「令和 3 年度防災シンポジウム・第 16 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム」でのポスター出典などを実施した。

(2) 紀要および広報誌の発刊

2020 年度末に刊行した『課外・ボランティア活動支援センター紀要』を HP 上で公開した。また、2021 年度版を 2022 年 3 月に発刊し、関係各所に配布した。また、広報誌『Volunteer Seminar Journal vol.16』を 2021 年 4 月に発刊し、新入生や学内・学外に向けた本学のボランティア活動の広報の一助とした。

(3) 助成金の取得と社会的評価

2021 年度は、ボランティア支援学生スタッフ SCRUM および SCRUM 参加団体において、大阪コミュニティ財団、東北地域づくり協会「みちのく国づくり支援事業」、赤い羽根共同募金「住民力・地域力・福祉力を高める支援事業」「with コロナ草の根応援助成」から助成を受けた。これは、各団体の活動が高い社会的評価を受けていることの証明である。

4. 課外活動の支援

(1) 学友会等と連携した課外活動支援

学友会体育部、文化部、学生支援課、総長特別補佐（学生支援担当）等の教職員が参加する定例会議を 8 回開催し、適宜情報交換を行った。

- (2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施

2021年度には、社会貢献型の体験学習（サービス・ラーニング）として、東日本大震災及びボランティア関係の授業を計6コマ開講あるいは開講協力し、152名が受講した。

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
共通科目	基礎ゼミ「被災地復興の課題に取り組む」	松原久	【1S】木5
共通科目	基礎ゼミ「共生社会に向けたボランティア活動 人権・多様性・エンパワメント」	高橋結	【1S】月4
共通科目	基礎ゼミ「東日本大震災から復興へー感じ、考え、議論するー」	邑本俊亮, 芳賀満, 松原久, 佐藤翔輔	【1S】月4
基幹科目	社会の構造 「東日本大震災からみる現代日本社会」	松原久, 高橋結	【2S・4S】月4
展開科目	課題解決型（PBL）演習A「被災地復興の課題に取り組む」	松原久, 高橋結	【2S・4S】木5
	展開ゼミ「復興」を学際的に考える」	邑本俊亮, 芳賀満, 松原久, 佐藤翔輔	【2S・4S】月3

- (3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

2021年度はコロナ禍による移動の制限や東日本大震災発災からの時間の経過から、コロナ禍以前まで多くあった交流・連携のパターン（県外の大学・高校が東日本大震災被災地の視察やボランティア活動等で訪問する際に、東北大学生ボランティアと交流・連携する活動）はゼロ件となった。県内中学・高校から依頼のあった職業体験、模擬講義等についても、コロナ禍の影響でゼロ件となっている。その一方でオンラインでの交流は広がった一年であった。

本年度にセンターが関与・仲介した交流の機会は、2020年7月豪雨の緊急支援をきっかけに誕生した「多大学プラットフォーム」の講習会、神戸大学学生震災救援隊との交流会、授業「課題解決型（PBL）演習A」によるふたば未来学園高校との交流の三件である。そのほかにも東北大学の学生ボランティア団体は、独自に他大学の学生等と連絡をとり交流を行なっている。

日時	交流・受け入れ先	主な内容	東北大学参加人数	交流先参加人数	備考
7/25	全国の大学生	被災地 NGO 協働センター 頼政良太氏の講演、グループワーク	3	24	企画名：「災害ボランティア講習会」 主催：多大学プラットフォーム、被災地に学ぶ会
12/19	神戸大学学生震災救援隊	丸森町五福谷地区での合同活動、語り部による講和、交流会	5	5	主催：被災地に学ぶ会
12/16, 1/13	福島県ふたば未来学園高校	高校生へのインタビュー	9	6	授業「課題解決型（PBL）演習A」の一環。NPO法人コースターと協働

Ⅲ 2021年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2021 5.17	第34回東北大学高等教育フォーラム「検証 コロナ禍の下での大学入試」 基調講演1：コロナ禍における個別大学の入学者選抜 ―令和3年度選抜を振り返って― 立脇 洋介（九州大学 准教授） 基調講演2：オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開 久保 沙織（東北大学 准教授） 現状報告1：臨時休校・分散登校の下での「学習の遅れ」の回復 近藤 明夫（東京都立戸山高等学校 主幹教諭） 現状報告2：オンラインの現場から―Web授業のメリット・デメリット― 多田 鉄人（須磨学園高等学校 教諭） 現状報告3：大学入試における教員としての資質・能力の評価 鈴木 雅之（横浜国立大学 准教授）	529
2	2021 6.19	学生への経済的支援の現状と課題 講師：小林 雅之（桜美林大学 総合研究機構 教授）	108
3	2021 8.7	日本の科学研究力失速の現状とその要因 講師：豊田 長康（鈴鹿医療科学大学 学長）	106
4	2021 9.4	公立大学政策とその将来像 講師：中田 晃（一般社団法人 公立大学協会事務局長）	65
5	2021 12.18	ポストコロナ時代と「大学」の〈時間〉 講師：吉見 俊哉（東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授）	148
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
6	2021 12.11 12.12 12.18 12.19	履修証明プログラム 「産学連携教育イノベーター育成プログラム」成果発表会	396
7	2022 2.19	「実務家教員育成プログラム」受講のススメ 大学改革を担う実務家教員フェア2022	102
8	2022 2.19	産学共同人材育成シンポジウム 「欧州に学ぶ教育と雇用の接続～産学連携による高度人材の育成に向けて～」 大学改革を担う実務家教員フェア2022 講演1：変貌するドイツの職業訓練制度：大学教育とのハイブリッド化 山内 麻理（国際経営学者、国際教養大学 客員教授、日興アセットマネジメント株式会社 取締役） 講演2：デンマークの高等教育における教育と職の連携 イノベーション基金と産学連携博士課程 鈴木 優美（Madogucci（マドグチ）代表） 講演3：英国にも新卒採用がある？：似て非なる教育・雇用接続からの示唆 大森 不二雄（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授） 提言1：企業向けリスキリング&学生向けインターンシップ協学講座 中田 真也（株式会社日立製作所 人財統括本部 グローバル戦略アライアンス部 部長） 提言2：産学往還によるT型人材大学院教育への変革 片山 琢磨（パナソニック株式会社 インダストリー社技術本部、センシングソリューション開発センター 所長）	166
学生支援力形成関連			
9	2021 11.15	令和3年度 IDE 大学セミナー「大卒キャリアと大学教育」 基調講演：ジョブ型雇用と大卒キャリア 濱口 桂一郎（労働政策研究・研修機構労働政策研究 所長） 講演1：コロナ禍の就活と大卒採用 ―東北地方から見たリアリティー― 多田 健一（株式会社リクルート 東北チームリーダー兼リクナビ 副編集長） 講演2：キャリアの多様化を踏まえた大学教育 ―キャリア教育の実践を例に― 浦坂 純子（同志社大学 社会学部教授） 講演3：大学から職業への移行 ―論点整理― 濱中 義隆（国立教育政策研究所高等教育研究部 総括研究官）	250

No.	開催日	事業名	参加者数
マネジメント力形成関連			
10	2021 7..31	SDP シリーズ 第1回 (2021年度) 大学等の連携・統合 講師：羽田 貴史 (広島大学・東北大学 名誉教授)	121
正午 PD 会			
11	2021 6.14	第81回正午PD会 「1年生に向けた二つの理科実験科目」 講師：富田 知志 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	20
12	2021 7.14	第82回正午PD会 「図形たちの空間—かたちの近さを測る—」 講師：中島 啓貴 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 助教)	17
13	2021 7.27	第83回正午PD会 「東北大学における障害学生支援 —発達障害を中心に—」 講師：長友 周悟 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師)	17
14	2021 10.14	第84回正午PD会 「コロナ禍において学生ボランティア活動をいかに支援するか？」 講師：松原 久 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任助教)	12
15	2021 10.26	第85回正午PD会 「東北大学における 学修成果の検証と課題」 講師：杉本 和弘 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授), 串本 剛 (同 准教授) 松河 秀哉 (同 講師)	48
16	2021 11.8	第86回正午PD会 「大学史研究と大学人材養成のあいだで」 講師：戸村 理 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	26
17	2021 11.30	第87回正午PD会 「東北大学におけるオンラインによる入試広報活動の実践と評価」 講師：久保 沙織 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	23
18	2021 12.8	第88回正午PD会 「新英語カリキュラム：一般学術目的の英語運用能力の育成を目指して」 講師：桜井 静 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	25
19	2021 12.15	第89回正午PD会 「高校から大学への橋渡し —入学前海外研修プログラムの取り組み—」 講師：林 聖太 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任助教)	27
その他			
20	2021 7.17	The Fourth J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 第4回 J-CLIL 東北支部大会 招待講演：CLIL implementation: balancing excellence, equity and equal opportunity in public schooling Elisa A. Hidalgo McCabe (Complutense University of Madrid) 基調講演：CLIL Teacher development in Spain and Japan - programmes and challenges María Dolores Pérez Murillo (Complutense University of Madrid, Madrid, Spain) Elena del Pozo (CRIF Las Acacias Teacher Training, Madrid, Spain) 土屋 慶子 (横浜市立大学 准教授)	62
21	2021 12.5	東北大学学生ボランティア支援10年検証シンポジウム 講演1：東日本大震災直後の学生ボランティア支援からみる意義・課題 米村 滋人 (東京大学 教授) 講演2：ボランティア活動支援からサービスラーニングへの展開 —学生支援・地域貢献・市民性教育の一体的展開とその意義・課題— 藤室 玲治 (被災地に学ぶ会代表) 講演3：正課・課外リンクによる被災者/被災地支援の継続とその意義・課題 松原 久 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 特任助教)	67
22	2022 2.27	地方創生と地方地域大学の国際化に関するオープンセミナー 講師：渡部 由紀 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構・准教授), Angela Yung Chi Hou (College of Education, National Chengchi University), Grace Lu (Graduate Institute of Education, Tunghai University), Hua-Chi Chuo (Higher Education Evaluation and Accreditation Council of Taiwan), 塚田 亜弥子 (東京大学教育学研究科 研究員)	93
23	2022 3.22	東北イノベーション人材育成コンソーシアム主催シンポジウム —外国人として日本で働くこと— 留学生から高度外国人材へ 基調講演：「出会いこそ、生きる力」 サヘル・ローズ	60

2. 刊行物一覧

発行年月	発行	刊行物名
2021.8	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構 要覧 2020
2021.9	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 85 第34回東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える[18]報告書 検証 コロナ禍の下での大学入試
2021.11	高度教養教育・学生支援機構 串本剛 編	高等教育ライブラリ 17 『学士課程教育のカリキュラム研究』
2022.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第8号 2022

3. 教員の活動（2021年4月～2022年3月の主な活動）

所属	職名	氏名	掲載ページ
機構長	東北大学理事・副学長	滝澤 博胤	-
副機構長	東北大学副学長/理学研究科教授	山口 昌弘	-
副機構長	教授	伊藤 千裕	45
教育評価分析センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉本 和弘	46
	副センター長/准教授	串本 剛	46
	講師	松河 秀哉	47
大学教育支援センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	中村 教博	48
	副センター長/准教授	戸村 理	49
	副センター長/准教授	山内 保典	50
	教授	大森 不二雄	51
	教授	杉本 和弘	(46)
	特任助教	赤池 美紀	51
入試センター (Admission Center)	センター長/理学研究科教授	長濱 裕幸	-
	副センター長/教授	倉元 直樹	51
	教授	宮本 友弘	54
	特任教授	檜田 豪利	56
	特任教授	秦野 進一	-
	特任教授	末永 仁	56
	准教授	久保 沙織	57
	助教	南 紅玉	59
言語・文化教育センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山口 昌弘	-
	副センター長/教授	北原 良夫	59
	副センター長/教授	菅谷 奈津恵	60
	教授	上原 聡	61
	教授	副島 健作	-
	教授	趙 秀敏 (チョウ・シュウビン)	63
	特任教授	岡田 毅	63
	准教授	竹林 修一	64
	准教授	桜井 静	65
	准教授	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	66
	准教授	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	66
	准教授	リチャード・メレス (Richard MERES)	67
	准教授	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	68
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	71
	准教授	深井 陽介	72
	准教授	田林 洋一	72
	准教授	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	73
	准教授	中村 渉	74
	准教授	林 雅子	75
	准教授	金 鉉 哲 (キム・ヒョンチョル)	76
	講師	トッド・エンスレン (Todd ENSLEN)	-
	講師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	-
	講師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	-
	講師	中村 佐知子	77
	講師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	-
	講師	遠藤 スサンネ (Susanne ENDO)	77

所属	職名	氏名	掲載ページ
	講師	高橋 美穂	78
	講師	クロエ・ベレック (Chloé BELLEC)	78
	講師	張 立波 (チョウ・リツハ)	-
	講師	王 軒 (オウ・ケン)	-
	講師	宿利 由希子	79
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山口 昌弘	-
	副センター長/教授	粕壁 善隆	79
	副センター長/教授	末松 和子	80
	特任教授	渡邊 由美子	82
	特任教授	マーチン・シュローダー (Marcin Schroeder)	82
	准教授	高橋 美能	84
	准教授	渡部(わたなべ) 留美	84
	准教授	渡部(わたなべ) 由紀	85
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	-
	准教授	小池 武志	-
	准教授	グザヴィエ・ダハン (Xavier Dahan)	86
	准教授	米澤 由香子	86
	特任准教授	デリック・モット (Derrick MOTT)	87
	講師	新見 有紀子	88
	特任助教	林 聖太	-
特任准教授/教育・学生支援部	坂本 友香	88	
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中村 教博	(48)
	副センター長/准教授	中川 学	89
	総長特命教授	鈴木 岩弓	-
	総長特命教授	水野 健作	89
	総長特命教授/学際高等研究教育院	日笠 健一	-
	総長特命教授	尾崎 彰宏	90
	教授	芳賀 満	91
	准教授	田嶋 玄一	92
	准教授	藤本 敏彦	92
	准教授	山内 保典	(50)
	准教授	富田 知志	93
	助教	高橋 禎雄	93
	助教	太田 宏	94
	助教	小俣 乾二	94
	助教	青山 拓也	-
	助教	前山 俊彦	94
助教	山田 努	-	
助教	山下 琢磨	95	
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	芳賀 満	(91)
	副センター長/准教授	佐藤 智子	96
	助教	縣 拓充	-
	助教	中島 啓貴	97
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/経済学研究科教授	秋田 次郎	-
	副センター長/理学研究科教授	松澤 暢	-
	副センター長/教授	猪股 歳之	97
	特任准教授	門間 由記子	98
	特任准教授	富田 京子	99

所属	職名	氏名	掲載ページ
学生相談・特別支援センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅原 俊二	-
	副センター長/教授	池田 忠義	99
	准教授	中島 正雄	101
	講師	小島 奈々恵	101
	講師	中岡 千幸	102
	助手	佐藤 静香	103
	助教	松川 春樹	104
	講師	長友 周悟	104
	特任講師	鈴木 大輔	105
保健管理センター (Student Health Care Center)	助手	高橋 真理	-
	センター長/教授	木内 喜孝	106
	副センター長/副機構長/教授	伊藤 千裕	(45)
	准教授	小川 晋	107
	准教授	佐藤 公雄	107
	助教	北 浩樹	109
	助教	二宮 匡史	110
	助教	山本 沙織	-
	助教	川口 桂	-
課外・ボランティア活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/副機構長/教授	伊藤 千裕	(45)
	副センター長/ データ駆動科学・AI教育研究センター教授	早川 美德	-
	特任助教	松原 久	110
	特任助教	高橋 結	111

伊藤 千裕 (教授)

[専門分野]

精神神経科学

神経化学・神経薬理学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

学部教育 [講義] 医・精神・心理・行動ブロック 7セメスタ

大学院教育 [講義] 健康情報学 前期

[学位論文指導・審査]

博士1名 (予備審査1名)

[指導大学院生・学部生の発表件数]

2021年度 大学院学生 (博士課程医・歯学履修課程) 論文発表件数:1件

[論文]

(共著) 「新型コロナウイルス感染防止を考慮した健診-東北大学における実施経験-」 『Campus Health (CD-ROM)』 58巻1号 2021年

(共著) 「新型コロナウイルス(COVID-19)流行後の男子学生の喫煙率の変化」 『全国大学保健管理研究会プログラム・抄録集』 59th (CD-ROM) 巻 2021年

[会議の発表・講演]

「2020年度健康診断実施状況について一本書における感染症対策を中心に」 口頭 (一般): 第59回全国大学保健管理研究会東北地方研究会 2021年7月

「新型コロナウイルス (COVID-19)流行後の男子学生の喫煙率の変化」 口頭 (一般): 第59回 全国大学保健管理研究会 2021年10月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) メディア上のいわゆる「新型うつ病」-精神医学の観点からみた医療報道の質の評価- 2021年4月~2024年3月 分担者

[その他の競争的資金獲得実績]

(その他寄附金) メンタルヘルス研究助成金 2014年6月~

[学内活動]

全学委員会 教育研究評議会評議員 2019年4月~2022年3月

全学委員会 学務審議会副委員長 2019年4月~2022年3月

全学委員会 教務委員会 2019年4月~2022年3月

全学委員会 国際学位コース運営委員会 2019年4月~2022年3月

全学委員会 全学教育科目委員会 (基幹科目) 2019年4月~2022年3月

全学委員会 広報 (曙光) 編集委員会 2019年4月~2022年3月

全学委員会 全学教育科目委員会 (保健体育) 2020年4月~2022年3月

全学委員会 学生生活支援審議会 2021年4月~2023年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構保健管理センター副センター長 2016年4月~

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構副機構長 2019年4月~2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員長 2019年4月~2022年3月

部局内委員会 データ駆動科学・AI 教育研究センター運営委員会 2019年10月~

部局内委員会 情報科学研究科人間対象研究倫理審査委員会 2020年4月~

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター長 2021年4月~2023年3月

部局内委員会 学生ボランティア活動支援委員会副委員長 2021年4月~2023年3月

[学内教職員支援]

教育関係共同利用拠点提供プログラム (健康科学セミナー) (講師)

[教育相談]

のべ相談人数 134名、のべ相談回数 134回

[学会活動および外部機関における活動]

日本神経精神薬理学会 評議員 2001年1月~

日本臨床精神神経薬理学会 評議員 2006年1月~

[兼務・兼業など]

学内 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻内科病態学講座精神保健学分野 教授 2014年4月~

学内 東北大学大学院情報科学研究科応用情報科学専攻健康情報学講座 教授 2014年4月~

[行政機関・企業・NPO等参加]

医療法人小島慈恵会 小島病院 非常勤医師 2014年4月~

杉本 和弘 (教授)

[専門分野]

比較教育学、高等教育論

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」 1セメスタ

全学教育 社会学「現代大学論」 2セメスタ

他大学 東京大学大学院教育学研究科大学経営政策コース「大学経営・政策各論 (2)」後期

[論文]

(共著)「英米豪における大学教職員像の変容と日本への示唆」『大学教育学会誌』43巻2号 129-133 2021年12月

[著書]

オーストラリア (377-397頁)『諸外国の高等教育：アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ、中国、韓国、オーストラリア、ベトナム』明石書店 2021年4月

[会議の発表・講演]

「オーストラリア高等教育の動向—ポストコロナ時代の課題を見据えて—」その他: 文部科学省 第38回「海外教育事情調査研究会」2021年10月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) 同僚制原理に基づく大学教育の質保証とアカデミック・リーダー育成に関する比較研究 2019年4月～ 代表者

基盤研究(B) 学間に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(B) 日本の高等教育における学寮の教育的展開と質保証を基盤としたプログラム開発 2019年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(B) 大学における教養教育と専門教育の葛藤解決の方策に関する研究：日・欧・米の比較 2019年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(B) 高等教育改革とその成果に関する国際比較研究：政治経済学的視点からのガバナンス分析 2020年4月～2023年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 教育の質保証検証部会副部会長 2018年10月～

全学委員会 評価分析室員 2013年4月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014年4月～

[学会活動および外部機関における活動]

オセアニア教育学会理事、紀要編集委員会 委員 2012年1月～

日本高等教育学会理事・国際委員会 副委員長 2019年6月～

日本比較教育学会紀要編集委員会 委員 2020年8月～

大学教育学会 国際委員会 副委員長 2019年8月～2021年6月

日本教育社会学会 国際委員会 副委員長 2021年9月～

東北学院大学外部評価委員会 委員長 2019年4月～

公益財団法人 大学基準協会 大学評価委員会委員 2020年4月～

公益財団法人 大学基準協会 基準委員会委員 2021年6月～

筑波大学教学マネジメント室客員研究員 2020年9月～

[行政機関・企業・NPO等参加]

文部科学省生涯学習政策局 (現総合教育政策局) 調査企画課 外国調査アドバイザー (大洋州) 2014年4月～

[その他]

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点 副事業推進責任者

串本 剛 (准教授)

[専門分野]

教育学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 カレント「大学生のレポート作成入門」前期

全学教育 言語表現の世界 前期後半

全学教育 批判的思考と論理的文章 後期

全学教育 言語表現の世界 後期後半

[論文]

(単著)「単位制度の実質化を巡る諸問題：学修成果の保証に関連して」『高等教育研究』24巻 33-48 2021年8月

[著書]

『学士課程教育のカリキュラム研究』東北大学出版会 2021年11月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) 学士課程カリキュラムの共通性に関する実証分析 2018年4月～2022年3月 代表者

[学内活動]

全学委員会 基幹科目委員会 指名委員 2010年4月～2022年3月
全学委員会 教育情報・評価改善委員会 指名委員 2011年4月～2022年3月
全学委員会 学務審議会 指名委員 2015年4月～
全学委員会 教務委員会 指名委員 2016年4月～
全学委員会 附属図書館学習支援委員会 委員 2016年4月～
全学委員会 カレントトピックス科目委員会 委員長 2018年4月～2022年3月
全学委員会 教育の質保証検討部会 委員 2019年1月～
全学委員会 ISTU 仕様策定委員会 2020年1月～2022年3月
全学委員会 学問論委員会準備部会 2021年1月～2022年3月
部局内委員会 紀要編集委員会 副委員長 2018年4月～

[学会活動および外部機関における活動]

大学教育学会 代議員 2015年4月～
日本高等教育学会 編集委員 2019年10月～2023年9月
大学教育学会 編集副委員長 2020年6月～2022年6月

[学外の社会活動]

授業デザインとシラバス作成演
会津高校論文研修

松河 秀哉 (講師)

[専門分野]

教育工学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 前期
全学教育 テクノロジ化社会における学びを考える(展開ゼミ) 後期
全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 後期

[その他教育上に関する活動]

いわて高等教育コンソーシアムが主催するFD・SD研修会において、「アンケートの自由記述を分析する」と題して講演を行った(2021年12月24日)
日本教育工学会「大学教員のためのFD研修会(ワークショップ)」(2021年12月開催)の企画に日本教育工学会理事として関わった

[論文]

(共著)「An Approach for Academic Success Predictive Modeling based on Multi-objective Genetic Algorithm」『International Journal of Institutional Research and Management』5巻1号 31-49 2021年
(共著)「東北大学の全学教育における授業形態の影響-授業評価アンケートの結果から-」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』8号 3-12 2022年3月

[会議の発表・講演]

「大規模データに基づいた授業評価の自由記述分類モデルの開発」口頭(一般):日本教育工学会 2021年秋季全国大会 2021年10月
「新任保育者の園務に対する基本的情報スキルとその熟達化に向けた検討」口頭(一般):日本教育工学会 2021年秋季全国大会 2021年10月
「機械学習による授業評価の自由記述のネガボシ判定」口頭(一般):日本教育工学会 2022年春季全国大会 2022年3月

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(C) 園務情報システム利用の有用性と実質化についての開発的研究 2018年4月～2022年3月 分担者
基盤研究(B) 教育学研究の国際展開の実態・構造・将来像に関する研究——学会の機能に注目して—— 2019年4月～2022年3月 分担者
基盤研究(B) 機械学習によるテキストデータの分析に基づく新たなFD・IRモデルの開発 2020年4月～2024年3月 代表者
基盤研究(B) 市民の科学への参加・支援を加速化するオープンサイエンス・リテラシーの教師教育 2020年4月～2024年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 基幹科目専門委員 2019年4月～
全学委員会 評価分析室員 2019年7月～
全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会専門委員 2020年4月～2022年3月
全学委員会 「学問論」準備部会委員 2021年1月～2022年3月
全学委員会 デジタル教育アドバイザリ・グループ メンバー 2021年4月～
部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

[学内教職員支援]

令和3年度受審の機関別認証評価(大学改革支援・学位授与機構)の提出書類の作成,訪問調査への対応,部局の支援等を行った(その他)

第7回 教育調査研究会（2021年7月5日開催）を企画・開催し、「第5回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の結果と課題について報告を行った（FD/SDの企画・運営）

学務審議会と協働して、「第4回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」を実施した（2021年12月～翌1月）。また、「第5回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」の取り纏めを行い、報告書として刊行した（2021年12月）（FD/SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本乳幼児教育学会 広報・企画委員 2010年2月～

日本教育工学会 理事 2019年6月～

日本教育工学会 大会企画委員会副委員長 2019年6月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議主催）日本教育工学会 2022 春季(第40回)全国大会 2022年3月19日～2022年3月20日

〔兼務、兼業など〕

学外 日本乳幼児教育学会 広報・企画委員会 委員 2010年4月～

学外 日本教育工学会 SIG01 高等教育・FD 代表 2015年6月～

学外 日本教育工学会 理事 2019年6月～

学外 日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2019年6月～

〔報道〕

テレビ（出演・執筆）「仙台放送 Live News 「イット」の生活情報 File 「自由が広がるオンラインレッスン」 2021年5月31日

〔その他〕

要覧を作成するための大学情報データベースへの登録について機構教員からの問い合わせに対応した。要覧を作成するために、大学情報データベースから取り出したデータから、報告書に記載する文面を作成するためのソフトウェアを担当事務に提供し、その使い方について助言を行った。授業評価アンケートの学生への告知方法に関して、各学生が履修している授業のアンケートの URL を個別にメールで自動的に送付する方法について担当事務に助言するとともに、サンプルプログラムの提供を行った。

中村 教博（教授）

〔専門分野〕

地質学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 2セメスタ

全学教育 "自然科学総合実験-1,-2" 前期

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 前期

全学教育 Global 30 Introductory Science experiment 3セメスタ

全学教育 "自然科学総合実験-1,-2" 後期

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 後期

全学教育 遊学：ためして、つなげて、ふりかえる 2セメスタ

大学院教育 課題研究 通年

大学院教育 工学研究科原子力規制人材育成事業「活断層の基本知識」 後期

大学院教育 地殻力学Ⅱ 後期

〔学位論文指導・審査〕

修士1名（主査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2021年度 大学院学生（博士課程前期2年の課程） 口頭発表件数:1件 学会発表件数:1件

〔論文〕

（共著）「自然科学総合実験のこれまでの取り組みと新しいオンライン理科実験の試み」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』7号 363-370 2021年4月

（共著）「余計なことからはじめよう —教養教育における「挑戦と創造」を促す授業の提案—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』7号 249-262 2021年4月

（共著）「学び方を学ぶためのオンライン基礎ゼミ」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』7号 101-108 2021年4月

（共著）「オンライン授業の現状と学生の評価 —基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』7号 3-22 2021年4月

（共著）「Cretaceous to Miocene NW Pacific Plate Kinematic Constraints: Paleomagnetism and Ar-Ar Geochronology in the Mineoka Ophiolite Melange (Japan)」『Journal of Geophysical Research: Solid Earth』126巻5号 1-27 2021年5月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 還元環境堆積物からの古地磁気強度変動の高解像度復元 2019年4月～2023年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 学務審議会実験科目委員会 2016年4月～
全学委員会 全学教育改革推進会議 2019年4月～2022年3月
全学委員会 学務審議会基幹科目委員会委員長 2019年4月～2022年3月
全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 2019年4月～
全学委員会 全学教育改革対応委員会 2020年4月～2022年3月
部局内委員会 大学教育支援センター センター長 2021年4月～
その他の主要活動 校友会バスケ部顧問 2018年12月～

[学内教職員支援]

学務審議会・基礎ゼミ委員会主催, 第14回東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FDワークショップ「全学教育における基礎ゼミ・展開ゼミの意義と実施」(講師)
教育情報・評価改善委員会主催, 全学教育FD「オンラインでの自然科学総合実験」(講師)
自然科学総合実験のための教員・TAガイダンス(FD/SDの企画・運営)
自然科学総合実験のための教員・TAガイダンス(FD/SDの企画・運営)
基礎ゼミ委員会, 全学教育FD「学問論演習FD」(講師)
ティーチングフェロー(TF)研修(講師)
全学教育FD「BTA/TA事前研修」(講師)

[学会活動および外部機関における活動]

地球電磁気・惑星圏学会 大林奨励賞審査委員 審査委員 2022年1月～

[兼務、兼業など]

学内 理学研究科地学専攻 教授(兼任) 2016年4月～
学外 東北学院大学 教養教育センターアドバイザー 2021年4月～

[その他]

1. 学問論演習担当者用FDの動画資料の作成
2. BTA/TAの事前研修資料とその動画の作成
3. ティーチングフェロー(TF)用の事前研修資料作成と事前研修の開催
4. 新しいTA制度に関するウェブサイト作成
5. 新しい全学教育に関するプレスリリース文作成とオンライン・パンフレット作成

戸村 理(准教授)

[専門分野]

教育社会学
教育学

[担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ 前期前半
全学教育 言語表現の世界 前期前半
全学教育 歴史と人間社会

[その他教育上に関する活動]

教育関係共同利用拠点の業務に関する運営
履修証明プログラム「大学変革リーダー育成プログラム」の実施
大学教員準備プログラムの実施

[著書]

第9章第2節「管理」のあり方を模索した教師—能重真作の教育実践と教師像『近現代日本教員史研究』風間書房 2021年12月

[会議の発表・講演]

「The situation of future faculty development at Tohoku University」口頭(招待・特別):Teaching Development in Higher Education in English /UTokyo Global Future Faculty Development Program (UTokyo Global FFDP) 2021年12月

[総説・解説記事]

(共著)「図書紹介 伊藤彰浩著『戦時日本私立大学:成長と苦難』」『『図書新聞』』 3512号 2021年9月
(単著)「図書紹介 羽田貴史著『科学技術社会と大学の倫理』」『『教育学研究』』 88巻3号 95-96 2021年9月
(共著)「天野郁夫・高等教育史と寺崎昌男・大学史を読む」『『大学史研究』』 30号 270-292 2021年12月

[共同研究活動]

大学教育・経営人材の育成とプログラム開発に関する研究 東京大学(研究代表者 福留東土) 国内 2021年4月～2024年3月
学長リーダーシップのあり方に関する総合的研究 東京大学(研究代表者 両角亜希子) 国内 2021年4月～2025年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究 近現代日本における大学学長職の地位・役割・動態に関する歴史社会学的研究 2019年4月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 大学教育支援センター副センター長 2020年4月～

その他の主要活動 学問論委員会準備部会 2021年2月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

一般社団法人 大学教育学会 大学教育研究力向上委員会（旧大学教育研究力向上プロジェクト） 委員 2017年12月～

慶應義塾福澤研究センター 客員所員 2018年9月～

日本教育社会学会・年次大会支援部 副部長 2019年9月～

〔兼務、兼業など〕

学外 一般社団法人 大学教育学会 大学教育研究力向上委員会（旧大学教育研究力向上プロジェクト） 委員 2017年12月～

学外 慶應義塾福澤研究センター 客員所員 2018年9月～

学外 日本教育社会学会 年次大会支援部 副部長 2019年9月～2021年10月

学外 広島大学高等教育研究開発センター 客員研究員 2021年4月～

〔報道〕

新聞（出演・執筆）【連載】オフィスアワー ②男子大学が無いのはなぜか 東北大学新聞 2022年1月25日

〔大学運営・支援及び医療業務〕

文部科学省教育関係共同利用拠点に関わる活動として、「大学変革リーダー育成プログラム（TLP）」、「大学教員準備プログラム」（PFFP）、「大学マネジメント力開発プログラム」（SDP）ならびに「PDセミナー」の企画・実施を担当した。

山内 保典（准教授）

〔専門分野〕

認知科学

科学社会学・科学技術史

科学教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？ どう役に立つの？ 前期

全学教育 余計なことからはじめよう 前期

全学教育 基礎ゼミ 前期

全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？ どう役に立つの？ 後期

全学教育 汎用的技能ワークショップ：認知的能力 後期

全学教育 科学と情報 後期

全学教育 遊学：ためして、つなげて、ふりかえる 後期

〔その他教育上に関する活動〕

EARTH on EDGE（桃創カレッジTELプログラム）への参画

（教科書・教材の開発）オンデマンド教材「Transferable Skills Workshop」の作成

〔論文〕

（共著）「教室と時間割を越えた高年次教養教育の試み -ICTによる協働学習の実践事例-」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 123-134 2022年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 知のオープン化時代の大学・科学関連システムの再構築 2019年4月～ 分担者

基盤研究(C) 大学でのオンライン授業における不正行為の実態調査と教材開発 2021年4月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 公正な研究活動推進室 2016年4月～

全学委員会 教育情報・評価改善委員会 2017年4月～

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018年4月～2022年3月

全学委員会 学問論準備部会 2021年1月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

機構正午PDの企画・運営（FD/SDの企画・運営）

研究公正アドバイザー向けワークショップ（FD/SDの企画・運営）

研究公正アドバイザー向けワークショップ（FD/SDの企画・運営）

〔プロジェクト活動〕

社会にインパクトある研究「心に豊かさを灯す社会の創造」

人の幸せを大切に IoT 社会のデザイン

[学会活動および外部機関における活動]

JST 映像研究倫理教材制作委員会 委員 2021 年 4 月～2022 年 3 月

[学外の社会活動]

米沢栄養大学「研究倫理・コンプライアンス研修会」

第 8 回 JST ワークショップ「公正な研究活動の推進 ―効果的な研究倫理教育の実践方法を考える―」

総合研究大学院大学 CED セミナー2021「社会のあらゆる現場で活用できるスキルとは?～自らのトランスファラブル・スキルの再発見～」

大森 不二雄 (教授)

[学内活動]

全学委員会 学務審議会委員 2016 年 4 月～

全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会委員 2016 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2016 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 教養教育推進ワーキンググループ 2016 年 6 月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター副センター長 2016 年 4 月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター共同利用運営委員会委員 2016 年 4 月～

[学会活動および外部機関における活動]

国際教育学会 副会長 2012 年 9 月～

大学教育学会 代議員 2015 年 4 月～

[行政機関・企業・NPO等参加]

公益財団法人 国連大学協力会 助成諮問委員会 助成諮問委員 2011 年 6 月～

赤池 美紀 (特任助教)

[論文]

(共著)「日本の大学における演奏者のための健康教育の現状 ―37 大学のシラバス分析を通して」 『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』 101 巻 97-113 2021 年 10 月

(共著)「経営学部 1 年生必修科目「情報処理入門」におけるピアサポートの試みと効果検証」 『東京成徳大学経営学部 『経営論集』』 11 号 2022 年 3 月

[会議の発表・講演]

「日本語版教師効力感尺度 (JTSSES) ―言語的妥当性を担保した翻訳版開発―」 ポスター (一般): 大学教育研究フォーラム 2022 年 3 月

「表計算と文書作成スキルに関する主観的アンケートの限界―経営学部初年次必修授業における学修者の自己アセスメントと教員による学習到達度評価の比較―」 口頭 (一般): 大学教育研究フォーラム 2022 年 3 月

[総説・解説記事]

(共著)「経営学部 1 年生必修科目「情報処理入門」におけるピアサポートの試みと効果検証」 『東京成徳大学経営学部経営論集』 11 号 97-114 2022 年 3 月

[学会活動および外部機関における活動]

日本音楽教育学会 新型コロナウイルス感染症対策「音楽教育支援プロジェクトチーム」 2020 年 10 月～

倉元 直樹 (教授)

[専門分野]

教育心理学

社会心理学

教育学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

学部教育 実験心理学各論 (心理学統計法) 1 セメスタ

学部教育 実験心理学演習IV 2 セメスタ

大学院教育 実験心理学特論IV 1 セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論特論 I 1 セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論概論 2 セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論研究演習 I 2 セメスタ

他大学 東京大学大学院教育学研究科「大学経営政策各論 (1)」 前期

[学位論文指導・審査]

博士 1 名 (副査 1 名)、修士 3 名 (主査 3 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2021年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:1件 論文発表件数:1件 学会発表件数:1件

2021年度 大学院学生（博士課程前期2年の課程） 論文発表件数:3件

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

日本テスト学会第19回大会発表賞: 日本テスト学会 2022年3月5日

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）倉元研究室ゼミ

〔論文〕

（共著）「大学進学における相談相手の選択に関する日中比較研究」 『日本テスト学会誌』 17巻1号 115-120 2021年6月

（共著）「私立大学定員管理厳格化が東日本の公立校等学校に与えた影響——地域と進学実績を説明要因として——」 『大学入試研究ジャーナル』 32巻 84-91 2022年3月

（共著）「東北大学志望を促進する要因の検討——新入学者アンケートから——」 『大学入試研究ジャーナル』 32巻 69-76 2022年3月

（共著）「COVID-19蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」 『大学入試研究ジャーナル』 32巻 1-8 2022年3月

（共著）「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る——主として2021（令和3）年度入試に関連して——」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 95-107 2022年3月

〔著書〕

監修:第10章『大学入試を設計する』金子書房 2021年5月

監修:第1章;第3章;第4章;第7章;第8章『大学入試の公平性・公正性』金子書房 2021年5月

〔会議の発表・講演〕

「東北大学志望を促進する要因の検討——新入学者アンケートから——」 口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡業議会第16回大会 2021年5月

「私立大学転院管理厳格化が東日本の公立校等学校に与えた影響——地域と進学実績を説明要因として——」 口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡業議会第16回大会 2021年5月

「COVID-19蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」 口頭（一般）：全国大学入学者選抜研究連絡業議会第16回大会 2021年5月

「大学進学における高校生の情報活動に関する日中比較研究」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第63回総会 2021年8月

「東北大学歯学部一般選抜における面接試験導入の効果」 ポスター（一般）：日本テスト学会第19回大会 2021年9月

「高大接続改革が高校生に及ぼす影響に関する日中比較研究——大学選択方略を巡る高校生活の実態を中心に——」 口頭（一般）：日本テスト学会第19回大会 2021年9月

「COVID-19の災禍と世界の大学入試」 その他: 大学入試センター シンポジウム 2021 2021年11月

〔共同研究活動〕

異文化間交流研究会（旧 国際学校研究会） 国内 1990年10月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

挑戦的研究（開拓） 「大学入試学」 基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて—— 2019年4月～ 代表者

基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究 2021年4月～2026年3月 代表者

〔学術関係受賞〕

日本テスト学会大会発表賞（第19回大会） 授与機関:日本テスト学会 2022年3月

〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会副委員長 2019年4月～2022年3月

全学委員会 入学試験審議会委員 2019年4月～

全学委員会 入試企画・広報委員会入試改革対応ワーキンググループ座長 2021年4月～2022年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示ワーキンググループ座長 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

工学部入試検討委員会専門協力者（その他）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第1回）（講師）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第7回）（講師）

FD: 東北大学入試センター新任教員対象FD（第9回）（講師）

一般入試個別試験作題班会議研修・理科学目長研修（講師）

一般入試個別試験作題班会議研修・各科学目長研修（講師）

第7回非公開教員研修「よりよい入学試験の数学2021」（講師）

科研費アドバイザー（全学）（その他）

（緊急）入試事務担当者セミナー（SD）（講師）

歯学部AO入試Ⅱ期面接員FD（講師）

第6回医学部保健学科入試セミナー（講師）

歯学部AO入試Ⅲ期面接員FD（講師）
歯学部一般選抜（前期日程）面接員FD（講師）

【プロジェクト活動】

東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査
東北大学高等教育フォーラムの開催
大学入試をめぐる危機対応の構築に向けて——COVID-19の災厄を越えて——

【学会活動および外部機関における活動】

日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～
日本テスト学会 理事 2005年8月～
国際教育学会（ISE） 理事 2006年6月～
国際教育学会（ISE） 学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～
国際教育学会（ISE） 学会賞「笹科賞」選考委員 2007年4月～
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～
国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～
国立大学アドミッションセンター連絡会議 事務局長 2020年6月～

【会議の主催・運営】

（国内会議主催）第34回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [17] 検証 コロナ禍の下での大学入試」 2021年5月17日
（国内会議主催）国立大学アドミッションセンター連絡会議第19回総会 2021年5月17日
（国内会議主催）プレイバック座談会 大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏 2021年12月10日

【兼務、兼業など】

学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999年11月～
学内 東北大学入試センター 副センター長 2004年4月～
学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～
学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報学応用論協力講座 教授 2018年4月～

【学外の社会活動】

高校教員対象入試説明会（仙台二高）
福島県高等学校長協会大学入試対策委員会令和3年度大学進学実務担当者会議
高校教員対象オンライン入試説明会 セッション①
高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑥
高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑪
高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑬
高校教員対象オンライン入試説明会 セッション⑱
株式会社ビスアップ総研「アドミッション・オフィサー研修」ビデオ作製
茨城大学「入学者選抜としての面接のあり方」セミナー
秋田県立秋田高等学校保護者対象講演会
秋田県立秋田高等学校生徒対象東北大学入試説明会・進路講演会
教員との意見交換（酒田東高）
教員との意見交換（鶴岡南高）
夢ナビLIVE2021 オンライン
高校教員対象オンライン入試説明会 追加セッション①
高校教員対象オンライン入試説明会 追加セッション②
夢ナビLIVE2021 オンライン（2）
教員との意見交換（山形県教育庁）
山形県進学指導重点校校長対象講演会及び意見交換会
宮城県仙台第一高等学校教員研修会
山形県立東桜学館中学校・高等学校生徒及び保護者対象講演会
岩手県立盛岡第一高等学校生徒及び保護者対象講演会

【行政機関・企業・NPO等参加】

独立行政法人 大学入試センター 大学入試センター研究開発部主催「緊急オンラインフォーラム」メンバー 2020年6月～2021年4月

【報道】

雑誌（その他）「筆記試験にも「主体性」が反映——大学入試めぐり倉元東北大学教授らが報告書——」内外教育 2021年5月21日
新聞（資料提供）「入試センター運営曲がり角——赤字年10億円見通し——」読売新聞 2021年6月4日
雑誌（その他）「「検証 コロナ禍の下での大学入試」東北大が高等教育フォーラムを開催 国立大アドミッションセンター連絡会議総会も」文教速報 2021年6月4日

雑誌(その他)「東北大、高等教育フォーラム——コロナ禍の下での大学入試——」 文教ニュース 2021年6月7日
 雑誌(その他)「コロナ禍の大学入試を検証——東北大が高等教育フォーラム——」 内外教育 2021年6月7日
 新聞(資料提供)「AO、推薦の割合増加 変わる大学入試⑤」 秋田魁新報 2021年12月26日
 雑誌(その他)「コロナ下の大学入試を振り返る——センターゆかりの研究者が「舞台裏」座談会——」 内外教育 2022年1月11日
 新聞(資料提供)「入試救済策 戸惑う現場」 読売新聞 2022年1月13日
 新聞(資料提供)「最適解は?東北も困惑 共通テスト コロナ救済策」 河北新報 2022年1月13日
 新聞(出演・執筆)「ネット進化 性善説限界 不正防止 現場苦悩」 毎日新聞 2022年1月13日
 新聞(出演・執筆)「受験 集中できる環境を 異例続いた大学入学共通テスト」 宮崎日日新聞 2022年2月1日
 新聞(出演・執筆)「識者評論:異例続いた大学入学共通テスト 問題流出、想定すべき」 秋田魁新報 2022年2月1日
 新聞(出演・執筆)「視標:異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 熊本日日新聞 2022年2月1日
 新聞(出演・執筆)「評論:異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 長崎新聞 2022年2月3日
 新聞(出演・執筆)「識者評論:異例続きの大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹だ」 中國新聞 2022年2月5日
 新聞(出演・執筆)「オピニオン 論レビュー:異例続きの大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 高知新聞 2022年2月6日
 新聞(出演・執筆)「異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 山陰中央新報 2022年2月6日
 新聞(出演・執筆)「視標:異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 山陽新聞 2022年2月6日
 新聞(出演・執筆)「評論:異例続いた大学入学共通テスト 信頼こそ入試制度の根幹」 佐賀新聞 2022年2月8日
 新聞(出演・執筆)「大学入学共通テストの得点低下 問題作成の考え方再点検を」 日本経済新聞 2022年2月22日

〔教育活動〕

受入れ学生:留学生3名(博士課程前期2名,後期1名),社会人2名(前期1名,後期1名)

宮本 友弘(教授)

〔専門分野〕

教育心理学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅱ 後期

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

他大学 心理学特別演習(統計) 前期

他大学 教育評価・測定 A 前期集中

〔学位論文指導・審査〕

博士1名(主査1名)、修士3名(副査3名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2021年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:1件 学会発表件数:2件

〔その他教育上に関する活動〕

放送大学「BSキャンパス ex 特集 大学入試をどう考えるのか 第4回 高大接続における多面的・総合的評価の実践」に講師として出演
 長崎大学教育学部 FD の講師として入試改善に関する講演を行った。

長崎大学工学部 FD の講師として入試改善に関する講演を行った。

〔論文〕

(共著)「理学療法士国家試験対策における学習動機づけの調整スタイルの類型化とその特徴」『保健医療学雑誌』12巻1号 52-61 2021年4月

(共著)「メタ認知の標準検査開発のための予備的検討—「主体的に学習に取り組む態度」の評価の支援に向けて—」『教育情報学研究』20巻 51-57 2021年12月

(共著)「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」『教育情報学研究』20巻 75-84 2021年12月

(共著)「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る—主として2021(令和3)年度入試に関連して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』8巻 95-107 2022年3月

(共著)「東北大学志望を促進する要因の検討——新入学者アンケートから——」『大学入試研究ジャーナル』32巻 69-76 2022年3月

(共著)「COVID-19 蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」『大学入試研究ジャーナル』32巻 1-8 2022年3月

(共著)「日本の大学入試における「外国学歴・資格評価(Foreign Credential Evaluation: FCE)」についての一考察—中国からの学士課程の志願者を中心に—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』8巻 249-258 2022年3月

(共著)「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価(2)—前年度との比較を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構』8巻 169-176 2022年3月

(共著)「中年期における主観的幸福感と人間関係観との関連」『聖徳大学研究紀要』32巻 1-5 2022年3月

(共著)「視覚力に影響を与える要因に関する考察—工学部生と教育学生との比較にもとづいて—」『九州国語教育学会紀要』11巻 1-12 2022年3月

〔著書〕

編者、序章担当『大学入試を設計する』金子書房 2021年5月

〔会議の発表・講演〕

- 「視写に対する音読の影響」ポスター（一般）：第140回全国大学国語教育学会2021年春期大会(オンライン)2021年5月
- 「COVID-19蔓延下における個別大学の入試に関する高校側の意見」口頭（一般）：令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回）2021年5月
- 「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」口頭（一般）：令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回）2021年5月
- 「理学療法士養成課程の初年次学生における学習動機づけ変化の類型と特徴」ポスター（一般）：日本教育心理学会第63回総会2021年8月
- 「視写過程の発達の様相—小学校4年生と大学生との比較から—」口頭（一般）：全国大学国語教育学会第141回2021年秋期大会(オンライン)2021年10月
- 「レジャー志向性と運動・スポーツ実施との関連の検討 ～男女の違いに着目して～」ポスター（一般）：日本生涯スポーツ学会第23回大会2021年10月
- 「中年期における人間関係観」口頭（一般）：日本発達心理学会第33回大会2022年3月

〔総説・解説記事〕

- （単著）「オンライン教育と子どもの「相性」について、思うこと／考えること」『指導と評価』67巻5月号4-52021年5月
- （単著）「標準学力検査によるアセスメント—教研式NRTを中心に—」『指導と評価』67巻7月号6-82021年7月
- （単著）「メタ認知をどうとらえ、指導に生かすか」『指導と評価』67巻9月号4-52021年9月
- （単著）「心理学からみた「個別最適な学び」—適性交互作用とプログラム学習を中心に—」『指導と評価』67巻12月号15-172021年12月
- （単著）「教師が「つくる」エビデンス—研究デザインの工夫と標準検査の活用—」『指導と評価』68巻2月号23-252022年2月
- （単著）「全国学力調査の変わらぬ課題」『指導と評価』68巻3月号2-32022年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

- 挑戦的研究（開拓）「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて—2019年4月～2023年3月 分担者
- 基盤研究(B) 芸術統合型学習を通じた美術教育の再定義—横断的実践調査及び質問紙法による学力分析2020年4月～2022年3月 分担者
- 基盤研究(C) 中年期における自己充実的達成動機と精神的健康との関連に関する研究2020年4月～2023年3月 分担者
- 基盤研究(C) 書字基礎データ採取のための調査研究2020年4月～2023年3月 分担者
- 基盤研究(B) 「主体性」評価支援を目的としたCAT方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発2021年4月～2026年3月 代表者
- 基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究2021年4月～2026年3月 分担者

〔学内活動〕

- 全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016年4月～2022年3月
- 全学委員会 入試実施委員会委員 2016年5月～
- 全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017年4月～2022年3月
- 全学委員会 広報戦略推進室員 2018年4月～
- 全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG座長 2020年4月～2022年3月
- 全学委員会 運輸交通専門委員会委員 2021年7月～
- 部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016年4月～
- 部局内委員会 保健学科入試部会オブザーバー 2016年4月～
- 部局内委員会 施設整備委員会委員 2018年4月～
- 部局内委員会 施設整備委員会委員長 2021年4月～
- 部局内委員会 総務委員会委員 2021年4月～
- 部局内委員会 機構長補佐会議構成員 2021年4月～
- その他の主要活動 令和4年度大学入学共通テスト試験（第1日程、第2日程）実施本部員 2022年1月～2022年1月
- その他の主要活動 令和4年度一般選抜（前期日程）入学試験実施本部員 2022年2月～2022年2月
- その他の主要活動 特別選抜（私費外国人留学生入試）オンライン学力試験実施責任者 2022年3月～2022年3月

〔学内教職員支援〕

- 令和3年度入試センター教員FDの企画・運営を行い、第3回「東北大学の入試広報活動①」の講師を担当した。（FD/S Dの企画・運営）
- 文学部の令和4年度AOⅡ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和3年度の第2次選考の分析結果、大学入試の諸原則、面接試験のポイント、面接員の心得、入試ミスについて解説した。（講師）
- 文学部の令和4年度AOⅢ期面接試験FDの講師を担当し、出願状況、令和3年度の第2次選考の分析結果、面接試験のポイント、面接員の心得について解説した。（講師）

〔学会活動および外部機関における活動〕

- 国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)国内専門委員 2017年2月～
- 日本テスト学会 理事 2017年8月～
- 日本テスト学会 編集出版委員 2017年8月～
- 日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員会委員 2019年1月～2021年12月
- 日本教育心理学会 「教育心理学年報」編集委員会委員 2022年1月～2025年3月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議運営) 第34回東北大学高等教育フォーラム 2021年5月17日

(国内会議運営) 【プレイバック座談会】大学入試におけるコロナ対策—令和3年度入試の舞台裏— 2021年12月19日

〔学外の社会活動〕

山梨学院高等学校主催説明会 (オンライン)

オンライン入試説明会

入試説明会 (仙台)

夢ナビライブ 2021 in Summer (オンライン)

東北大学オンライン進学相談会 2021

第63回指導と評価大学講座

愛知県みよし市立三好ヶ丘小学校 校内現職教育研修

オンライン入試説明会

夢ナビライブ 2021 in Autumn (オンライン)

東北大学オンライン進学相談会 2021

宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～

一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～

一般財団法人 日本図書文化協会 理事 2019年11月～

〔その他、大学運営・支援に関わる活動実績〕

入試広報の責任者として、オンライン入試説明会 (高校教員向け)、オンライン進学説明会・相談会 (高校生・受験生向け)、オンラインオープンキャンパス、対面オープンキャンパス (最終的には中止) の企画・運営において中心的な役割を果たした。

樫田 豪利 (特任教授)

〔専門分野〕

高等学校理科教育 (化学)

機器活用

〔兼務、兼業など〕

学外 (株) 駿台文庫 著者 2009年4月～

末永 仁 (特任教授)

〔専門分野〕

教科教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

〔論文〕

(共著) 「私立大学定員管理の厳格化が東日本の公立高等学校に与えた影響」 『"大学入試研究ジャーナル No.32"』 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「第6セッション [志願者動向, 定員管理の厳格化]」 口頭 (一般): 令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 2021年5月

〔その他研究活動〕

(書評) 大学入学共通テスト問題 (生物基礎, 生物) の研究

〔学内教職員支援〕

工学部入試検討委員会における助言 (その他)

〔学外の社会活動〕

仙台市内六校会主催東北大学入試説明会

オンライン入試説明会

オンライン入試説明会

オンライン入試説明会

オンライン入試説明会

オンライン入試説明会

オンライン入試説明会

東北大学入試説明会

夢ナビライブ 2021 及び東北大学進学相談会

夢ナビライブ 2021 及び東北大学進学相談会

東北大学一宮城県高進研情報交換連絡会

[その他]

入研協への出席

久保 沙織 (准教授)

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 教育情報学応用論概論 後期

他大学 社会調査法 後期集中

[その他教育上に関する活動]

倉元直樹教授の指導する大学院生への指導補助 (参考文献の紹介, 研究方法に関する提案, 分析結果の解釈や論文執筆に関する助言等)

[論文]

(共著) 「"Using peer role-playing to improve students' clinical skills for musculoskeletal physical examinations."」 『BMC medical education』 21 巻 322 号 2021 年 6 月

(共著) 「オンラインによる個別入試相談会の実践と課題」 『教育情報学研究』 20 巻 75-84 2021 年 12 月

(共著) 「メタ認知の標準検査開発のための予備的検討—「主体的に学習に取り組む態度」の評価の支援に向けて—」 『教育情報学研究』 20 巻 51-57 2021 年 12 月

(共著) 「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 69-76 2022 年 3 月

(共著) 「コロナ禍の下での大学入学者選抜を振り返る—主として 2021 (令和 3) 年度入試に関連して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 95-107 2022 年 3 月

(共著) 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価 (2)—前年度との比較を通して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 169-176 2022 年 3 月

(共著) 「個別入試における作題関連業務を規定する要因の探索的分析と仮説モデルの構築—作題支援システムの構築を目指して—」 『大学入試研究ジャーナル』 32 巻 98-105 2022 年 3 月

[著書]

終章「大学入試研究に求められる Validity と Validation」『大学入試を設計する』金子書房 2021 年 5 月

[会議の発表・講演]

「基調講演 2 オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 第 34 回東北大学高等教育フォーラム「検証 コロナ禍の下での大学入試」 2021 年 5 月

「個別大学の入試問題作成において重視される観点の探索的分析—作題支援システムの構築を目指して—」口頭 (一般): 令和 3 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 16 回) 2021 年 5 月

「東北大学志望を促進する要因の検討—新入学者アンケートから—」口頭 (一般): 令和 3 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 16 回) 2021 年 5 月

[総説・解説記事]

(単著) 「基調講演 2: オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」『IEHE TOHOKU Report 85 第 34 回東北大学高等教育フォーラム報告書 新時代の大学教育を考える[18]「検証 コロナ禍の下での大学入試」』 22-39 2021 年 9 月

(共著) 「シンポジウムのアンケート結果と実施運営のバックヤード」『シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策: 令和 3 年度の舞台裏」報告書』 85-100 2022 年 3 月

[共同研究活動]

金融リテラシー教育の効果測定 国内 2017 年 9 月～

アルコール使用障害に関連する要因の探索的抽出 国内 2021 年 1 月～

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) 相関係数の異常な挙動の解明とそれに対する対処 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 超高齢社会を支える卒前からの四肢脊柱診察教育プログラムの開発と評価 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 筆記試験、実技試験、業務基盤型評価を合否判定に組み込むための信頼性検証 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

挑戦的研究 (開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019 年 6 月～2023 年 3 月 分担者

若手研究 過去問データベースと AI を活用した大学入試個別学力試験作題支援システムの構築 2021 年 4 月～2024 年 3 月 代表者

基盤研究(A) コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的入試研究 2021 年 4 月～2026 年 3 月 分担者

基盤研究(B) 「主体性」評価支援を目的とした CAT 方式による高校生向け標準メタ認知検査の開発 2021 年 4 月～2026 年 3 月 分担者

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2020 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 情報開示 WG 2020 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 入試実施委員会委員 2020 年 5 月～

全学委員会 広報拡大 WG 2021 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 入試改革対応 WG 2021 年 4 月～2022 年 3 月

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長（副） 2021年4月～
部局内委員会 工学部入試検討委員会専門協力者 2020年4月～
部局内委員会 医学部保健学科入試部会専門協力者 2021年4月～
その他の主要活動 大学入学共通テスト 試験実施本部員 2022年1月～2022年1月
その他の主要活動 一般選抜前期日程 試験実施本部員 2022年2月～2022年2月
その他の主要活動 私費外国人留学生入試試験監督（オンライン） 2022年3月～2022年3月

【学内教職員支援】

教育FD「令和3年度入試センター教員対象FD」の企画・運営（FD/S Dの企画・運営）
教育FD「令和3年度入試センター教員対象FD」の第5回講師を担当し、「入試研究およびエビデンスに基づく制度設計・コンサルテーション」と題して講演した。（講師）
令和3年度 教育FD「第7回非公開教員研修『よりよい入学試験の数学2021』」で講師を担当し、「第2部 一般選抜の実施結果について」と題して講演した。（講師）
文学部主催のAO入試Ⅱ期第2次選考面接担当教員対象のFDで、講師として質疑応答に対応（講師）
歯学部主催のAO入試Ⅱ期第2次選考面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加（その他）
医学部保健学科入試FD・SDにオブザーバーとして参加（その他）
歯学部主催のAO入試Ⅲ期第2次選考面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加（その他）
文学部主催のAO入試Ⅲ期第2次選考面接担当教員対象のFDで、講師として質疑応答に対応（講師）
歯学部主催の一般選抜前期日程面接担当教員対象のFDにオブザーバーとして参加（その他）

【学会活動および外部機関における活動】

日本行動計量学会 広報委員会会報小委員会委員 2019年4月～
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性向上検討委員会委員 2020年4月～
日本教育心理学会 機関誌『教育心理学研究』常任編集委員会 2021年1月～2023年12月
日本行動計量学会 大会担当委員会委員 2021年5月～

【会議の主催・運営】

（国内会議運営）シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策：令和3年度入試の舞台裏」 2021年12月19日

【学外の社会活動】

仙台市内六校会主催東北大学入試説明会
東北大学オンライン入試説明会
夢ナビライブ2021Web in Summer
東北大学オンライン進学相談会
東北大学オンライン入試説明会（内容確定版）
3大学合同説明会
山形県立米沢興譲館高等学校での大学説明
夢ナビライブ2021Web in Autumn
東北大学オンライン進学相談会
山形県教育庁高校教育課訪問
山形県立進学重点高等学校校長対象講演会
試験信頼性向上検討委員会第20回講演会「臨床実習前OSCEと臨床実習後OSCE・Post-CC PXの試験成績の解析と評価のあり方の検討」における講演
埼玉県立大宮高等学校での大学説明
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

【教育活動】

長崎大学教育学部 入試改革FD講師
長崎大学教育学部主催で実施された「入試改革FD」で講師を担当し、「エビデンスに基づく入試改善」と題して講演した。

【大学運営・支援及び医療業務】

・TUMUG（東北大学男女共同参画推進センター）オンラインランチミーティングで、「個別入試における作題関連業務を規定する要因の探索と認知プロセスモデルの構成―作題支援システムの構築を目指して―」と題し、本学の女性研究者に向けて、自身の研究に関する発表を行った。
・高度教養教育・学生支援機構主催で実施されている第87回正午PD会で、「東北大学におけるオンラインを活用した入試広報活動の実践と評価」と題し、自身の研究に関する発表を行った。

【社会貢献】

『Behaviormetrika』の査読1本、『Japanese Psychological Research』の査読1本、『心理学研究』の査読1本、『教育心理学研究』の査読4本

南 紅玉 (助教)

[専門分野]

教育学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 教育情報学応用論概論 後期

他大学 持続可能な社会 後期

他大学 ジェンダー論 前期

[その他教育上に関する活動]

オンラインオープンキャンパスにて私費外国人留学生入試説明会を実施し、進路指導を行った。

[論文]

(単著) 「大学入試における各国の COVID-19 対策—日本, 中国, 韓国の共通試験を事例に—」 『日本テスト学会誌』 17 巻 1 号 61-74 2021 年

(共著) 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」 『大学入試研究ジャーナル』 31 巻 394-400 2021 年

(単著) 「大学入試における不正行為の未然防止について考える 第二回 韓国の修能 (大学修学能力試験) 不正防止対策について」 『金子書房「こころ」のための専門メディア note』 2022 年 3 月

(単著) 「大学入試における不正行為の未然防止について考える 第一回 中国の高考 (大学入試) 不正防止対策について」 『金子書房「こころ」のための専門メディア note』 2022 年 3 月

[総説・解説記事]

(共著) 「シンポジウムのアンケート結果と実施運営のバックヤード」 『シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策: 令和 3 年度の舞台裏」報告書』 85-100 2022 年 3 月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

若手研究 国際結婚移住女性のエンパワーメントとノンフォーマル教育 2018 年 6 月～2022 年 3 月 代表者

挑戦的研究 (開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019 年 6 月～2023 年 3 月 分担者

[学内活動]

全学委員会 令和 4 年度一般選抜 (前期日程) 入学試験実施本部員 2022 年 2 月～2022 年 2 月

その他の主要活動 入学試験審議会オブザーバー 2021 年 10 月～

その他の主要活動 入試広報委員会オブザーバー 2021 年 10 月～

その他の主要活動 入試実施委員会オブザーバー 2021 年 10 月～

その他の主要活動 令和 4 年度大学入試共通テスト試験 (試験監督) 2022 年 1 月～2022 年 1 月

その他の主要活動 特別選抜 (私費外国人留学生入試) オンライン学力試験監督 2022 年 3 月～2022 年 3 月

[学会活動および外部機関における活動]

【プレイバック座談会】大学入試におけるコロナ対策—令和 3 年度入試の舞台裏— オンライン配信担当 2021 年 12 月～2021 年 12 月

[学外の社会活動]

宮城県進路しどう研究会進学部会情報交換連絡会

北原 良夫 (教授)

[専門分野]

ヨーロッパ語系文学

言語学

教育学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 英語 B1-1/2 1 セメスタ

全学教育 英語 C1-1/2 3 セメスタ

全学教育 英語 B2-1/2 2 セメスタ

全学教育 英語 C2-1/2 4 セメスタ

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別研究 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期

大学院教育 言語データ解析論 I 後期

大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別研究 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

[学位論文指導・審査]

博士2名(副査2名)

[その他教育上に関する活動]

英語委員会準備部会会長として、各種事務処理、関係部局との折衝、諸問題への対応などを通じて、2022年度からの新しい全学教育カリキュラムにおいて「英語」科目が円滑に運営されるよう尽力した。具体的には、科目名の検討にはじまり、時間割帯の調整やクラス数の検討、2022年度時間割編成(教員配置)とそれに伴う新規採用非常勤講師の公募と審査、シラバス見本の準備や教員FDの開催、教員及び学生用配付資料(『全学教育科目履修の手引』や年度当初に配付または掲示する資料など)の作成などで、関係教員の協力を得ながら、長期間にわたり膨大な作業を遂行した。

[著書]

部分校閲(「英語Ⅰ-B」及び「英語Ⅱ-B」分、全4科目中2科目分、16節中8節分)『Pathways to Academic English 3rd Edition』東北大学出版会 2022年3月

[共同研究活動]

高等教育(カリキュラム, FD等)に関する研究 国内 2004年4月～

大学院教員の職能開発に関する研究 国内 2007年4月～

疾病予防活動に有益な情報提供に関する意識調査 国内 2010年4月～

[学内活動]

全学委員会 学務審議会全学教育改革対応委員会新しい全学教育のカリキュラムに関する英語委員会準備部会会長 2020年12月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会副委員長 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教務委員会副委員長 2021年4月～2022年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室室長 2021年4月～2022年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター副センター長 2021年4月～2022年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センタープログラム開発研究員 2021年4月～2022年3月

専攻内委員会 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター運営会議メンバー 2021年4月～2022年3月

[学内教職員支援]

東北大学全学教育教員研修実施委員(FD/S Dの企画・運営)

『言語・文化教育センターFD』(FD/S Dの企画・運営)

『言語・文化教育センターFD』(FD/S Dの企画・運営)

[プロジェクト活動]

国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム(PFFP)開発

言語教育高度専門家養成カリキュラム開発

[会議の主催・運営]

(国内会議主催)言語・文化教育センターFD 2022年2月7日

(国内会議主催)言語・文化教育センターFD 2022年3月23日

菅谷 奈津恵(教授)**[専門分野]**

日本語教育

[担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ

全学教育 日本語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 Basic Japanese 1 2セメスタ

全学教育 日本語Ⅱ 2セメスタ

全学教育 日本語Ⅲ 2セメスタ

大学院教育 第二言語教授法Ⅰ MC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究特別講義A DC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究総合演習A MC 1年1学期

大学院教育 研究のための日本語スキル MC 1年1学期

大学院教育 応用言語研究特別講義B DC 1年2学期

大学院教育 応用言語研究総合演習B MC 1年2学期

[学位論文指導・審査]

博士1名(主査1名)

[その他教育上に関する活動]

(教科書・教材の開発)"日本語教材を作成し、ウェブサイト「Tohoku-JP」にて公開している。 <https://sites.google.com/view/tohoku-jp>"

(教科書・教材の開発)"ブログ「Tohoku-JP」にて、日本語授業の関連情報や留学生の文章を公開している。 <https://tohokujp.blogspot.com/>"

〔論文〕

(共著)「コロナ禍における東北大学の日本語教育:学習者中心の遠隔授業に向けて」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 37-46
2022年3月

〔著書〕

『東北大学レポート指南書 第3版』東北大学学務審議/高度教養教育・学生支援機構 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「大学で日本語を教える教師が抱えるライティング指導の難しさ:日本語教師養成・研修の具体的検討に向けて」 口頭(一般):日本語教育学会
2021年度秋季大会 2021年11月

「慣用句の親密度と透明度の関係—中国人日本語学習者と日本語母語話者の比較を中心に—」 口頭(一般):第109回第2言語習得研究会(関東)
2022年2月

〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(C) 言語習得の観点から見た表現の借用と適切な引用 2018年4月~2022年3月 代表者

基盤研究(B) 日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成:批判的思考を中心に 2018年4月~2022年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2018年4月~2022年3月

全学委員会 全学教育基幹科目委員会委員 2018年4月~2022年3月

全学委員会 全学教育人文科学委員会委員 2018年4月~2022年3月

全学委員会 全学教育基礎ゼミ委員会委員 2018年4月~2022年3月

全学委員会 学務審議会外国語委員会委員 2020年4月~2022年3月

部局内委員会 総務委員会委員 2016年4月~

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年4月~

部局内委員会 言語・文化教育センター副センター長 2020年4月~

部局内委員会 人事委員会委員 2020年4月~

部局内委員会 教務委員会委員長 2021年4月~

その他の主要活動 東北大学附属図書館学習支援委員会委員 2016年4月~

その他の主要活動 既修得単位認定等のための審査委員 2019年4月~

専攻内委員会 国際文化研究科入試委員会委員 2021年4月~2022年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

第2言語習得研究会(関東) 運営委員 2011年4月~

日本語教育学会 日本語教育学会 審査・運営協力員 2020年6月~

上原 聡(教授)

〔専門分野〕

認知言語学・言語類型論

談話分析・対照言語学

日本語教育

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 [国際教育科目] 日本文化・社会 A「日本語の文法を外から見て考える—国際共修ゼミ—」 1セメスタ

全学教育 [展開ゼミ] カレントトピックス「歌に学ぶ日本の言葉と心—国際共修ゼミ—」 2セメスタ

大学院教育 認知言語学I MC 1年前期

大学院教育 言語科学研究特別研究A DC 1年前期

大学院教育 言語科学特別講義前期 DC 1年1学期

大学院教育 言語科学演習前期 前期

大学院教育 言語科学演習A 前期

大学院教育 言語科学特別講義後期 DC 1年2学期

大学院教育 言語科学演習後期 後期

大学院教育 言語科学特別演習B DC 1年2学期

大学院教育 言語科学特別講義B DC 1年2学期

その他 日本語研修コース前期入門日本語応用 A150 前期前半

その他 特別課程日本語前期・初中級日本語読解 R300 前期

その他 日本語研修コース前期初級日本語応用 A250 前期後半

その他 日本語研修コース後期入門日本語応用 A150 後期前半

その他 中上級日本語共修ゼミ(JS500):歌に学ぶ日本の言葉と心 後期

その他 特別課程日本語後期・初中級日本語読解 R300 後期
その他 日本語研修コース後期初級日本語応用 A250 後期後半

〔学位論文指導・審査〕

修士 3 名 (主査 2 名、副査 1 名)

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2021 年度 大学院学生 (博士課程前期 2 年の課程) 口頭発表件数:1 件 論文発表件数:1 件 学会発表件数:1 件
2021 年度 大学院学生 (博士課程後期 3 年の課程) 口頭発表件数:3 件 論文発表件数:6 件 学会発表件数:3 件

〔その他教育上に関する活動〕

大学院国際文化研究科 国際言語総合科学コース
日本学国際共同大学院 (GPJS) 教育プログラム

〔論文〕

(共著) 「英日ベルシャ語における移動表現の類型論: 主要部に基づく「傾斜」対「類型」論争の再考察」 『Open Journal of Modern Linguistics』
12 巻 01 号 29-43 2022 年 1 月

〔会議の発表・講演〕

「日本語表現の名詞指向性・なる言語性・主観性—主語省略をめぐる認知言語学的考察—」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): ドイツ文法理論研究会 2021 年秋の研究発表会 2021 年 10 月

〔共同研究活動〕

東アジア・東南アジアの言語を中心とした対照言語学的研究 研究相手先: タイ 国外 1999 年 12 月～
日本語教材リング 研究相手先: アメリカ合衆国 国外 2000 年 1 月～
中国語の方言内の社会言語学的対照研究 研究相手先: ニュージーランド 国外 2004 年 4 月～
台湾語の中の日本語 研究相手先: 台湾 国外 2005 年 11 月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 主観性に基づく言語の類型化と他の言語類型との相関に関する認知類型論的実証研究 2021 年 4 月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語研修教育専門委員会委員 2021 年 4 月～
全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語・日本文化研修プログラム実施委員会 委員長 2021 年 4 月～
全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 教育国際交流専門委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員 2021 年 4 月～
全学委員会 国際連携推進機構 運営委員会 日本語研修教育実施委員会 委員長 2021 年 4 月～
部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2021 年 4 月～
専攻内委員会 日本語プログラム HP 広報委員長 2006 年 4 月～

〔教育相談〕

のべ相談人数 30 名、のべ相談回数 35 回

〔国際交流実績〕

ニュージーランド オークランド大学 共同研究 2005 年 12 月～
タイ チュラロンコン大学 共同研究 2010 年 8 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

International Cognitive Linguistics Association reviewer 2004 年 1 月～
社会言語科学会 査読委員 2004 年 10 月～
Cognitive Linguistics Association of Britain reviewer 2006 年 1 月～
"Faculty of Arts, Chulalongkorn University" Member of the Editorial Board for Journal of Letters 2011 年 10 月～
日本認知言語学会 査読委員 2013 年 4 月～
Journal of Japanese Linguistics reviewer 2014 年 8 月～

〔兼務・兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 2004 年 4 月～

〔学外の社会活動〕

日本語教材ウェブリング

〔教育活動〕

学位論文指導・審査: 博士 5 名 (主査 1 名)、修士 5 名 (主査 2 名、副査 1 名)、研究生 2 名 [博士 1 名の日本人学生を除き他は全て留学生、留学生のうち 3 名は文部科学省大使館推薦国費留学生、1 名は岡崎記念財団奨学生]

教育支援活動/留学生等受け入れ: 大学院担当講座受入: 留学生 20 名、専門研究員 1 名、GSICS フェロー 2 名

その他: 国際言語総合科学大学院コース (国際文化研究科英語コース) 参画・授業実施・学生受入、東北大学 日本学国際共同大学院参画・授業実施

〔大学運営・支援〕

大学運営: 日本語研修教育実施委員会委員長・日本語日本文化研修プログラム実施委員会委員長
各種支援活動: 言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 情報ネットワークの維持管理

履修相談に対する対応：日本語教育プログラム・理系短プロ（JYPE/COLABS 日本語プログラム）における学生支援（全学の留学生の日本語履修上の問題や相談に対する対応）・オリエンテーション

センター業務：理系短プロ日本語プログラムコーディネーター・日本語研修コース副コーディネーター（カリキュラム編成およびクラス編成などの運営業務や学生受入指導）

〔社会活動〕

社会教育活動：Journal of Letters（タイ王国チュラロンコーン大学文学部発行）編集委員・ドイツ文法理論研究会 2021 年秋の研究発表会招待講演

趙 秀敏（教授）

〔専門分野〕

外国語教育

教育工学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎中国語Ⅰ

全学教育 基礎中国語Ⅱ

〔論文〕

（共著）「ポストコロナにおける教育スタイルを見据えてー東北大学初修外国語教育の実践ー」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』8号 69-82 2022 年 3 月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) AI を活用した大学初修中国語会話復習用アプリ教材の開発と検証 2019 年 4 月～2023 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 自己調整型マイクロラーニングと探索的学習分析による持続可能な学習環境の構築と実践 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 学習動機づけを高めるブレンディッドラーニング用スマートフォン復習環境の開発 2020 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育センター 初修語幹事会代表 2020 年 4 月～2022 年 3 月

部局内委員会 言語・文化教育センター 予算担当 2020 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 人事委員会委員 2021 年 10 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本中国語検定協会 仙台会場試験監督 2006 年 11 月～

日本中国語検定協会 評議員 2020 年 7 月～2024 年 6 月

岡田 毅（特任教授）

〔専門分野〕

教科教育学

英語学

外国語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 実践英語Ⅱ 4 セメスタ

全学教育 展開英語Ⅱ 2 セメスタ

全学教育 実践英語ⅠA 3 セメスタ

全学教育 展開英語Ⅰ 1 セメスタ

大学院教育 マルチメディア運用論 MC 1 年 2 学期

大学院教育 言語教育体系論演習

大学院教育 コーパス研究 後期

他大学 コーパス言語学 5 セメスタ

他大学 英語語法研究 8 セメスタ

〔論文〕

（共著）「Usage Patterns and Meanings of High-Frequency English Verbs: A Multi-Word Expression Approach to Japanese High School EFL Textbook Analysis」『International Journal of Applied Linguistics and English Literature』10 巻 4 号 116-116 2021 年 7 月

〔共同研究活動〕

高汎用性コーパスシステムを用いた英語教育および学習支援に関する研究 東北学院大学 国内 2010 年 4 月～

〔その他研究活動〕

（研究用データベースの構築）汎用的英語読解用コーパスシステム

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 大学入試改革を契機とする新しい高大接続英語教育用 e ラーニングパッケージの開発研究 2018 年 4 月～ 代表者

〔学術関係受賞〕

東北大学全学教育貢献賞 授与機関:東北大学 2022年1月

東北大学総長教育賞 授与機関:東北大学 2022年3月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会外国語委員会学習環境専門部会委員長 2004年10月～

全学委員会 教育実習実施委員会委員 2007年4月～

全学委員会 学務審議会外国語委員会専門委員 2007年4月～

全学委員会 東北大学グローバル人材育成推進実施委員会委員 2012年10月～

全学委員会 学務審議会人文科学系科目委員長 2013年4月～

全学委員会 学務審議会 外国語委員会委員 2013年4月～

全学委員会 東北大学グローバル人材育成推進カリキュラム委員会委員 2013年4月～

全学委員会 人文社会科学系学生交流実施委員会委員 2013年4月～

全学委員会 学務審議会委員・人文科学系科目委員長 2014年4月～

全学委員会 全学教育英語教育改革実施ワーキンググループ副座長 2020年4月～

部局内委員会 教務委員会委員長 2013年4月～

部局内委員会 国際文化研究科国際言語文化論専攻長 2013年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

英語コーパス学会 理事・機関誌編集委員 2005年10月～

〔兼務、兼業など〕

学外 東北学院大学 非常勤講師 2005年4月～

学内 日本英語検定協会 実用英語検定試験2次面接委員 1996年10月～

〔学外の社会活動〕

実用英語検定試験(STEP)準1級・2級 2次試験面接委員

日本バレーボール協会公認審判員

〔その他〕

- ・国際文化研究科教授として在籍中、高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター長特別補佐を兼務する。
- ・外国語委員会 英語教育改革実施ワーキンググループ副座長として新しいカリキュラムに沿った教育改革を推進する。
- ・実施した2種類のTOEFL ITP(R)テストの報告書を外国語委員会英語教科部会に提出しweb等より公開する。

竹林 修一 (准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1、英語 A2、英語 B1、英語 C1、英語 C2、冷戦史、ポピュラー・カルチャー入門

学部教育 看護学専攻学術英語 後期

他大学 英文法、ポキャブラリー・ビルディング

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 医学部保健学科看護学専攻との共同プロジェクト (英語教育)

〔論文〕

(共著) 「The Tohoku method: A new academic English curriculum at Tohoku University and its preliminary evaluation」 『Proceedings of JACET 60th Commemorative International Convention』 2021年8月

(単著) 「ホーボーをめぐる言説とその変移：誕生から現代まで」 『言語・文化教育センター年報』 7号 21-29 2022年3月

〔著書〕

『Pathways to Academic English Third Edition』 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「The Tohoku Method: A New Academic English Curriculum at Tohoku University and its Preliminary Evaluation」 口頭 (一般): JACET 2021年8月

〔総説・解説記事〕

(単著) 「1960年代のアメリカ: 「ハウ・トゥ・サクシード」の時代背景」 『「ハウ・トゥ・サクシード (ミュージカル)」公式プログラム』 2021年11月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会指名委員 2018年4月～2022年3月

全学委員会 英語委員会準備部会 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、言語・文化教育センター運営会議メンバー 2018年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、紀要・出版委員会 2018年4月～

その他の主要活動 英語教科部会 (時間割係) 2021年4月～2022年3月

〔学内教職員支援〕

英語教科部会、カリキュラムの評価分析（FD／SDの企画・運営）

英語教科部会、新年度英語科目の説明会（FD／SDの企画・運営）

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北アメリカ研究会 幹事 2018年5月～

〔学外の社会活動〕

英語スピーチ作成・実践ワークショップ

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

Toastmasters International コミュニケーションとリーダーシップの向上を図るための活動 2017年4月～2021年9月

桜井 静（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 英語 A1 前期

全学教育 英語 C1 後期

全学教育 英語 B1 前期

全学教育 英語 A2

全学教育 英語 B2

全学教育 英語 C2

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）2022年度全学教育科目「英語 I-A」および「英語 I-B」、「英語 II-A」、「英語 II-B」対象指定教科書 Pathways 3rd Edition の開発・校正

（教科書・教材の開発）2021年度全学教育科目「英語 A1」、「英語 B1」、「英語 A2」、「英語 B2」で使用される教科書補助教材を作成。オンライン（Google Drive 共有ファイル）で公開し、英語科目担当全教員向けに提供した。

〔論文〕

（共著）「The Tohoku Method: A New Academic English Curriculum at Tohoku University and its Preliminary Evaluation」『The JACET 60th International Convention Proceedings』 53-54 2021年8月

〔著書〕

『Pathways to Academic English 3rd Edition』東北大学出版会 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「The Tohoku Method: A New Academic English Curriculum at Tohoku University and its Preliminary Evaluation」口頭（一般）：The JACET 60th Commemorative International Convention 2021年8月

「Use of Interactive Videos in University EFL Learning」口頭（一般）：12th ATEM Higashinihon Chapter Online Conference 2022年3月

〔共同研究活動〕

一般学術目的の英語能力育成カリキュラムと形成的評価の効果（The Impact of a Curriculum-based Formative Assessment on EGAP）国内 2021年4月～2022年3月

英語スピーキングスキル向上のためのインタラクティブビデオ（Use of Interactive Videos in University EFL Learning）国内 2021年10月～2022年3月

東北大学の TOEFL ITPR スコア向上要因を探る研究 国内 2022年2月～

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（補助金、受託・共同研究費、寄附金以外の研究費）TOEFL ITP から iBT に繋がる EGAP 教育のための教材研究と開発 2021年4月～2022年3月

〔学内活動〕

部局内委員会 言語・文化教育開発室講師 1 名（英語） 人事選考委員会 2021年3月～2021年4月

部局内委員会 英語委員会準備部会 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 英語教科部会 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 言語・文化教育開発室講師 2 名（英語） 人事選考委員会 2021年11月～2021年12月

〔学内教職員支援〕

2021年度第1回英語教科部会 TOEFL ITPR テスト第2回テストのスコアを「英語 A2」の成績評価に加味する件について 「TOEFL ITPR テストスコアの英語 A2/B2 への配分案」資料作成（FD／SDの企画・運営）

第88回 正午 PD(Professional Development)会 東北大学全学共通科目「英語」の新カリキュラムについての発表 発表タイトル「新英語カリキュラム：一般学術目的の英語運用能力の育成を目指して」（講師）

2021年度第3回英語教科部会 全学教育科目「英語 A/B」Google Drive 共有教材ファイルの説明担当（FD／SDの企画・運営）

全学教育科目「英語 B」共有教材ファイル、Google Suite を使った英語教材・試験作成の説明（希望者への個別説明会）（FD／SDの企画・運営）

2022 年度全学教育「英語 I-A」「英語 I-B」説明会（科目担当教員対象） ・ 現行カリキュラムと共通指定教科書についての説明 ・ 2021 度の TOEFL ITPR テストスコアの分析 (I-A, I-B 共通) ・ 「英語 I-A」「英語 I-B」指導の際の重要点 ・ GOOGLE DRIVE 共有教材について (FD/S/Dの企画・運営)

〔教育相談〕

のべ相談人数 5 名、のべ相談回数 5 回

〔その他〕

- ①全学教育英語科目（新カリキュラム）で使用される共通英語教材を他教員と共同で作成、オンライン化。FD を開催し、その効果的な使用方法やコアスキルの指導方法を説明した。共通教材作成チームリーダーを務めた。
- ②令和 4 年度の全学英語科目の「英語 I-A」, 「英語 I-B」, 「英語 II-A」, 「英語 II-B」で使用される共通教科書 Pathways to Academic English 3rd Edition の出版のため、チームの一員として取り組んだ。

Scura Vincent (准教授)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 英語 A 通年

全学教育 英語 B 通年

全学教育 英語 C 通年

〔著書〕

『Pathways to Academic 3rd Edition』 2022 年 3 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

Academic FORA Session Chair 2016 年 4 月～

〔教育活動〕

(TOEFL Preparation) Introduced TOEFL test taking techniques resulting in demonstratively higher TOEFL scores via the new Unified English Curriculum

SPRING RYAN EDWARD (准教授)

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 英語 A1 前期

全学教育 英語 B1 前期

全学教育 英語 C2 前期

全学教育 英語 A2 後期

全学教育 英語 B2 後期

大学院教育 言語研究法 後期

他大学 英語 Aa 前期

他大学 英語コミュニケーション Ah 前期

他大学 英語コミュニケーション Bh 後期

他大学 英語 Ca 後期

〔論文〕

(共著) 「同期型オンライン授業における学生のカメラ使用による効果」 『映像メディア英語教育研究』 26 巻 143-154 2021 年 5 月

(共著) 「Assessing the Practicality of Using an Automatic Speech Recognition Tool to Teach English Pronunciation Online」 『STEM Journal』

22 巻 2 号 93-104 2021 年 5 月

(共著) 「"The Tohoku method: A new academic English curriculum at Tohoku University and its preliminary evaluation."」 『The JACET 60th Commemorative International Convention Proceedings』 53-54 2021 年 8 月

(共著) 「he/she エラーと母語干渉と地域性の訛り」 『The JACET 60th Commemorative International Convention Proceedings』 210-211 2021 年 8 月

(共著) 「"Instructor- versus peer-based participation scores in EFL classes: Comparisons and correlation to oral proficiency."」 『The Electronic Journal for English as a Second Language』 26 巻 3 号 2021 年 11 月

(共著) 「Acquiring the core-peripheral distinction in split intransitivity」 『Journal of Second Language Studies』 5 巻 1 号 144-169 2022 年 1 月

(共著) 「"The Typology of Motion Expressions in English, Japanese, and Persian: Reconsidering the Cline versus Typology Debate Based on Heading"」 『Open Journal of Modern Linguistics』 12 巻 01 号 29-43 2022 年 2 月

(共著) 「Comparing syntactic complexity measures counted by Tregrex-based tagging and UD-based tagging for evaluating L1 Japanese EFL paragraph writing」 『Proceedings of the 28th Annual Meeting of the Association for Natural Language Processing』 319-323 2022 年 3 月

(共著) 「The New Normal: How the COVID-19 Pandemic Accelerated the Adoption of a New English Curriculum」 『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University』 8 巻 61-68 2022 年 3 月

〔著書〕

『Pathways to academic English』 Tohoku University Press 2021 年

Editor 『"Pathways to Academic English, 3rd Edition"』 Tohoku University Press 2022 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「オンラインでのスピーキング授業 - 赤ペン添削と修正」 口頭（一般）：外国語教育メディア学会（LET）第 60 回全国研究大会 2021 年 8 月

「he/she エラーと母語干渉と地域性の訛り」 口頭（一般）：JACET 第 60 回記念国際大会 2021 年 8 月

「The Tohoku method: A new academic English curriculum at Tohoku University and its preliminary evaluation」 口頭（一般）：JACET 60th Commemorative International Convention 2021 年 8 月

「Making English the Lingua Franca in EFL Multimedia: Then and Now」 口頭（招待・特別）：The 26th ATEM (The Association for Teaching English through Multimedia) International Conference 2021 年 11 月

「How the English of Movies, TV Dramas, and YouTube Can Contribute to the Development of Practical English Education: Present Perfect」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：The 26th ATEM (The Association for Teaching English through Multimedia) International Conference 2021 年 11 月

「Using Automatically Calculated Measures of Complexity to Aid in Essay Grading」 口頭（一般）：The 146th LET (The Japan Association for Language Education & Technology) Kanto Branch Research Conference 2021 年 12 月

「Use of interactive videos in university EFL learning」 口頭（一般）："The 12th Annual East Japan Branch Conference of the Association for Teaching English through Multimedia." 2022 年 3 月

「Comparing syntactic complexity measures counted by Tregrex-based tagging and UD-based tagging for evaluating L1 Japanese EFL paragraph writing」 口頭（招待・特別）：The 28th Annual Meeting of the Association for Natural Language Processing 2022 年 3 月

〔総説・解説記事〕

（共著）「"Common pronunciation mistakes that affect intelligibility: A preliminary error analysis of Tohoku University EFL students."」

『Annual Report of the Center for Culture and Language Education』 7 巻 37-44 2022 年 3 月

〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 令和 3 年度教育開発推進経費）TOEFL ITP から iBT に繋がる EGAP 教育のための教材研究と開発 2021 年 5 月～2022 年 3 月

〔学内活動〕

その他の主要活動 ノース・カロライナ大学シャーロット校との交換留学協定締結 副担当者 2014 年 9 月～

その他の主要活動 メリーランド大学との交換留学締結 副担当者 2015 年 4 月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

マルチメディア英語教育学会東日本支部 副部長 2018 年 12 月～

映像メディア英語教育研究 査読者 2018 年 12 月～

The Electronic Journal for English as a Second Language Board of Reviewers 2021 年 11 月～

〔その他〕

- ① 新英語カリキュラムのオンライン教材の修正・改善
- ② 新英語カリキュラムに取り組む教員を支援する教材サポートデスクの立ち上げ・任務
- ③ 国際文化研究科の博士課程論文の審査員

MERES RICHARD PAUL (准教授)

〔専門分野〕

コミュニケーション

プロソディ

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 English C1 Essay Writing 前期前半

全学教育 B1-1 Academic Listening and Speaking 前期前半

全学教育 B1-2 Academic Listening and Speaking 前期後半

全学教育 English C2 Citing and Referencing 前期後半

全学教育 English B2-1 Integrated Academic Speaking and Listening 後期前半

全学教育 English B2-2 Integrated Academic Speaking and Listening 後期後半

全学教育 English C3 Presentation Preparation 後期前半

全学教育 English C4 Presentation Strategies 後期後半

〔論文〕

（共著）「"The Design, Implementation and Efficacy of an Online Virtual Exchange Program: -Transitioning from an Overseas Exchange to a Virtual Exchange with a Partner University in the Age of COVID-19"」 『高度教養教育・学生支援機構 紀要』 第 7 号巻 57-66 2021 年 4 月

〔会議の発表・講演〕

「Introducing Supplemental Teaching Resources for the 2022 C1 and C2 English Courses」 口頭（一般）：言語・文化教育センターFD Introducing Supplemental Teaching Resources for the 2022 C1 and C2 English Courses 2022年2月

〔学内教職員支援〕

"Again for 2021, I developed and implemented a virtual version of the Montana Faculty-Led Program. Instead of going overseas, a virtual program was re-developed and re-implemented called A Multi-Cultural Exchange through the Lens of Global Environmental Issues: A Virtual Exchange Between Tohoku University and the University of Montana. It was a one-credit program." (その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

EIKEN EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner 2010年4月～

The Japan Association for Language Teaching (JALT) The Japan Association for Language Teaching (JALT) 2012年4月～

American Communication Association (ACA) American Communication Association (ACA) 2015年4月～

JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) 2016年4月～

American Speech Language Hearing Association California Speech Language Hearing Association 2016年11月～

〔兼務、兼業など〕

学外 英語検定二次試験面接官 英語検定二次試験面接官 2000年4月～

〔教育活動〕

Classes this year were a mix of in-person learning and real-time online lessons. It was a challenge to find a safe and effective balance, but ultimately all students were able to participate either virtually or in-person according to their situations. Using Zoom and breakout sessions the students were able to have real-time lessons allowing them to participate actively. All final presentations were done online. A lot of emphasis was placed on online presentation skills.

〔研究活動〕

Contributed to a report in the 2021 第7号 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 titled "Report on Teaching English A1 and B1 Core Skills in 2020: Implications from Student Survey, Core Skills Tests, and TOEFL Data"

Co-wrote a report in the 東北大学言語・文化教育センター年報 titled "The creation of a New Teaching Guide and Updated Lesson Materials for the 2022 C1 and C2 English courses"

〔大学運営〕

Continued work towards English curriculum reform. Helped make revisions for 「Pathways to Academic English 3rd Edition」 and revised C chapters from C2.1 Presentation Preparation and C2.2 Presentation Strategies to match the new C3 and C4 classes.

〔各種業務〕

For the second year in a row, I developed and implemented a virtual version of the Montana Faculty-Led Program. Instead of going overseas, a one-credit virtual program was re-developed and re-implemented called A Multi-Cultural Exchange through the Lens of Global Environmental Issues: A Virtual Exchange Between Tohoku University and the University of Montana. It was a one-credit program.

Co-managed and presented at a 言語・文化教育センターFD called, "Introducing Supplemental Teaching Resources for the 2022 C1 and C2 English Courses."

〔社会貢献〕

Continued membership and participation in The Japan Association for Language Teaching (JALT) and attended various regional events online

Continued membership and participation in JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG)

Continued membership and participation in the American Communication Association (ACA)

Continued certification as an EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner and provided interviews for the EIKEN 二次試験 several times throughout the year

Continued membership and participation in the American Speech-Language-Hearing Association

KAVANAGH BARRY (准教授)

〔専門分野〕

言語学

言語養育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 現代大学論 全学教育 全学教育

全学教育 言語研究法

全学教育 English C1

全学教育 English C2

全学教育 English A2

全学教育 English B2

[論文]

(単著) 「CLIL で繋ぐ異文化理解」 『Japanese society of Language sciences』 2021年7月

(共著) 「An Introduction of Lesson Strategies and Resources for the English C Classes」 『言語・文化教育センター年報』 2022年3月

(単著) 「Creating a pathway to academic English: the execution of a New English Curriculum at Tohoku University within an Online Learning Environment」 『In Y. Ono & M. Shimada (Eds.) Data Science in Collaboration, Volume 5 (pp. 106-112). Tsukuba: inext Co., Ltd.』 5巻 106-112 2022年3月

(共著) 「The New Normal: How the COVID-19 Pandemic Accelerated the Adoption of a New English Curriculum」 『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University』 2022年3月

(単著) 「There is Nothing so Practical as a Good Theory: Examining the Theory and Practice of the New English Curriculum」 『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University』 8巻 177-185 2022年3月

(単著) 「Student Perceptions of the 2021 Pathways to Academic English Textbook and the Core Skills: An Exploratory Pilot Study」 『言語・文化教育センター年報』 2022年3月

[著書]

『Pathways to academic English 3rd edition』 Tohoku University Press 2022年3月

[会議の発表・講演]

「CLIL で繋ぐ異文化理解—留学生・日本人学生の空手と日本文化合同授業について」 口頭 (一般) : 言語科学会第9回年次国際大会 2021年6月

「A three-year longitudinal study on the integration of two cultures among bilingual bicultural children residing in the UK and Japan」 口頭 (一般) : Sociolinguistics Symposium 23 Hong Kong 2021年6月

「Online CLIL: Lessons learned, and opportunities gained during the COVID 19 pandemic」 口頭 (一般) : J-CLIL 東北支部大会 2021年7月

「The Demon Slayer Phenomenon: What Can Anime Teach us about Differing Cultural, Social, and Political Perspectives?」 口頭 (一般) : 日本 CLIL 教育学会第4回大会 2021年10月

「How the global response to the manga and animation series ‘Demon Slayer’ can provide us with an insight into differing cultural perspectives」 口頭 (一般) : 第26回映像メディア英語教育学会国際大会 2021年11月

「Developing Intercultural awareness through film and anime: some examples from a CLIL course in Japan」 口頭 (招待・特別) : "FLAME (Film, Languages and Media in Education) at Manchester Metropolitan University and FILTA (Film in Language Teaching Association)." 2021年11月

「Using a CLIL approach to teach Karate and Japanese culture: A case study of a combined class of international and Japanese EFL students」 口頭 (一般) : "English Scholars Beyond Borders, Dhofar University International Conference (ESBB-DUIC 2021)" 2021年12月

「Designing and Implementing a New Academic English Curriculum at Tohoku University: Goals and Preliminary Results」 口頭 (一般) : 1st International Conference of TESOL & Education (ICTE) 2022年1月

「Creating a pathway to academic English: the execution of a New English Curriculum at Tohoku University within an Online Learning Environment」 口頭 (一般) : 言語学とデータサイエンス 筑波大学 2022年1月

「Pathways to Academic English: The Journey from Curriculum to Materials Development」 口頭 (一般) : The 18th Annual CamTESOL Conference on English Language Teaching 2022年2月

「What can ELT textbook evaluation tell us about the effectiveness of a University English curriculum?」 口頭 (一般) : The 4th Applied Linguistics and Language Teaching International Conference (ALLT 2022) 2022年3月

「An examination into heritage language education through CLIL within the context of the European Japanese supplementary school」 口頭 (一般) : 4th LSP International Conference (LSPIC 2022) and the 21st ESEA (English in Southeast Asia) International Conference 2022年3月

「What is the best way to teach learners of Japanese as a heritage language? The case for content and language integrated learning (CLIL)」 口頭 (一般) : 2022 AATJ Spring Conference (American Association of Teachers of Japanese) 2022年3月

[共同研究活動]

FILTA and ATEM intercultural awareness (FILTA and ATEM intercultural awareness) 研究相手先:その他 Manchester Metropolitan university 国外 2021年4月～

Syllabus development and curriculum reform at Tohoku University (Syllabus development and curriculum reform at Tohoku University) Tohoku university 国内 2021年4月～

C1 and C2 courses materials development, supplemental guidebook co-author

[その他研究活動]

(研究用データベースの構築) J-CLIL Vice President

(研究用データベースの構築) J-CLIL Tohoku Chair

(校訂版テキスト編集) JJ-CLIL Journal Editor

(フィールドワーク) CLIL and heritage language education

(フィールドワーク) CLIL Teacher Training Institute director

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) An examination into heritage language education through CLIL within Japan and the UK 2018年4月～2022年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 英語カリキュラム改善・改革WGとTask Force 2018年8月～

全学委員会 New curriculum materials development project (MDP)committee leader 2020年2月～

全学委員会 新英語カリキュラムチーム委員会リーダー 2020年4月～

全学委員会 英語教科部会 言語文化・教育コミュニケーションオフィサー 2020年4月～

全学委員会 総務委員会 2021年4月～

〔学内教職員支援〕

"説明会 2021 curriculum outline, purpose and goals" (FD/S Dの企画・運営)

Introducing Supplemental Teaching Resources for the 2022 C1 and C2 English Courses (FD/S Dの企画・運営)

〔学会活動および外部機関における活動〕

Communication quarterly 査読者 2016年10月～

日本 CLIL 教育学会 東北支部長 日本 CLIL 教育学会 2017年10月～

J-CLIL 東北 支部長 J-CLIL 2017年10月～

Journal of Cognitive Science 査読者 査読者 2018年1月～

Computers in Human behavior Journal 査読者 査読者 2018年1月～

First Monday Journal 査読者 査読者 2018年1月～

J-CLIL Journal Editor 日本 CLIL 教育学会 2018年1月～

映画英語教育学会 東日本企画委員 2018年12月～

A TEM 東日本支部 東日本企画委員 2019年4月～

J-CLIL J-CLIL ウェブサイト管理 2019年4月～

"映像メディア英語教育研究 査読者" "映像メディア英語教育研究 査読者" 2020年4月～

J-CLIL Journal・J-CLIL Journal editor J-CLIL Journal・J-CLIL Journal editor 2020年4月～

J-CLIL J-CLIL 副会長 2021年4月～

映像メディア英語教育研究 映像メディア英語教育研究 企画委員 2021年4月～

J-CLIL J-CLIL web editor 2021年4月～

CLIL Teacher Education Program (CTEP) CLIL Teacher Education Program (CTEP) 理事長 2021年11月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議主催) 2018年～現在 J-CLIL 東北支部大会 organizer / J-CLIL 東北支部長 2018年4月

(国内会議主催) A TEM (映画英語教育学会) 東日本支部運営委員会・企画委員 2018年8月～現在

(国内会議主催) J-CLIL 東北支部 / J-CLIL 東北支部長 2021年7月19日

(国内会議主催) "東日本支部特別企画 A SPECIAL WEBINAR FROM THE UK BASED ACADEMIC ASSOCIATION FILTA (FILM IN LANGUAGE TEACHING ASSOCIATION) AND FLAME (FILM, LANGUAGES AND MEDIA IN EDUCATION)" 2021年10月3日

(国際会議主催) J-CLIL Tohoku Special webinar from the UK 2022年2月27日

〔学外の社会活動〕

J-CLIL Tohoku FITA collaboration seminar

"東日本支部特別企画 A SPECIAL WEBINAR FROM THE UK BASED ACADEMIC ASSOCIATION FILTA (FILM IN LANGUAGE TEACHING ASSOCIATION) AND FLAME (FILM, LANGUAGES AND MEDIA IN EDUCATION)"

Invited speaker for FILTA international webinar

日本 CLIL 教育学会東北支部特別 ウェブセミナー J-CLIL TOHOKU special webinar series

〔報道〕

雑誌(出演・執筆)「CLILは、ほかの「外国語で学ぶ」教育とどのように違うか？」 Institute of Bilingual Science 2021年8月

〔教育活動〕

Created new lesson content based on the new English curriculum.

Led the team that created the revised 2022 C course English curriculum. This consisted of a revised C1 Academic Writing and C2 Academic Presentation course based on feedback.

Created lesson materials for the C courses for the shared Google drive.

Helped author the special PDF booklet 'Lesson Strategies and Resources – A supplement to the C1 Integrated Writing and C2 Integrated Presentation 2nd year courses'

Conducted research on textbook evaluation / curriculum effectiveness

Contributed to and helped edit 'Pathways to Academic English' 2022.

Helped revise and review the new curriculum and syllabus for A and B classes as part of a working group.

Helped revise and review the language testing materials for A and B classes as part of a working group.

Helped revise and review the language learning materials for A and B classes as part of a working group.

[研究活動]

Organized and presented at Two international J-CLIL Tohoku Webinars, an annual conference in collaboration with the IEHE as part of my role as J-CLIL Tohoku chair.

Gave 13 academic presentations including 2 invited talks.

Published 7 papers in academic journals. (Including work done on the new English curriculum).

Edited the JJ-CLIL journal.

Invited to review papers and books based on the fields of my expertise.

Conducted and continued my kaken funded research.

Helped organize ATEM (Association for Teaching English through multimedia) chapter conferences and an international seminar through collaboration with Manchester Metropolitan university in the UK.

Become the Vice President of J-CLIL 教育学会.

Held committee posts at J-CLIL 教育学会 and ATEM (Association for Teaching English through multimedia).

Became a director of CTEP (CLIL Teacher Education Program) that creates language, materials, and teacher education workshops on an international scale.

Collaborated with research colleagues in the UK on curriculum-based research.

[大学運営]

Served on various working groups for the implementation of the new English language curriculum such as the 外国語委員会英語教育改革実施 WG.

Served as liaison officer between the English Section and the Center for Language, Culture and Education.

Served on the 総務委員会委員.

Timetable duties: Helped with administration of students wishing to retake courses

Helped with general administration duties within the CCLE English section including translation work, curriculum reports etc.

[各種業務]

Created material for the 'Materials' for the English curriculum Organized and presented at the CCLE FD 'Introducing Supplemental Teaching Resources for the 2022 C1 and C2 English Courses'.

[社会貢献]

Organized and presented at Two international Webinars for J-CLIL Tohoku, ATEM and FILTA academic organizations with attendees coming from all over the world. Gave an interview with the Institute of Bilingual Science on CLILは、ほかの「外国語で学ぶ」教育とどのように違うか？

KANG MINKYEONG (准教授)

[専門分野]

ドイツ語学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ドイツ語 I 前期

全学教育 基礎ドイツ語 II 後期

全学教育 基礎ドイツ語 I 後期

他大学 (東京外国語大学) 中央ヨーロッパ言語研究 (ドイツ語学) 後期

[論文]

(共著) 「ポストコロナにおける教育スタイルを見据えて—東北大学初修外国語教育の実践—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 69-82 2022年3月

[著書]

(共著) 『アクセス独和辞典 第4版』 2021年4月

[総説・解説記事]

(単著) 「東北大学「基礎ドイツ語」(1年生) 授業実践報告」 『小泉勇人・茂木謙之介・大嶋えり子 (編) 『オンライン授業の地平—2020年度の実践報告—』 雷音学術出版』 p. 41. 2021年4月

(単著) 「東北大学「展開ドイツ語」(2年生以上) 授業実践報告」 『小泉勇人・茂木謙之介・大嶋えり子 (編) 『オンライン授業の地平—2020年度の実践報告—』 雷音学術出版』 p. 42. 2021年4月

[学内活動]

全学委員会 初修語委員会準備部会委員 2021年1月~2022年3月

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2016年4月~

部局内委員会 施設整備委員会委員 2017年4月~

その他の主要活動 学友会オリエンテーリング部長 2021年4月~

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北ドイツ文学会 編集委員会委員 2020年4月～

日本独文学会 編集委員会委員（語学部門） 2021年3月～

公益財団法人ドイツ語学文学振興会 ドイツ語技能検定試験 試験会場（東北大学）の副責任者兼試験監督 2021年6月

深井 陽介（准教授）

〔専門分野〕

フランス文学

フランス語教育学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ 1, 2セメ

全学教育 展開フランス語Ⅲ・Ⅳ 5, 6セメ

〔教育活動に関する受賞（指導大学院生・学部生の受賞を含む）〕

第3回 全日本学生フランス語プレゼンテーション大会 準優勝 京都外国語大学 2021年11月13日

文部科学大臣賞: 文部科学省、APEF（フランス語教育振興協会） 2022年3月25日

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）「ゴンクール賞日本」運営委員

〔論文〕

（共著）「ポストコロナにおける教育スタイルを見据えてー東北大学初修外国語教育の実践ー」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第8号』 8号 69-82 2022年3月

〔著書〕

"p.151-174." 『Le poete et son critique -Hommage a James Lawler-』 Hermann 2021年

"p.265-293." 『語りと主観性』 ひつじ書房 2022年2月

〔会議の発表・講演〕

「フランス文学の教育」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：日本フランス語フランス文学会秋季全国大会 2021年10月

「努力は緊張のワクチン」 口頭（招待・特別）：聖ウルスラ英智高等学校国際理解週間講演会 2021年11月

「東北大学プルリリンガル・スタディーズ（TUPuS）の創設」 口頭（一般）：プルリリンガリズム・シンポジウム 2022年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 若手研究 キャリア形成のための外国語教育研究ー動画制作を用いたフランス語教育 2018年4月～ 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 言語文化教育センター運営委員 2017年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要委員 2020年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター初修語準備部会委員 2021年4月～

その他の主要活動 全学教育フランス語部会員 2019年4月～

〔プロジェクト活動〕

東北大学・ローザンヌ大学共同映画プロジェクトPR I S E

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本フランス語教育学会 学会誌編集委員 2015年4月～

日本フランス語教育学会 理事 2018年6月～

日本フランス語フランス文学会東北支部 運営委員 2018年12月～

APEF 日本フランス語教育振興協会 理事 2019年5月～

日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 2021年4月～

〔その他〕

東北大学のフランス語検定の受験者数がのべ239名と過去最高に達し、全学教育の「展開フランス語Ⅲ・Ⅳ」を受講している文学部2年の赤城みうさんが、2級の試験で全国最高得点を取り、文部科学大臣賞を受賞した。

2021年11月13日に京都外国語大学主催で行われた「第3回全日本学生フランス語プレゼンテーション大会」に本学から2名の学生が参加し、うち全学教育の「展開フランス語Ⅲ・Ⅳ」を受講している文学部3年の徳田沙弥さんが、準優勝に輝いた。

田林 洋一（准教授）

〔専門分野〕

言語学

外国語教育

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎スペイン語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 展開スペイン語Ⅰ 3セメスタ
全学教育 基礎スペイン語Ⅱ 2セメスタ
全学教育 展開スペイン語Ⅱ 4セメスタ

〔論文〕

(単著)「6要素6機能説に見る認知言語学的言語用法変化の諸相」 『東北大学 言語・文化教育センター年報』 7号 57-71 2022年3月
(共著)「ポストコロナにおける教育スタイルを見据えて・東北大学初修外国語教育の実践」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 69-82 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「スペインの複言語主義」 シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名): 東北大学プルリリンガル・シンポジウム 2022年3月

〔その他研究活動〕

高度教養教育・学生支援機構紀要査読担当

〔学内活動〕

全学委員会 外国語委員会委員 2020年4月～
全学委員会 初修語ワーキンググループ委員 2020年4月～
全学委員会 初修語委員会準備部会長 2020年11月～
部局内委員会 機構教育推進ワーキンググループ 2016年6月～
部局内委員会 広報小委員会 2017年2月～
部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員会委員 2017年4月～
部局内委員会 総務委員会 2018年4月～
部局内委員会 言語・文化教育センター年報編集委員 2018年4月～
部局内委員会 教務小委員会 2019年10月～
部局内委員会 教務委員会委員 2020年12月～
部局内委員会 初修語クラス分け業務担当 2021年3月～
その他の主要活動 学習環境専門部会 2016年4月～
その他の主要活動 既修得単位認定審査委員 2017年4月～
その他の主要活動 言語・文化教育センターホームページ担当 2018年4月～
専攻内委員会 スペイン語部会長 2020年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

北海道大学メディアコミュニケーション研究 査読委員 2014年4月～

〔学外の社会活動〕

インスティテュート・セルバンテス主催スペイン語能力検定試験 (DELE)

〔その他〕

スペイン語部会長、初修語委員会準備部会長、教務委員会委員、広報小委員会委員、外国語委員会委員、総務委員会委員、言語・文化教育センター年報編集委員、言語・文化教育センター運営委員会委員、学習環境専門部会部会員

Cecilia Silva (准教授)

〔専門分野〕

リテラシー

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎スペイン語

〔論文〕

(単著)「Models in Intercultural Competence: From Theory to Practice」 『Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education Tohoku University』 8巻8号 185-194 2022年3月

(単著)「Espacios Virtuales para la Interaccion en Clases de Lengua y en Encuentros Interculturales」 『ASELE Asociacion para la ensenanza de espanol como lengua extranjera』 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「SakurELE」 口頭(一般): Nuevos espacios de interaccion para las clases de lengua y los encuentros interculturales 2021年4月

「JALT ICL SIG 1st Conference (online)」 口頭(一般): Re-define features for virtual places: a) language classes b) intercultural encounters 2021年7月

「31st Conference ASELE Asociacion para la ensenanza de espanol como lengua extranjera」 口頭(一般): Espacios virtuales para la interaccion en clases de lengua y en encuentros interculturales 2021年9月

「47th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt 2021」 口頭(一般): Clases hibridas en el marco de la Teoria de la Actividad 2021年11月

「47th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition Jalt 2021」 口頭（一般）：
Tohoku University: virtual response to intercultural interaction 2021 年 11 月

〔プロジェクト活動〕

先生による先生のための研究会プロジェクトワークショップ)

スペイン語初心者のためのハンドブック

Integrating Culture in Language Teaching Workshop

Bridging the Gap between Students and Textbooks Workshop

〔その他〕

During 2021 I was in charge of two Spanish courses in level A1, one course in level A2, and a special course whose contents are adapted to students' needs and interests.

As regard development of educational material, in 2021 I made some substantial changes in the handbook I have been writing since 2012 and updating every year, to adapt it to the online environment.

Regarding extra-curricular activities, I organized, together with Cervantes Institute Tokyo and Spanish teachers of Tohoku University, the Spanish proficiency test (DELE), which was held for the sixth time in Sendai in November 2021.

As regards research, I worked on the project Developing a collaborative portfolio of intercultural heritage for online exchange in Spanish as a foreign language (基盤研究 20K00741). I managed to finish the theoretical framework based on the concepts of intercultural competence and online exchange, and I made a synthesis of intercultural models in the following article: Models in Intercultural Competence: From Theory to Practice, published in the Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education Tohoku University No.7 March 2022.

Besides, I carried out a pilot experience of online exchange between 10 students of Spanish at Tohoku University and 9 students of Castilla La Mancha University, consisting of two parts: exchange of cultural contents and intercultural interaction. This exchange will be considered the model to shape the subsequent exchanges of cultural heritage.

Presentations in online conferences:

Nuevos espacios de interacción para las clases de lengua y los encuentros interculturales

sakurELE Instituto Cervantes Tokyo, April 17-18.

Re-define features for virtual places: a) language classes b) intercultural encounters

JALT ICLE SIG 1st Conference, July 10th

Espacios virtuales para la interacción en clases de lengua y en encuentros interculturales

31st International Conference ASELE Asociación para la enseñanza de español como lengua extranjera. University of Leon, Sep. 1-3

Workshop: New contexts in language education: the challenges for theory and practice

Presentation: Clases híbridas en el marco de la Teoría de la Actividad

47th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Material Exhibition JALT 2021, Nov. 12-15.

Forum: International Virtual Exchange Courses and Their Evaluation

Presentation: Tohoku University: virtual response to intercultural interaction

47th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Material Exhibition JALT 2021, Nov. 12-15.

中村 渉 (准教授)

〔専門分野〕

言語学

情報学基礎

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 SE600 上級共修ゼミ (外から見た日本の社会) 後期

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期

大学院教育 言語科学概論 前期

大学院教育 対照言語学 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

その他 JM500 (中上級日本語文化演習) 前期

その他 RS020 前期

その他 R500 (日本語中上級読解) 前期

その他 RS020 後期

その他 S400 (中級日本語会話) 後期

[その他教育上に関する活動]

他大学へ進学する留学生を含めた日本語研修コースの受け入れ作業、授業の担当、成績管理・認定、留学生の勉学上・生活上の問題点を解決するチュートリアル等を行った。また、日本語特別課程の運営(例:プレースメントテスト)および授業にも携わった。2007年4月からは、短期留学生受け入れプログラムの日本語コースの運営および授業の担当も行っている。

本学で留学生に日本語を教える専任教員、非常勤教員、関係部署の職員を加入者とするメーリングリストの運営し、留学生の指導に必要な情報の共有化を進めている。

日本語のカリキュラム変更に伴って、レベル調整のため、レベル1~2のカリキュラムとシラバスを担当した。

[論文]

(単著)「ラテン語の不定詞付き対格構文における格配列の最適性理論による説明」『日本言語学会大会予稿集』162巻 166-171 2021年6月

[会議の発表・講演]

「ラテン語の不定詞付き対格構文における格配列の最適性理論による説明」口頭(一般):日本言語学会第162回大会 2021年6月

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(C) 非人称構文の類型論的研究 2021年4月~2025年3月 代表者

[学内活動]

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2021年4月~

その他の主要活動 日本語研修コースおよび日本語特別課程の運営 2003年4月~

[学会活動および外部機関における活動]

日本言語学会 大会運営委員 2017年4月~

林 雅子(准教授)

[専門分野]

日本語学

日本語教育

言語学

[担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ 前期

全学教育 Basic Japanese 2 前期

全学教育 課題解決型(PBL)演習A 後期

全学教育 (複数履修) 課題解決型(PBL)演習A 後期

全学教育 Basic Japanese 1 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙 K501 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙 K502 前期

その他 中級日本語漢字・語彙 K400 前期

その他 初級日本語読解 R250a 前期

その他 入門日本語読解 R150a 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙 K501 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙 K502 後期

その他 入門日本語読解 R150a 後期

その他 初級日本語読解 R250a 後期

その他 中級日本語漢字・語彙 K400 後期

[その他教育上に関する活動]

(教育方針の実践例)「アクティブ・ラーニング」の一環として「ピア・ティーチング」を国際共修ゼミ及び留学生対象日本語教育科目で実践

(教科書・教材の開発)『日本語初級から学ぶ日本文化』東北大学日本語研修コース(国費留学生)向け読解教材刊行後の他大学・他機関へのアナウンスや問い合わせへの対応、オンライン授業用教材作成

(教育方針の実践例)国立国語研究所開発『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を活用した言語分析の指導 展開ゼミ、中上級漢字クラス 学生のために一括申請して利用を促進

(教科書・教材の開発)漢字カリキュラム改革のための教材作成整備

[論文]

(単著)「ハイフレックス(HyFlex)型国際共修授業における対面・オンライン混在協働発表の環境構築」『日本教育工学会第39回全国大会講演論文集』147-148 2021年9月

(単著)「日本語とスペイン語の副詞の形態的特徴に関する対照言語学的研究」『『語彙論と文法論をつなぐ一言語研究の拡がりを見据えて』斎藤倫明・修徳健編、ひつじ研究叢書〈言語編〉第186巻』277-312 2022年3月

(単著)「ソーシャルVRプラットフォーム Gather を活用した協働型 HyFlex 授業における学生主体のテーマ・グループ決定—課題解決型 PBL 国際共修授業における導入事例—」『東北大学言語・文化教育センター年報』第7号号 7-12 2022年3月

(単著)「ソーシャルVRプラットフォームを活用した協働型 HyFlex 国際共修授業—Mozilla Hubs のグループディスカッションへの導入事例—」『東北大学言語・文化教育センター年報』第7号号 1-6 2022年3月

(単著)「国際共修授業におけるVRカメラを活用した「協働型 HyFlex 授業」の環境構築」『日本教育工学会第40回全国大会講演論文集』193-194 2022年3月

〔著書〕

「日本語とスペイン語の副詞の形態的特徴に関する対照言語学的研究」『『語彙論と文法論をつなぐ—言語研究の広がりを見据えて』斎藤倫明・修徳 健編』ひつじ書房 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「ハイフレックス (HyFlex) 型国際共修授業における対面・オンライン混在協働発表の環境構築」口頭 (一般): 日本教育工学会第39回全国大会 2021年9月

「VR技術を活用した協働型 HyFlex 国際共修授業」口頭 (招待・特別): 国立情報学研究所第46回「教育機関DXシンポ」2022年2月

「国際共修授業におけるVRカメラを活用した「協働型 HyFlex 授業」の環境構築」口頭 (一般): 日本教育工学会第40回全国大会 2022年3月

〔共同研究活動〕

「日本語学習者を対象とする文語文 e-learning 教材および文語文教授法の開発」国内 2020年4月～

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 2021年度男女共同参画推進センターネクストステップ研究費)「HyFlex 型国際共修における双方向遠隔交流での協働学習環境の構築と実践方法の研究」2021年7月～2022年3月

〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会国際教育科目委員会準備部会委員 2021年2月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会委員 2020年4月～

その他の主要活動 プレイスメントテスト開発ワーキンググループ 2019年6月～

その他の主要活動 国際共修科目・日本文化演習全般の連絡調整担当 2020年1月～

その他の主要活動 言語・文化教育センター国際交流棟録音室環境整備と先生方の利用を支援 2020年4月～

その他の主要活動 入門レベル レベル別コーディネーター 2020年4月～

その他の主要活動 日本文化特別講義担当 2020年4月～

その他の主要活動 レベル別教員アンケートワーキンググループ 2020年11月～

その他の主要活動 日本語教育プログラムコーディネーター 2021年2月～

〔学外の社会活動〕

外国人の子ども・サポートの会

金 鉉哲 (准教授)

〔専門分野〕

韓国語

日韓比較文化論

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎朝鮮語 I、II 1, 2 セメスタ

全学教育 展開朝鮮語 I、II 3, 4 セメ

全学教育 展開朝鮮語 III、IV 5, 6 セメ

その他 研究班コース (韓国語及び韓国文化) 通年

〔教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)〕

2021年度国民教育発展有功政府褒賞: 大韓民国 教育部 2021年12月13日

〔著書〕

『父の時代—息子の記憶』書肆侃侃房 2021年8月

〔会議の発表・講演〕

「日本の若者が感じる韓国文化の魅力と違和感—韓国文化の享受経験者に対する事例研究—」口頭 (一般): 異文化コミュニケーション学会/ SIETAR Japan 2021年11月

「接触経験による韓国文化理解の特徴」口頭 (一般): 日本人の韓国文化の享受に関する調査発表会 2021年12月

〔学内活動〕

全学委員会 既修得単位認定等のための審査委員 2008年2月～

その他の主要活動 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員 2016年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

パンソリ学会 国際理事 2006年3月～

近代文学会 編集委員 2016年1月～

韓国劇芸術学会 編集委員 2016年4月～

〔兼務、兼業など〕

学外 民団宮城文化センター 韓国語講師 2019年3月～

〔学外の社会活動〕

日本人の韓国文化の享受に関する 調査発表会

〔社会貢献〕

受賞 「2021年度国民教育発展有功政府褒賞」(大韓民国副総理表彰)

中村 佐知子 (講師)

〔専門分野〕

TESOL

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A2 後期

全学教育 英語 B2 後期

全学教育 英語 C2 後期

他大学 実用英語 I 前期

他大学 英語 I 前期

他大学 英語リーディング・ライティング 1 前期

他大学 基礎英語 2A 前期

他大学 基礎英語 3A 前期

他大学 基礎英語 1A 前期

他大学 応用英語 II-1A 前期

他大学 応用英語 IA 前期

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 全学教育「英語 B2」「英語 I-B」共通教科書補助教材を一部作成

(教科書・教材の開発) 全学教育「英語 A2」共通期末試験を一部作成

〔論文〕

(共著) 「同期型オンライン授業における学生のカメラ使用による効果」 『映像メディア英語教育研究』 26巻 143-154 2021年5月

〔著書〕

『スピーキングのためのやりなおし英文法スーパードリル 英語のハノン 初級』筑摩書房 2021年4月

『スピーキングのためのやりなおし英文法スーパードリル 英語のハノン 中級』筑摩書房 2021年12月

『"Pathways to Academic English, 3rd Edition"』東北大学出版会 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

"How the English of Movies, TV Dramas, and YouTube Can Contribute to the Development of Practical English Education: Present Perfect"

シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 第26回ATEM (映像メディア英語教育学会) 国際大会 2021年11月

「"Use of Interactive Videos in University EFL Learning"」口頭 (一般) : 第12回ATEM (映像メディア英語教育学会) 東日本支部大会 2022年3月

〔学内教職員支援〕

2022年度全学教育「英語 I-A」「英語 I-B」説明会運営補助

〔学会活動および外部機関における活動〕

映像メディア英語教育学会東日本支部 役員 2019年4月～

映像メディア英語教育学会 国際交流委員 2020年4月～

遠藤コラー・スサンネ (講師)

〔専門分野〕

北方史

ドイツ語教育

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語 I 1セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 I 3セメスタ

全学教育 基礎ドイツ語 II 2セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 II 4セメスタ

学部教育 岩手大学 (ドイツ語コミュニケーション発展 B) 前期集中

〔学内活動〕

その他の主要活動 ドイツ語部会 時間割係 2019年4月～2021年4月

〔兼務、兼業など〕

学内 東北アジア研究センター・ロシア・シベリア研究分野 兼務教員 2020年4月～

〔教育活動〕

授業担当

・授業のコマ数（前期週8コマ、後期週8コマ）

全学教育「基礎ドイツ語 I-1・I-2」〔理農学、法経学、医歯薬学、文教学〕（前期7コマ）と「基礎ドイツ語 II-I・II-2」〔理農学、法経学、医歯薬学、文教学〕（後期7コマ）を担当した。

全学教育「展開ドイツ語 I-1/I-2」〔文教学〕（前期1コマ）と「展開ドイツ語 II-1/II-2」〔文教学〕（後期1コマ）を担当した。

他大学の授業担当

・岩手大学の集中講義

2021年9月27日～30日まで、岩手大学人文社会科学部で「ドイツ語コミュニケーション発展B」（対象年次2・3・4年生）の授業を担当した。

〔研究〕

2021年度も東北アジア研究センター、ロシア・シベリア研究分野の兼務教員を継続した。

〔研修受講〕

①オンライン授業の方法に関する研修（ゲーテ・インスティトゥート Goethe Institut 主催）以下の4つのモジュール（講座）を終了し、修了証明を取得。Modul 1 Mit Konferenztools unterrichten 会議ツールを使った授業方法（2021/5/17・6/6）Modul 3 Mit Tools und Apps unterrichten ツールとアプリを使った授業方法（2021/6/14・7/4）Modul 4 Präsenz- und Online Unterricht kombinieren 対面とオンラインを組み合わせた授業方法（2021/7/12・8/1）Modul 2 Mit Lernplattformen unterrichten 学習プラットフォームを使った授業方法（9/13-10/3）

②ドイツ語の発音教育に関する研修（発音トレーナー認定講座）（2021/11/12, 11/19, 11/26）（ヨーロッパ外国語能力証明書 The European Languages Certificates TELC 主催）認定発音トレーナー（ドイツ語）の資格（Zertifizierter Aussprachetrainer）を取得（2022/3/4）

高橋 美穂（講師）

〔専門分野〕

ドイツ語学

〔論文〕

（共著）「ドイツ語と英語における使役に関わる構文—自由与格, lassen 使役, have 使役について—[研究ノート]」『東北大学言語・文化教育センター年報』7号 73-80 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「ドイツ語と格構文の解釈—移動動詞を例に—」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：研究会「所有・所在概念の連続性とその言語化—にはたらく諸条件に関する言語横断的比較対照研究」科研費 基盤研究（C）18K00538 2022年3月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究 使役をめぐる諸構文の意味解釈とモノの存在論に関する日独対照研究 2020年4月～2023年3月 代表者

BELLE C CHLOE（講師）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎フランス語 I-1 前期前半

全学教育 基礎フランス語 I-1 後期前半

全学教育 基礎フランス語 I-2 前期後半

全学教育 基礎フランス語 I-2 後期後半

全学教育 基礎フランス語 II-1 前期前半

全学教育 基礎フランス語 II-1 後期前半

全学教育 基礎フランス語 II-2 前期後半

全学教育 基礎フランス語 II-2 後期後半

全学教育 展開フランス語 I-1 前期前半

全学教育 展開フランス語 I-2 前期後半

全学教育（複数履修）展開フランス語 I-1 前期前半

全学教育（複数履修）展開フランス語 I-2 前期後半

全学教育 展開フランス語 II-1 後期前半

全学教育 展開フランス語 II-2 後期後半

〔会議の発表・講演〕

「Methode immediate の教材を『感染予防対策』に適応させる」口頭（一般）：第19回表現主体の外国語教育研究会 2021年11月

「ジェンダーの視点から見た薙刀の歴史——中世における武士の武器から近世における武家女性の武器へ」 口頭（一般）：ジェンダー史学会第18回年次大会 2021年12月

[学会活動および外部機関における活動]

ゴングール賞日本委員会・運営委員 2021年10月～

[その他]

- ・第3回全日本学生フランス語プレゼンテーション大会の原稿添削・発表練習・面接対策
- ・オープンキャンパスのフランス語セクションの紹介ビデオの作成

宿利 由希子（講師）

[担当授業科目（他大学も含む）]

全学教育 "日本語 E-1,2 上級日本語聴解 L690" 前期

全学教育 グローバル・コミュニケーション（中級共修ゼミ：おもしろい話とことば FT400） 前期

全学教育 盛岡大学（日本事情：外国人と日本社会） 前期集中

全学教育 課題解決型（PBL）演習A（中級共修ゼミ：操作する言語とメディア・リテラシーCM400） 後期

その他 ひらがな・かたかな H150 前期前半

その他 入門総合日本語 C150 前期前半

その他 日本語漢字・語彙 入門日本語漢字・語彙 K102 前期

その他 初中級日本語会話 S300 前期

その他 初級総合日本語 C250 前期後半

その他 ひらがな・かたかな H150 後期前半

その他 入門総合日本語 C150 後期前半

その他 中級日本語聴解 L400 後期

その他 初中級日本語会話 S300 後期

その他 日本語漢字・語彙 入門日本語漢字・語彙 K102 後期

その他 初級総合日本語 C250 後期後半

[論文]

（共著）「既習項目復習のための娯楽性を備えた日本語映像教材の開発：留学生・日本語母語話者学生・教師の協働実践」 『言語教育実践 イマ×ココ』 9号 2021年12月

（単著）「犯罪報道に見ることばの誘導性—ストーリー規制法違反の事例から—」 『高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 209-220 2022年3月

[会議の発表・講演]

「泣き方の類義表現の分類—動作主の特性に着目して—」 ポスター（一般）：日本語学会 2021年度春季大会 2021年5月

「講義における「非流暢な発話」の特徴と理解」 口頭（一般）：日本語音声コミュニケーション学会 2021年度春季大会 2021年5月

「類義表現の分類と人物像：ディケンズ作品の和訳を例に」 口頭（一般）：第126回国語語彙史研究会 2021年9月

「政治家の「非流暢な発話」と映像編集」 口頭（一般）：日本語音声コミュニケーション学会秋季大会 2021年11月

「動作の表現と人物像の中日比較—小説『三体』『七回死んだ男』の用例から—」 口頭（一般）：第46回社会言語科学会研究大会 2022年3月

[科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）]

若手研究 動作の描写による情報操作の危険性 2020年4月～2023年3月 代表者

粕壁 善隆（教授）

[専門分野]

物性II

金属物性

無機材料・物性

[担当授業科目（他大学も含む）]

学部教育 量子力学入門 3セメスタ

学部教育 材料科学総合学 通年

大学院教育 金属フロンティア工学修士研修 通年

大学院教育 先端マテリアル物理化学セミナー 通年

大学院教育 材料表面界面科学 後期

[論文]

（共著）「"SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD."」 『"Proc. 20th BIENNIAL European Conference on Chemical Vapor Deposition"』 2022年2月

（共著）「Characterization of growth and composition control in Ti1-xAlxN thin films on monocrystalline AlN by reactive CVD」 『QST Takasaki Annual Report 2020』 65-65 2022年3月

【その他の競争的資金獲得実績】

(その他補助金 原子力機構施設利用共同利用研究) イオン注入法によるチタン・シリコン・アルミ不定比化合物薄膜成長過程のその場観察 2021年4月～2024年3月

【学内活動】

全学委員会 学務審議会委員 2014年4月～2022年3月
全学委員会 安全保障輸出管理委員会委員 2014年4月～
全学委員会 国際共同教育実施委員会委員長 2015年4月～
全学委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員長 2015年4月～
全学委員会 国際共同大学院プログラム部門副部門長 2016年4月～
全学委員会 学生生活支援審議会委員 2016年4月～
全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2018年4月～2022年3月
全学委員会 国際学士コース入試小委員会委員長 2018年4月～
全学委員会 国際学位コース(学部担当)小委員会委員長 2018年4月～
全学委員会 国際戦略室運営会議学術交流協定ワーキンググループ 2020年4月～
部局内委員会 紀要・出版委員会委員長 2018年4月～2022年3月

【国際交流実績】

アメリカ合衆国 ワシントン大学 授業料不徴収条項を含む学生交流協定締結 2014年8月～
アメリカ合衆国 カリフォルニア大学 授業料不徴収条項を含む学生交流協定締結および短期派遣プログラムの実施 2015年10月～

【兼務、兼業など】

学内 東北大学国際連携推進機構 教授 2017年4月～

【行政機関・企業・NPO等参加】

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)実施委員会 委員 2012年4月～
独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)選考委員会 委員 2013年1月～
独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員会 委員 2014年10月～
独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門 選考委員会 委員 2016年10月～
文部科学省 国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会 委員 2018年9月～
独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)実施委員会 委員長 2020年4月～

【教育活動】

コロナ禍によるオンライン授業ではあったが、「量子力学入門」(工学部生140名ほど)では、量子力学の学問体系の学修を第一としながら、量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流、協定校のウイーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて、量子力学の創生の意義、相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目:「材料表面界面科学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し、物性物理学、材料工学の発展に寄与するよう工夫した。理工系サマープログラム(TSSP)は、コロナ禍により中止となったが、次回の開催に向けた科目・研修内容の充実を検討した。

【大学運営・支援及び医療業務】

UW-TU:アカデミックオープンスペース(AOS)の教育担当副代表として、コロナ禍により中止となった、ワシントン大学とのサマープログラム、学生派遣修学プログラム(COLABS)等の教育プログラムの見直しと充実に努めた。

【社会貢献】

独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度(短期受入れ・短期派遣)実施委員会委員長、及び同選考委員会委員として、国の留学生施策についての立案、提言、評価および学生選考等を行い、ニューノーマル時代を見据えた国の積極的な留学生施策に寄与した。官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員、さらに官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門選考委員として、日本の未来を担うグローバル人材となる学生育成の官民協働事業を推進した。文部科学省の国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会の委員として国費留学生政策に貢献した。

末松 和子(教授)

【専門分野】

異文化間教育

【担当授業科目(他大学も含む)】

全学教育 異文化理解「異文化間コミュニケーションを通じて世界を知ろう」前期
全学教育 課題解決型PBL演習B「キャンパス国際化への貢献:留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう1」前期、後期
全学教育 海外研修(展開)前期、後期
大学院教育 多文化教育論概論:グローバル化と高等教育の国際化 前期
大学院教育 多文化教育論特論 後期

〔論文〕

(単著) 「コロナ禍における国際教育交流と国際共修」 『IDE 現代の高等教育』 638 巻 2-3 月号 29-33 2022 年 2 月

(単著) 「新時代を切り開く教育国際交流—東北大学モデル—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 13-22 2022 年 3 月

(共著) 「多様化する東北地域社会における外国人マイノリティ理解教育カリキュラムの開発」 『高度教養教育・学生支援機構紀要』 第 8 号 269-275 2022 年 3 月

〔著書〕

第 8 章 「ニューノーマル時代の国際共修 —オンライン学習を通じた学びの検証」 (村田晶子編) 『オンライン国際交流と協働学習 多文化共生のために』 くろしお出版 2022 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

5 月 12 日 BCCJ The Internationalization of Japanese Universities

11 月 3 日 QS APPLE Virtual Conference 2021 Be Global Innovative International Education Project

11 月 18 日 Beijing National University Internationalizing students' experiences under/post pandemic, 2021 International Symposium on Student Affairs

3 月 2 日 大学の国際化促進フォーラムシンポジウム 事業概要 国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

挑戦的研究 (萌芽) ポスト・コロナ期の持続可能な産学官連携外国人定着支援システム 2021 年 4 月～2024 年 3 月

〔学内活動〕

総長特別補佐 (国際交流) 2018 年 4 月～

教育研究評議員 2019 年 6 月～

世界と伍する研究大学に向けた検討 WG2021 年 4 月～

教育学研究科 兼務

全学委員会 学務審議会

全学委員会 学務審議会教務委員会

全学委員会 学務審議会国際教育委員会委員長 2018 年 4 月～

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長 2011 年 10 月～

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員長 2013 年 4 月～

全学委員会 学友会文化部副部長

全学委員会 DATEntre 基礎教育部会長

全学委員会 東北大学挑創カレッジ運営委員会 TGL 部会長

全学委員会 教育国際交流運営委員会

全学委員会 東北大学クロスアポイントメント室員

全学委員会 文系オアシス運営委員会

全学委員会 国際連携推進機構運営委員会

全学委員会 国際連携推進機構海外事務所連絡室会議委員

全学委員会 国際戦略室運営会議学術交流協定ワーキンググループ

部局内委員会 補佐会議、総務委員会、教務委員会

〔学会活動および外部機関における活動〕

留学生教育学会 理事 2015 年 4 月～

異文化間教育学会

日本比較教育学会

〔学外の社会活動〕

三重大学 FD 「ニューノーマルにおける国際教育交流の新展開」 2022 年 2 月 17 日

一般財団法人日本国際協力センター 対日理解促進交流プログラム (Japan's Friendship Ties Programs) 異文化理解ワークショップ 11 月 26 日

JAFSA 国際共修を实践から学ぶ—オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び— 7 月 30 日

日本国際教育夏季研究大会 (SIEEJ) 「国際共修」で新時代を切り開こう 11 月 20 日

JAFSA 学生とともに創る!ニューノーマルにおける新しい国際共修 12 月 17 日

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

宮城県 多文化共生社会推進審議会 副委員長 2016 年 4 月～

公益財団法人宮城県国際化協会 評議会 評議員 2017 年 4 月～

日本学術振興会 世界展開力強化事業 審査員

渡邊 由美子 (特任教授)

[専門分野]

地球宇宙化学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 Seminar for developing the sustainable society 後期

全学教育 Life & Nature 後期

全学教育 理工系学際基礎セミナー 通年集中

学部教育 日本の産業と科学技術 後期前半

[学位論文指導・審査]

博士1名 (副査1名)

[その他教育上に関する活動]

理学部・理学研究科地学専攻の学生の研究への助言

(学友会・同好会等の指導) 理工系学部・研究所属の学生のための国際交流団体 TUSTEM (Tohoku University STEM Students Network) 設立・

[活動支援]

(学友会・同好会等の指導) "国際交流 F.C.顧問"

[著書]

『科学立国のための大学教育改革 エビデンスに基づく科学教育の実践』 2021年7月

[共同研究活動]

Origins of Organic Matters in Archean Era 研究相手先:アメリカ合衆国 "Penn State University, etc." 国外 2016年11月～

[学内活動]

全学委員会 国際学士コース入試小委員会副委員長 2017年4月～

全学委員会 国際学位コース運営委員会副委員長 2017年4月～

[教育相談]

数値データ未登録

[兼務、兼業など]

学外 仙台第三高等学校 スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員 2017年6月～

[学外の社会活動]

仙台第三高等学校 SSH 運営指導委員

仙台第三高等学校 東北大学留学生による理数科英語発表指導プロジェクト

仙台三高 理科研究国際大会発表チーム指導

SCHROEDER MARCIN JAN (特任教授)

[教育活動]

Teaching in Spring Semester 2021

- Outline of Linear Algebra (ZDN-MAT116E – CB24309 – 2 credits)

- Linear Algebra B (ZDN-MAT118E- CB53201 – 2 credits)

- Basic Seminar “Can Machines Think?” – CB00156 - 1 credit

- Contribution to team teaching in Pre-Enrollment STEM Seminar - CB88222

Teaching in Fall Semester 2021

- Linear Algebra A (ZDN-MAT117E – CB23253 - 2 credits)

- Probability & Statistics (ZDN-MAT119E – CB21425 – 2 credits)

- Supplementary Intensive Sessions on Logic for new FGL students (Oct. 28, Nov. 4, Nov. 11)

- Contribution to team teaching in Pre-Enrollment STEM Seminar - CB88222

[研究活動]

PUBLICATIONS:

(peer-reviewed articles)

1. Schroeder, M.J. Learning Computing from Nature: Reflection on the Klein Four-Group. Proceedings, 2022, 81, 70.

2. Schroeder, M.J. Morphological Computation as Morphogenesis: From Leibniz and Goethe to René Thom and Beyond. Proceedings 2022, 81, 69.

3. Schroeder, M.J. Antinomies of Symmetry and Information. Proceedings 2022, 81, 11.

4. Schroeder, M.J. Structural Analysis of Information: Search for Methodology. Proceedings, 2022, 81, 15.

5. Schroeder, M.J. Multidisciplinarity, Interdisciplinarity, and Transdisciplinarity: The Tower of Babel in the Age of Two Cultures. Philosophies, 2022, 7, 26.

Editorials, Conference Reports, Proceedings, etc.

6. Schroeder, M.J.; Burgin, M. 2021 Summit of the International Society for the Study of Information (IS4SI). Proceedings 2022, 81, 1.
7. Dodig-Crnkovic, G.; Schroeder, M.J. Morphological Computing of Cognition and Intelligence, MORCOM 2021-Online Conference. Proceedings 2022, 81, 29.
8. Schroeder, M.J. Contributions to the 2021 IS4SI Summit from the SIS Conference Symmetry, Structure, and Information. Proceedings, 2022, 81, 6.
9. Schroeder, M.J. Contributions to the 2021 IS4SI Summit from the 13th International Workshop on Natural Computing (IWNC) Proceedings, 2022, 81, 5.
10. Schroeder, M.J. Structural Abstraction and Study of Symmetry. In Adachi, T. (ed.) Algebraic Systems, Logic, Language and Related Areas in Computer Science II. RIMS Kokyuroku, Kyoto: Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, 2021, No. 2188-12, pp. 10.

CONFERENCE PRESENTATIONS IN 2021:

1. “Learning Computing from Nature: Reflection on the Klein Four-Group” at the 13th International Workshop on Natural Computing (IWNC) contributing to the 2021 Summit of IS4SI, September 17, 2021.
2. “Morphological Computation as Morphogenesis: From Leibniz and Goethe to René Thom and Beyond” at the Conference on Morphological Computing of Cognition and Intelligence (MORCOM 2021) contributing to the 2021 Summit of IS4SI, September 16, 2021.
3. “Antinomies of Symmetry and Information” at the Conference on Symmetry, Structure, and Information (SIS) contributing to the 2021 Summit of IS4SI, September 14, 2021.
4. “Structural Analysis of Information: Search for Methodology” at the Conference on Theoretical and Foundational Problems in Information Studies (TFP) contributing to the 2021 Summit of IS4SI, September 13, 2021. (Invited Lecture)

Moderated Plenary Panel Discussions at the 2021 IS4SI Summit:

September 12, 2021 “What is the SI in IS4SI?”

September 17, 2021 “Natural Question about Natural Computing”

(社会貢献) (CONTRIBUTIONS TO ACADEMIC COMMUNITY)

2022

Member of the Scientific Committee for the 12th SIS-Symmetry Congress “Symmetry: Art and Science” Porto, Portugal, the Faculty of Architecture of Porto’s University, July 11-16, 2022. Scientific Committee – Symmetry: Art and Science | 12th SIS-Symmetry Congress (up.pt)

2021

Chair of Organizing Committee of the 2021 Summit of the International Society for the

Study of Information (IS4SI) held online September 12-19, 2021 with several hundred participants (IS4SI 2021). My report: Proceedings | Free Full-Text | 2021 Summit of the International Society for the Study of Information (IS4SI) (mdpi.com)

The Summit was a cluster of ten (10) affiliated, parallel conferences (listed below) on the subject of the information. I hosted the daily plenary six-hour programs for all participants of the Summit contributed by these conferences:

1. TFPI – Theoretical and Foundational Problems in Information Studies (Theoretical and Foundational Problems (TFP) in Information Studies (tfpis.com))
2. BICA – Information in Biologically Inspired Computing Architectures
3. Dighum – Digital Humanism (<https://gsis.at/2021/08/10/is4si-2021-digital-humanism-workshop-programmed/>)
4. SIS – Symmetry, Structure, and Information (Schedule for the Conference “Symmetry, Structure and Information” in the IS4SI 2021 Summit – The International Society for the Interdisciplinary Study of Symmetry (symmetry-us.com))
5. MORCOM – Conference on Morphological, Natural, Analog, and Other Unconventional Forms of Computing for Cognition and Intelligence, (IS4SI_MORCOM_SCHEDULE.pdf - Google Drive)
6. H&R – Habits & Rituals
7. IWNC – 13th International Workshop on Natural Computing (<https://www.natural-computing.com/#iwnc-13>)
8. APC – Philosophy and Computing
9. ICPI – The 5th International Conference on Philosophy of Information
10. GFAI – Global Forum for Artificial Intelligence

In addition to chairing and hosting plenary sessions of the Summit, I was a co-chair of the three contributing conferences listed above: SIS, MORCOM, and IWNC.

My conference reports are available online:

MORCOM: Available online at Proceedings | Free Full-Text | Morphological Computing of Cognition and Intelligence, MORCOM 2021-Online Conference (mdpi.com)

SIS: Available online at Proceedings | Free Full-Text | Contributions to the 2021 IS4SI Summit from the SIS Conference Symmetry, Structure, and Information (mdpi.com)

IWNC: Available online at Proceedings | Free Full-Text | Contributions to the 2021 IS4SI Summit from the 13th International Workshop on Natural Computing (IWNC) (mdpi.com)

During the period of evaluation, I was actively engaged in the activities belonging to my responsibilities as:

2015-present: Editor-in-Chief, Philosophies (MDPI, Basel)

<http://www.mdpi.com/journal/philosophies>

2019-2021: President, International Society for Study of Information (is4si): (Board - is4si)

2017-present: Member of the IS4SI Board (Board - is4si)

March 7, 2021 – present: Elected Chair in North America and Asia, International Advisory Board of The International Society for the Interdisciplinary Study of Symmetry (SIS-Symmetry Activities and Officers – The International Society for the Interdisciplinary Study of Symmetry (symmetry-us.com))

2018-present: Member of the Board of Special Interest Group on Natural Computing (NAC) in The Japanese Society for Artificial Intelligence: <https://www.ai-gakkai.or.jp/sig/sig-list/>

2018-present: Member of Advisory Board for Preprints.Org: https://www.preprints.org/advisory_board

2021- present: Topical Advisory Panel Member for the journal Information (MDPI). Information (mdpi.com)

高橋 美能 (准教授)

[専門分野]

社会教育・人権教育

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 国際理解教育の実践 前期

全学教育 海外研修 通年集中

全学教育 留学生と日本人学生の協働プロジェクト 前期

全学教育 人権教育の促進 後期

大学院教育 多文化教育論研究演習Ⅰ・Ⅱ 前期・後期

[論文]

「米英の大学の学部で実施される人権教育の実態調査」 『人権教育研究』 第21巻 65-78 2021年11月

[著書]

(共著) 第14章: 多文化共生を実現しよう 『人権論の教科書』 ミネルヴァ書房 2021年5月

[文献・図書紹介]

「多様性が拓く学びのデザインー主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践ー」, 『異文化間教育』, 異文化間教育学会, 招待執筆, 53号, 188-189, 2021年

[会議の発表・講演]

「ポストコロナ時代に向けた「留学」プログラムと留学啓発活動: 東北大学の事例」 口頭 (一般): 第26回留学生教育学会年次大会 2021年8月

「オンラインによる国際共修授業における学生間の学びー留学生と国内学生が共に学ぶ授業の中でー」 口頭 (一般): 第10回 留学生交流・指導研究会 2022年2月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月~2022年3月 分担者

若手研究(A) グローバル人材育成のための学際的ヒューマンライツ教育の創出ー日米英の比較を基にー 2019年4月~2022年3月 代表者

若手研究 国際的な人権教育モデルの探求ー日米英の大学における比較研究を基にー 2022年4月~2026年3月 代表者

[学内活動]

全学委員会 短期派遣留学実施委員会 2013年4月~

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 教務小委員会 2019年12月~

[教育相談]

のべ相談人数 60名

[学会活動および外部機関における活動]

異文化間教育学会紀要編集委員会 委員 2019年6月~2021年6月

異文化間教育学会紀要編集委員会 委員 2021年6月~2023年6月

異文化間教育学会紀要企画委員会 委員 2021年6月~2023年6月

渡部 留美 (准教授)

[専門分野]

教育学

[その他教育上に関する活動]

(学友会・同好会等の指導) SCRUM(ボランティア団体)国際部 (IDeS) 指導

(学友会・同好会等の指導) たなぼた (ボランティア団体) 顧問

(学友会・同好会等の指導) @home (国際交流団体) 顧問

〔論文〕

〔共著〕「ピアサポートによる留学生支援ー東北大学留学生オンラインヘルプデスクの試みー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 259-268 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「コロナ禍の留学生支援ー東北大学の事例ー」 口頭（一般）：2021年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会兼第55回大阪大学留学生教育・支援協議会 2022年2月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性と職能開発に関する実証的比較研究 2021年4月～2025年3月 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員 2017年4月～

全学委員会 国際交流オアシス事業実施協力委員 2018年4月～

全学委員会 学生ボランティア活動支援委員会 2018年4月～

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」実施委員会 2018年7月～2022年3月

全学委員会 キャリア支援連絡会議 2021年4月～

部局内委員会 施設整備委員 2018年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学留学生指導研究協議会 ジャーナル編集委員 2011年4月～

（公財）仙台観光国際協会 国際化専門委員会委員 2019年4月～

宮城県多文化共生社会推進審議会 委員 2022年2月～

〔学外の社会活動〕

京阪神地域留学生・研究者の家族の支援団体での活動

〔その他〕

交換留学生（DEEp-Bridge, IPLA）担当

渡部 由紀（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 グローバル学習 グローバルゼミ 前期

全学教育 国際教養特定課題 Japanese Universities and Students 後期

全学教育 海外短期研修（基礎A） 前期集中

全学教育 海外短期研修（基礎B） 後期集中

全学教育 グローバルPBL Advanced Global Seminar 後期

大学院教育 多文化教育論概論 前期

大学院教育 多文化教育論研究演習Ⅰ 前期

大学院教育 多文化教育論研究演習Ⅱ 後期

〔論文〕

〔共著〕「Developing a manageable system of internationalization indicators for universities in Asia」 『International Journal of Comparative Education and Development』 23巻2号 81-103 2021年5月

〔共著〕「多様化する東北地域社会における外国人マイノリティ理解教育カリキュラムの開発」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 269-276 2022年3月

〔共著〕「ポストコロナ期におけるオンライン留学の役割と可能性ーオンライン型短期留学プログラムの学習成果を踏まえた一考察ー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 23-36 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「大学におけるグローバルリーダー教育の試みー新入生の特性を踏まえたカリキュラム開発に向けた実践ー」 口頭（一般）：異文化間教育学会第42回大会 2021年6月

「日本・韓国・台湾の地方地域大学の国際化地方創生に関する政策分析からの考察」 口頭（一般）：日本比較教育学会第57回大会 2021年6月

「ポストコロナ時代に向けた短期留学の学習目標の再考：東北大学における現地研修とオンライン研修の参加者プロフィール・参加理由・学習成果の比較から」 口頭（一般）：第26回留学生教育学会・年次大会 2021年8月

「国際化は誰のために、何のために進めるのか？ー国際化評価指標から考えるー」 その他：国際教育夏季研究大会 2021年8月

「Higher Education and Sustainability in East Asia」 口頭（一般）：COMPARATIVE EDUCATION SOCIETY OF ASIA (CESA) 12TH BIENNIAL CONFERENCE 2021年9月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学国際化のマネジメント手法開発ー大学経営と評価の視点からー 2020年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(B) 地方創生に向けた地方地域大学の国際化に関する実証的研究ー日本・韓国・台湾の比較ー 2020年4月～2024年3月 代表者

挑戦的研究（萌芽） ポスト・コロナ期の持続可能な産学官連携外国人定着支援システム 2021年7月～2024年3月 分担者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(補助金、受託・共同研究費、寄附金以外の研究費) Promote Sustainability through Innovating University Teaching and Learning in East Asia
2020年4月～2022年3月

〔学内活動〕

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員 2018年4月～
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018年4月～

〔学内教職員支援〕

入試センターFD：東北大学の国際化の取り組み(講師)

〔教育相談〕

のべ相談人数 43名

〔教育活動〕

- ①留学生4名(修士課程学生2名、研究生2名)
- ②清華大学サマースクール・大学院授業での講師
- ③オンライン海外研修プログラム(事前研修4回+事後研修4回+成績評価)

〔学生支援活動〕

- ①留学相談：毎週2時間を充当
- ②留学関係のオリエンテーション・説明会を年間10回程度

DAHAN XAVIER GILLES MESSAOUD (准教授)

〔専門分野〕

数学一般(含確率論・統計数学)

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 解析学B 2セメスタ
全学教育 情報基礎B 2セメスタ
全学教育 理工系学基礎セミナー
全学教育 解析学A 1セメスタ
全学教育 解析学C 3セメスタ
全学教育 解析概要 1セメスタ
全学教育 情報基礎B 1セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発)"「情報基礎B」授業に向け、日本語でオンライン教材を英語化しました。 1) ホームページ：
<https://olg.eds.tohoku.ac.jp/jkisoforstudent> 2) google colabatory プログラミング演習(七つ。TAさん二人と共に) 3) 演習用資料「はじめに」(4頁)"
(教科書・教材の開発)"FGLプログラムにおける新しい科目「理工系学際セミナー」への準備、過去の国家入試センター試験の英語化とオンライン化(Moodleで)を貢献しました： 1) 数学問題(2016, 2017, 2018, 2019年の問題集)を英語化とオンライン化しました[TAさんたちと共に]
2) Calculus Concept Inventory test をオンライン化しました"

〔論文〕

(単著)「Lexicographic Grobner bases of bivariate polynomials modulo a univariate one」 『Journal of Symbolic Computation』 110号 24-65 2021年10月

〔会議の発表・講演〕

「1変数多項式を法とした2変数多項式の辞書式順序グレブナー基底」 その他：リモージュ大学の計算機代数セミナー(オンライン) 2021年12月

米澤 由香子(准教授)

〔専門分野〕

教育社会学

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 海外研修(基礎) 後期集中
全学教育 国際教養 前期
全学教育 グローバル人材基礎演習「グローバルゼミ」 前期
全学教育 課題解決型演習B 後期
全学教育 グローバル人材基礎演習「グローバルゼミ」 後期
全学教育 海外研修(基礎) 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

東北大学挑創カレッジ「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」

(学友会・同好会等の指導) TGL コミュニティアンバサダー(TGLCA)組織と指導
(学友会・同好会等の指導) 国際共修サポーターの組織化と指導
理学部・理学研究科変動地球共生学卓越大学院プログラム参加学生へのメンター活動

[論文]

(単著) 「国際担当上級管理職の人材育成—米国との質的比較を通して—」 『国際教育』 27 巻 1-16 2021 年

[著書]

『日本の大学における国際担当上級管理職 (Senior International Officers) に関する調査報告書』 東北大学 2021 年

[会議の発表・講演]

「Transformation of International University Education throughout Digitalization under/post-COVID-19 Pandemic: Challenges in Online-based International Co-learning at Universities in Japan」 口頭 (一般) : "International Conference of the journal "Scuola Democratica"" 2021 年 6 月

「多文化ファシリテーション能力に関する基礎的研究—近接分野の文献レビューを通して—」 口頭 (一般) : 異文化間教育学会 2021 年 6 月

「大学マネジメントにおける国際担当上級管理職に関する研究—黎明期の日本と専門職化する米国との質的比較—」 口頭 (一般) : 日本比較教育学会 2021 年 6 月

「大学の国際化を担う専門教職員の 養成メカニズムに関する 国際比較研究」研究会 口頭 (一般) : 「大学の国際化を担う専門教職員の 養成メカニズムに関する 国際比較研究」研究会 2021 年 7 月

「日本の SIOs 調査」 口頭 (一般) : 2021 年度 SIOs 研究セミナー 変わりゆく大学国際担当上級管理職 (SIOs) 一進化する大学国際化のなかで、中長期的な「組織」と「人」の育成を考える— 2022 年 1 月

「言語的・文化的に多様な学生の学びを育むファシリテーション研究会第 3 回「グループ内コンフリクトをいかに学びにつなげるか」 その他: 言語的・文化的に多様な学生の学びを育むファシリテーション研究会 2022 年 2 月

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018 年 4 月~2022 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 大学国際化マネジメントにおける上級管理職と組織連携に関する実証的研究 2020 年 4 月~2023 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 多文化共生社会に求められる大学教員のファシリテーション能力向上に向けた実践研究 2020 年 4 月~2024 年 3 月 分担者

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性と職能開発に関する実証的比較研究 2021 年 4 月~2025 年 3 月 分担者

[学内活動]

全学委員会 国際戦略室幹事会メンバー 2018 年 4 月~

全学委員会 国際教育科目委員 2019 年 4 月~

全学委員会 TGL 部会委員 2019 年 4 月~

[学内教職員支援]

全学教育科目・国際教育科目における国際共修ゼミの授業計画支援 (ガイドライン作成) (FD/S D の企画・運営)

国際共修ゼミに関する FD (FD/S D の企画・運営)

入試センターFD (FD/S D の企画・運営)

[会議の主催・運営]

(国内会議:主催) 2021 年度 SIOs 研究セミナー 変わりゆく大学国際担当上級管理職 (SIOs) 一進化する大学国際化のなかで、中長期的な「組織」と「人」の育成を考える— 2022 年 1 月 28 日

[学外の社会活動]

JAFSA オンライン研修「国際共修を実践から学ぶ・オンライン授業の導入で変わる学び、変わらない学び」

INTILAQ 企業体験ワークショップ

MOTT DERRICK MICHAEL (特任准教授)

[論文]

(共著) 「Organic nanocrystal enrichment in paper microfluidic analysis」 『Sensors and Actuators B: Chemical』 333 巻 129548-129548 2021 年 4 月

[会議の発表・講演]

「Quasi-elastic Laser Scattering System to Monitor the Surface Tension of Micrometer Sized Sessile Droplets and Atmospheric Aerosols」 口頭 (一般) : International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2021 年 12 月

[学術関係受賞]

基盤研究 (C) 授与機関: 日本学術振興会 2021 年 4 月

[その他]

January 19/February 9-2022, I attending the presentation building workshop to improve my presentation skills.

February 28-2022, I took part in the recruitment/publicity program for High School students from Thailand.

March 12-2022, I contributed to the recruitment/publicity program for High School students in Vietnam.

新見 有紀子 (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 日本社会・文化B 前期前半
全学教育 グローバル人材基礎演習 前期
全学教育 グローバル人材基礎演習 後期
全学教育 課題解決型 (PBL) 演習B 後期

〔その他教育上に関する活動〕

文系交換留学プログラム IPLA の受入れ学生のアドバイザー
文系サマープログラム TUJP(Tohoku University Japanese Program)のコーディネーター
校友会旅行研究会顧問

〔論文〕

(共著) 「Internationalization of Japanese Universities in the COVID-19 Era」 『International Higher Education』 107 巻 39-40 2021 年 7 月
(共著) 「Competing meanings of international experiences for early-career researchers: a collaborative autoethnographic approach」 『Higher Education Research & Development』 Online First 巻 1-15 2021 年 12 月
(共著) 「ポストコロナ期におけるオンライン留学の役割と可能性—オンライン型短期留学プログラムの学習成果を踏まえた一考察—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 23-35 2022 年 3 月
(共著) 「多様化する東北地域社会における外国人マイノリティ理解教育カリキュラムの開発」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 269-275 2022 年 3 月
(共著) 「ピアサポートによる留学生支援 —東北大学留学生オンラインヘルプデスクの試み—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8 号 259-268 2022 年 3 月

〔会議の発表・講演〕

「大学におけるグローバルリーダー教育の試み—新入生の特性を踏まえたカリキュラム開発に向けた実践—」 口頭 (一般): 2021 年度異文化間教育学会第 42 回大会 2021 年 6 月
「高校卒業以降の半年以上の留学を規定する高校時代の異文化接触経験とは—アンケート結果を踏まえた探索的分析—」 口頭 (一般): 2021 年度異文化間教育学会第 42 回大会 2021 年 6 月
「Changing International Experience of University Students in Japan and East Asia」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): UCL-Tohoku University Joint Symposium Reinventing International University Education and the Role of Globally Engaged Universities 2021 年 6 月
「ポストコロナに向けた国際教育交流 —ICT を活用した新たな教育実践並びに国際教育交流の可能性と方向性を考える—」 口頭 (一般): 日本比較教育学会第 57 回大会 2021 年 6 月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

国際共同研究加速基金・国際共同研究強化 (B) 日本メキシコ双方向の長期的留学成果〜政府文化外交 50 年の分析 2018 年 10 月〜2023 年 3 月 分担者
若手研究 国際的な学習活動における高大接続の進展に向けた基礎的研究 2020 年 4 月〜2023 年 3 月 代表者
基盤研究(B) 「大学の国際化」を担う専門教職員の養成メカニズムに関する国際比較研究 2020 年 4 月〜2024 年 3 月 分担者
挑戦的研究 (萌芽) ポスト・コロナ期の持続可能な産学官連携外国人定着支援システム 2021 年 7 月〜2024 年 3 月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2019 年 4 月〜
全学委員会 日本語研修教育実施委員会委員 2020 年 4 月〜
部局内委員会 倫理委員会委員 2019 年 10 月〜

〔学内教職員支援〕

令和 3 年度学生生活支援審議会 FD (第 2 回) (講師)

〔学会活動および外部機関における活動〕

異文化間教育学会 若手交流委員副委員長 2017 年 6 月〜2021 年 6 月
"Summer Institute on International Education, Japan (SIIEJ)" 実行委員 2019 年 7 月〜
異文化間教育学会 常任理事・ネットワーク委員長 2021 年 6 月〜

〔学外の社会活動〕

特定非営利活動法人 JAFSA 初任者研修

坂本 友香 (特任准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 海外研修 (展開) 後期集中
全学教育 日本社会・文化B 前期
全学教育 海外研修 (基礎 2) 前期集中
全学教育 日本社会・文化B 後期

全学教育 海外研修（基礎1） 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

（学友会・同好会等の指導）東北大学グローバルキャンパスサポーター(GCS)の指導

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性と職能開発に関する実証的比較研究 2021年4月～2025年3月 分担者

〔学内活動〕

その他の主要活動 広報戦略推進室員 2021年4月～

〔教育相談〕

のべ相談人数 30名

〔学外の社会活動〕

海外の高校生による東北大学訪問受け入れ

山形東高等学校生徒と東北大学生、海外協定校学生との異文化理解セミナー

中川 学（准教授）

〔専門分野〕

日本近世史

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 人間と文化 東北大学を学ぶ 前期

全学教育 memento mori 一死を想えー 1セメスタ

全学教育 歴史と人間社会 History of Tohoku University 後期

全学教育 東北大学のひとびと 2セメスタ

全学教育 遊学：ためして、つないで、ふりかえる 2セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）『東北大学レポート指南書』第3版（第5章担当）

〔共同研究活動〕

賀茂別雷神社文書の調査・研究 東京大学史料編纂所・日本史史料の研究資源化に関する研究拠点 国内 2018年4月～

〔学内活動〕

全学委員会 広報連絡委員 2013年4月～

全学委員会 学務審議会委員 2016年4月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員 2017年4月～

全学委員会 学務審議会基幹科目委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員 2014年4月～

部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 広報小委員会委員長 2017年4月～

その他の主要活動 学際融合教育推進センター・副センター長 2017年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

宮城歴史科学研究会 委員 2009年4月～

東北史学会 評議員 2013年10月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学史料館 兼務教員 2010年4月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 理事 2014年5月～

水野 健作（総長特命教授）

〔専門分野〕

機能生物化学

細胞生物学

医化学一般

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 生命と自然（エッセンシャル現代生命科学） 1セメスタ

全学教育 基礎ゼミ（ノーベル賞で読み解く現代生命科学） 前期

全学教育 生命と自然（エッセンシャル現代生命科学） 2セメスタ

全学教育 展開ゼミ（ガンと老化の生物学） 後期

〔著書〕

第二章 生・老・死の生物学『生死を考える』東北大学出版会 2022年3月

〔会議の発表・講演〕

「細胞接着部位を介した力覚応答制御における RhoGEF Solo の機能解析」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：第73回日本細胞生物学会大会 2021年6月

「PLEKHG4Bによる細胞間接着形成過程のアクチン骨格再構築メカニズム」口頭（一般）：第73回日本細胞生物学会大会 2021年6月

「力覚応答機構に関与する RhoGEF, Solo の相互作用タンパク質の同定」ポスター（一般）：第44回日本分子生物学会年会 2021年12月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 間葉系幹細胞の基質の硬さ依存的な分化誘導機構の解明 2021年4月～2024年3月 代表者

〔学内活動〕

その他の主要活動 青葉理学振興会理事 2011年4月～2022年3月

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本細胞生物学会 評議員 2000年4月～

日本生化学会 評議員 2001年4月～

日本細胞生物学会 代議員、理事 2015年4月～

尾崎 彰宏（総長特命教授）

〔専門分野〕

美学・西洋美術史

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基幹科目（人間論）「芸術の世界：西洋美術を通してみる思想・宗教・社会」後期

全学教育 展開科目（人文科学）「歴史学：美術と歴史——ルネサンス以降の西洋美術を題材として」後期

全学教育 展開科目（カレントトピックス科目）「人文科学のメソドロジーをめぐって」後期

大学院教育：

メソドロジー実践 B（日本学国際共同大学院プログラム）前期

メソドロジー基盤 A（日本学国際共同大学院プログラム）後期

他大学：

宮城学習センター（放送大学）：学習相談ならびに「西洋美術史講義」通年

仙台赤門短期大学：「芸術論」前期

〔論文〕

〔単著〕The Meeting of Asia and the Netherlands: On Van Gogh's Challenge in Emulating Rembrandt,

Intercultural Relations/Relacje Miedzykulturowe – Journal of Cultural Studies, Jagiellonian University, 4/2, 2021, pp. 37-51.

〔単著〕「名誉ではなく自由を求めて——レンブラントの生涯——」『花美術館』vol. 76, 2021年12月, pp. 4-21.

〔単著〕「レンブラントの真筆とは？ 過熱する真贋論争のゆくえ」『花美術館』vol.76, 2021年12月, pp. 49-55.

〔単著〕「宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワーク」の活動意義（「宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワーク」第2回総会開催報告）2021年7月10日

〔単著〕「風俗画は誰のもの？」『芸術新潮 特集 5人の達人とゆくメトロポリタン美術館 西洋絵画ワンダーランド』2021年11月, pp. 28-37.

〔単著〕「建築にこめられた前川國男の『鎮魂歌』——平和国家を希求して」『えっ！ ホントに壊す？！ 東京海上ビルディング 超高層ビルさえ消耗品にしてしまっているの？』建築ジャーナル、2022年2月, pp. 49-52.

〔会議の発表・講演〕

「レンブラントの《夜警》——古典主義対郷土主義の主戦場として」オランダ美術研究会、2022年3月20日（オンライン）

「東日本大震災と「ふるさと」——「聖地」（ゲニウス・ロキ）の再生を目指して」日本学国際共同大学院研究クラスター 2021年5月28日（オンライン）

〔学会活動および外部機関における活動〕

美学会

美術史学会

Historians of Netherlandish Art（ネーデルラント美術史家の学会）

〔授業担当〕

①全学教育科目、後期2科目担当

②日本学国際共同大学院プログラム科目、前・後期2科目担当

〔社会貢献〕

宮城県美術館協議会会長として美術館の運営等に対する助言。

仙台市博物館協議会副会長として、会長を補佐し博物館の運営に関する助言。

芳賀 満 (教授)

[専門分野]

史学一般

考古学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考える～反「大勢」の視点の重要性」 1セメスタ

全学教育 Japanese Art History 前期

全学教育 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia

全学教育 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」 後期

全学教育 カレントトピックス「アジアを感じよう、考えよう」 後期

その他 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 後期

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) 「先端技術を用いた中央アジアの環境・シルクロード交流の総合的調査研究」 2011年4月～ 分担者

(挑戦的萌芽研究 ディオニュソスを中心としたギリシア・ローマ図像のアジアへの伝播・吸引の研究 2012年4月～ 代表者

[学内活動]

全学委員会 基幹科目担当教員会議委員 2010年4月～

全学委員会 G30 全学教育授業担当者会議委員 2010年4月～

全学委員会 学務審議会委員 2012年4月～

全学委員会 附属図書館商議会議委員 2012年4月～

全学委員会 東北大学附属図書館本館学生用図書選書委員会 2012年4月～

全学委員会 学術情報整備検討委員会委員 2013年4月～

全学委員会 学術情報資料選定小委員会委員 2013年4月～

全学委員会 教員選考業績評価指針作成検討WG 委員 2014年4月～

全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長 2014年4月～

全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員 2014年4月～

全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員 2014年4月～

全学委員会 学務審議会 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員 2015年5月～

全学委員会 東北大学 附属図書館 学術情報資料選定小委員会 分野別(人文) WG 2015年6月～

全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会 委員 2015年7月～

全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 共同利用協議会 委員 2015年7月～

全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム構想委員会 「日本学国際共同大学院検討WG」委員 2016年4月～

全学委員会 学務審議会「研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ」 委員 2016年5月～

部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 2011年4月～

部局内委員会 大学教育支援センター (CPD) プログラム実施部門長 2012年4月～

部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、部門長会議委員 2012年4月～

部局内委員会 総務委員会 委員 2014年4月～

部局内委員会 活動データベース作成及び要覧の見直しWG 委員 2014年4月～

部局内委員会 紀要編集委員会 委員長 2015年4月～

部局内委員会 図書・資料委員会 委員長 2015年4月～

その他の主要活動 社会・人文科学短期留学生受入プログラム実施委員会委員 2010年4月～

[学内教職員支援]

大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 (FD/S Dの企画・運営)

高等教育開発推進センター内 大学教育支援センターのプログラム実施部門長として同センターのプログラムの企画と実施に携わる。(FD/S Dの企画・運営)

[プロジェクト活動]

ウズベキスタン共和国スルハンダリア州カンピール・テペの発掘調査

[会議の主催・運営]

(国内会議) 主催 高度教養教育・学生支援機構 正午PD会 2014年4月1日

[行政機関・企業・NPO等参加]

日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 2010年12月～

日本学術会議 史学委員会 連携会員 「文化財の保護と活用に関する分科会」委員 2012年4月～

日本学術会議 連携会員、史学委員会、「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員 2014年10月～

日本学術会議 連携会員 史学委員会 「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」委員 幹事 2014年10月～

日本学術会議 連携会員 哲学学委員会 「古典精神と未来社会分科会」委員 2014年10月～

田嶋 玄一 (准教授)

[専門分野]

動物生理・行動

生物物理学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 生命科学A (医学部保健学科クラス) 1セメスタ

全学教育 生命科学A (工学部クラス) 1セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 生命と自然 2セメスタ

[その他教育上に関する活動]

自然科学総合実験 出席・成績情報システム的设计・実装・運用・機能改修

[論文]

(共著) 「ポストコロナに向けたハイブリッド型自然科学総合実験の実践」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 83-90 2022年3月

(共著) 「Elongation and Contraction of Scallop Sarcoplasmic Reticulum (SR): ATP Stabilizes Ca²⁺-ATPase Crystalline Array Elongation of SR Vesicles」 『International Journal of Molecular Sciences』 23巻6号 3311- 2022年3月

[学内活動]

全学委員会 遺伝子組換え実験安全主任者 2008年11月～

全学委員会 環境保全センター業務委員会委員 2012年4月～

全学委員会 情報システム部局実施責任者 2012年4月～

[学内教職員支援]

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/S Dの企画・運営)

文科系のための自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/S Dの企画・運営)

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/S Dの企画・運営)

[教育活動]

「令和2年度自然科学総合実験アンケート報告書」の作成、「自然科学総合実験」課題10「細胞」追加実験課題「細胞分裂の観察」の開発と維持 [大

[大学運営・支援及び医療業務]

全学委員会: 1) 情報システム部局実施責任者, 2) 環境保全センター業務委員会委員, 3) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員, 4) 同 計画委員会委員, 5) 遺伝子組換え実験安全主任者, 6) 学術資源研究公開センター運営委員

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員

藤本 敏彦 (准教授)

[専門分野]

体育学

環境生理学

スポーツ科学

生理学一般

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 スポーツA「ソフトボール」7コマ

全学教育 スポーツB「ソフトボール」1コマ

全学教育 スポーツB「フィジカルトレーニング」2コマ 企画・運営

全学教育 スポーツB「合気道」2コマ 企画・運営

全学教育 生命と自然「身体運動のしくみ」1コマ

全学教育 基礎ゼミ「運動とこころ」1コマ

全学教育 展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」1コマ

全学教育 展開ゼミ「インターネットを誰が守るのか」1コマ

[その他教育上に関する活動]

教養教育特任教員

[会議の発表・講演]

「コロナ禍に伴う緊急事態宣言下の身体活動促進の効果」 口頭 (一般): 第76回日本体力医学会 2021年9月

「運動による脳機能の向上と、神経修飾物質を介した脳機能調節メカニズム」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第76回日本体力医学会 2021年9月

「コーチングを用いたソフトボールの授業の事例報告」 口頭 (一般): 第10回大学体育スポーツ研究フォーラム 2022年3月

〔共同研究活動〕

大学生に対する体育、スポーツの影響 福岡県立大学 国内 2017年4月～

運動強度と骨髄の糖取り込みに関する研究 ("Increase of Glucose Uptake in Human Bone Marrow With Increasing Exercise Intensity.") 研究相手先:フィンランド 国外 2018年4月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 高等学校の体育における学習指導要領遂行の実態調査 2019年4月～2022年3月 代表者

挑戦的研究 (萌芽) 運動はヒトの海馬を本当に活性化するのか? 2021年7月～2023年3月 分担者

〔学内活動〕

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2012年4月～

部局内委員会 倫理委員会 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター 研究開発員 (その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本体力医学会 評議員 2000年4月～

宮城県柔道整復師会 宮城学術認定柔道整復師認定委員会 委員 2010年9月～

東北体育・スポーツ学会 代表理事 2017年4月～

日本体育学会 理事 2019年4月～2021年6月

〔兼務、兼業など〕

学内 医学系研究科 障害科学専攻 機能医科学講座 講師 2004年4月～

学内 大学教育支援センター 研究開発委員 2011年4月～

学内 スポーツ医科学コアセンター 2011年4月～

学外 東北学院大学 非常勤講師 2018年4月～

富田 知志 (准教授)

〔著書〕

"7.6 Non-reciprocal metamaterials based on magnetism" 『"Nanomagnetic Materials: Fabrication, Characterization and Application"』 Elsevier 2021年7月

〔会議の発表・講演〕

「Metamaterials and metasurfaces with broken symmetries」 口頭 (一般) : The 45th Annual Conference on Magnetism in Japan 2021年8月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) 電気磁気メタ表面を用いたベリ一位相光学の展開 2020年4月～2023年3月 代表者

基盤研究(B) 実験的ブラックホール研究の新展開 2020年4月～2023年3月 分担者

〔その他〕

科学技術振興機構 (JST) から委託された CREST 研究で、ポスドクの雇用を計画し、採用を進めた。その結果、2022年度4月より高度教養・学生支援機構での特任助教 (研究) として雇用することが決まった。

高橋 禎雄 (助教)

〔専門分野〕

日本思想史

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 人間と文化 1セメスタ

全学教育 歴史学 2セメスタ

全学教育 カレントトピックス 東北大学のひとびと 2セメスタ

〔学内活動〕

全学委員会 学術資源研究公開センター史料館兼務教員 2010年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本文芸研究会 常任委員 1997年6月～

東北大学文学部同窓会 監事 2015年10月～

日本東アジア実学研究会 事務局長、評議委員 2018年9月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学学術資源研究公開センター史料館 兼務教員 2010年4月～

太田 宏 (助教)

〔専門分野〕

生態・環境

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

学部教育 進化学実習 5セメスタ

学部教育 生態学実習 5セメスタ

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発

〔共同研究活動〕

西シベリア、チャニー湖沼群における両生爬虫類の分布について 研究相手先:ロシア ロシア科学アカデミーシベリア支所動物分類生態研究所 国外 2001年8月～

両生類の塩分耐性について～融雪剤の影響～ NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG 国内 2011年4月～

ツチガエルの性決定様式が異なる地域集団について 横浜市、広島大学 国内 2015年6月～

〔学内活動〕

その他の主要活動 アニメーション研究会顧問 1989年11月～

その他の主要活動 園芸部顧問 1997年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員 2012年7月～

〔兼務、兼業など〕

学外 東北大学生協同組合 理事 2002年5月～

学外 宮城県希少野生動植物保護対策検討会 構成員 2007年12月～

学外 国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査アドバイザー 2012年7月～

学外 宮城県 宮城県環境影響評価技術審査会委員 2014年1月～

学外 環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012年7月～

学外 国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016年6月～

〔学外の社会活動〕

宮城県野生動植物調査会 両生類・爬虫類分科会長

蕃山21の会 フィールドガイド

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

東北大学生協同組合 理事 2002年5月～

宮城県 希少野生動植物保護対策検討会 両生爬虫類分科会長 2007年11月～

環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012年6月～

国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査 アドバイザー 2012年7月～

宮城県 環境影響評価技術審査会 委員 2014年1月～

国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016年6月～

仙台市 自然環境基礎調査 検討委員 2021年11月～2022年3月

小俣 乾二 (助教)

〔専門分野〕

有機化学

〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 教科書の編集

〔学内活動〕

全学委員会 自然科学総合実験テキスト編集委員会 2003年4月～

全学委員会 自然科学総合実験実施委員会 2007年4月～

全学委員会 東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会 2008年4月～

前山 俊彦 (助教)

〔専門分野〕

物理化学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 2セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 2セメスタ

[論文]

(共著) 「Infrared Spectroscopy and Anharmonic Vibrational Analysis of (H₂O-Krn)⁺ (n = 1-3): Hemibond Formation of the Water Radical Cation」 『Journal of Physycal Chemistry Letters』 12 巻 7997-8002 2021 年 8 月

[会議の発表・講演]

「電子付加されたジスルフィド結合に対するマイクロ溶媒和効果」 ポスター (一般): 分子科学討論会 2021 年 9 月

[学内活動]

全学委員会 全学理科実験計画委員会委員 2018 年 4 月～

全学委員会 全学理科実験実施委員会委員 2019 年 4 月～

山下 琢磨 (助教)

[専門分野]

原子分子理論

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 自然科学総合実験 前期

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 前期

全学教育 Introductory Science Experiment 前期

全学教育 自然科学総合実験 後期

学部教育 課題研究 通年

学部教育 化学一般実験A 後期

大学院教育 課題研究 通年

[指導大学院生・学部生の発表件数]

2021 年度 学部学生 (4 年の課程) 学会発表件数:3 件

2021 年度 大学院学生 (博士課程前期 2 年の課程) 口頭発表件数:2 件 学会発表件数:5 件 国際会議発表件数:1 件

2021 年度 大学院学生 (博士課程後期 3 年の課程) 口頭発表件数:1 件 論文発表件数:1 件 学会発表件数:1 件

[教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)]

原子衝突学会第 46 回年会優秀ポスター賞: 原子衝突学会 2022 年 1 月 17 日

第 10 回平間賞: 東北大学理学部化学科 2022 年 3 月 1 日

[論文]

(共著) 「Design for detecting recycling muon after muon-catalyzed fusion reaction in solid hydrogen isotope target」 『Fusion Engineering and Design』 170 巻 112712-112712 2021 年 6 月

(共著) 「Time evolution calculation of muon catalysed fusion: Emission of recycling muons from a two-layer hydrogen film」 『Fusion Engineering and Design』 169 巻 112580-112580 2021 年 8 月

(共著) 「Four-body Calculation of Inelastic Scattering Cross Sections of Positronium - Antihydrogen Collision」 『Few-Body Systems』 62 巻 4 号 2021 年 12 月

(共著) 「野生動物の歯を用いた低線量被ばく推定法の開発」 『KEK Proceedings (第 22 回「環境放射能」研究会 Proceedings)』 2021 巻 2 号 91-96 2021 年 12 月

(共著) 「Spontaneous radiative dissociation of the second bound state of positronium hydride」 『Physical Review A』 105 巻 1 号 2022 年 1 月

(共著) 「Four-body variational calculation of a hydrogen-like atom involving an excited muonic molecule」 『"J. Phys.: Conf. Ser."』 2207 巻 012035- 2022 年 3 月

[著書]

『自然科学総合実験: 東北大学全学教育科目テキスト』 東北大学出版会 2021 年 4 月

[会議の発表・講演]

「Four-body calculation of muonic molecular resonances in the electron cloud」 ポスター (一般): "32nd International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions (Virtual iCPEAC)" 2021 年 7 月

「Relativistic effects on loosely bound states of positronic alkali-metal atom」 口頭 (招待・特別): "32nd International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions (Virtual iCPEAC)" 2021 年 7 月

「Four-body variational calculation of muonic molecules in an electron cloud」 ポスター (一般): XXXII IUPAP Conference on Computational Physics (CCP2021) 2021 年 8 月

「クローン少数多体系の精密計算とエキゾチックアトム研究」 その他: 第 41 回 原子衝突若手の会 秋の学校 2021 年 11 月

「精密三体系計算による陽電子と原子の結合状態の理論的研究」 口頭 (招待・特別): 京都大学複合原子力科学研究所専門研究会 2021 年 12 月

「Calculation of structure and spontaneous radiative dissociation process of positronium hydride」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 第 7 回クラスター階層領域研究会 2021 年 12 月

「少数多体精密計算による陽電子化合物の構造分析」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：物質科学研究討論会：基礎と応用の新展開
2022年2月

【総説・解説記事】

（共著）『TARB 書評：伊藤泰男，鍛冶東海，田畑米穂，吉原賢二『素粒子の化学』』 『Tokyo Academic Review of Books』 14巻 1-1 2021年4月

【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】

若手研究 ミュオン触媒核融合における共鳴コアの形成・崩壊過程の四体散乱理論 2020年4月～2022年3月 代表者

新学術領域研究（研究領域提案型） マッハ衝撃波干渉領域での飛行中ミュオン触媒核融合の創生 2021年4月～2023年3月 分担者

新学術領域研究（研究領域提案型） 二電子系ポジトロニウム化合物の部分系構造解析 2021年4月～ 代表者

【学術関係受賞】

分子科学会優秀講演賞 授与機関：分子科学会 2021年10月

日本陽電子科学会奨励賞 授与機関：日本陽電子科学会 2021年12月

【学会活動および外部機関における活動】

原子衝突学会 庶務委員 2020年6月～2022年3月

日本陽電子科学会 刊行委員 2021年1月～

第37回化学反応討論会実行委員会 広報・渉外 2021年8月～

【兼務、兼業など】

学内 理学研究科化学専攻 2019年10月～

学外 理化学研究所仁科加速器科学研究センター 客員研究員 2019年12月～

佐藤 智子（准教授）

【専門分野】

教育学、教育行政学、社会教育・生涯学習論

【担当授業科目（他大学も含む）】

全学教育 基礎ゼミ 1セメスタ

全学教育 人間と文化 前期

全学教育 社会の構造 後期

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅲ 前期

大学院教育 教育情報学応用論研究演習Ⅲ 後期

【学位論文指導・審査】

修士1名（副査1名）

【その他教育上に関する活動】

学習支援センターSLA サポート事業の推進、SLA 研修プログラム開発・実施

（教育方針の実践例）TGL プログラム「グローバルゼミ」授業におけるライティング教育協力・ゲスト講師（前期4クラス/後期2クラス）

（教科書・教材の開発）"東北大学学習・研究倫理教材 Part.2 『東北大学レポート指南書』（第3版）改訂・分担執筆

【会議の発表・講演】

「Why and how is the "Kominkan" a hub for everyone to learn in the community?」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：Hong Kong Metropolitan University, Li Ka Shing School of Professional and Continuing Education Academic Forum Series 6, 2022年1月

「シティズンシップの育て方：公民館の歴史と課題、そして新たな挑戦へ」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：明るい選挙推進協議会研修会 2022年1月

【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】

若手研究(B) 公民館再編動向にみるコミュニティ・ガバナンスと社会教育の相克と止揚に関する研究 2019年4月～2023年3月 代表者

【学内活動】

全学委員会 附属図書館学習支援委員会委員 2017年4月～

全学委員会 公正な研究活動推進委員会専門委員会 2018年4月～

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018年4月～

部局内委員会 学習支援センター副センター長 2016年4月～

部局内委員会 紀要・出版委員会委員 2018年4月～

部局内委員会 学問論委員会準備部会長 2021年2月～2022年3月

【学会活動および外部機関における活動】

日本教育学会 機関誌編集委員会 委員 2020年1月～

仙台市生涯学習支援センター 研修講師 2021年7月

高知大学希望創発センター セミナー講師 2021年6月、2022年1月、2月

【行政機関・企業・NPO等参加】

仙台市 社会教育委員の会議 委員 2017年11月～

西宮市：生涯学習審議会 委員 2020年6月～

中島 啓貴 (助教)

〔専門分野〕

幾何学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

学部教育 幾何学概論 A1 演習 5セメスタ

〔論文〕

(共著) 「Isoperimetric inequality on a metric measure space and Lipschitz order with an additive error」 『Journal of Geometric Analysis』
2022年1月

〔会議の発表・講演〕

「測度距離空間の幾何における群の作用の収束」 口頭 (一般)：幾何シンポジウム 2021年9月
「グロモフハウスドルフ空間の自然なコンパクト化」 口頭 (一般)：日本数学会年会 2022年3月

猪股 歳之 (教授)

〔専門分野〕

教育社会学

社会学

教育学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 前期

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 前期

全学教育 キャリアデザイン講座 後期

全学教育 キャリア設計演習 後期

全学教育 ライフ・キャリアデザインB 後期

全学教育 新聞から見た現代社会 後期

全学教育 東北の「みらい」を拓く新聞論 後期

全学教育 社会学 (現代大学論) 2セメスタ

他大学 教育社会学 通年

他大学 フィールド・ワーク論 前期集中

〔その他教育上に関する活動〕

(学友会・同好会等の指導) 東北大学学友会準加盟団体弓道サークル zansin の顧問教員

(学友会・同好会等の指導) 東北大学学友会報道部の部長

〔総説・解説記事〕

(共著) 「令和2年度 東北大学キャリア支援センター年報」 2021年7月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究 2016年4月～ 代表者

挑戦的研究(萌芽) 高等教育「後背地」理論モデル構築への挑戦的研究：オルタナティブな理論を目指して 2019年4月～ 分担者

基盤研究(C) 大学の地域連携機能の強化・発展を促進する要因に関する研究 2021年4月～ 代表者

〔学内活動〕

全学委員会 キャリア支援連絡会議委員 2016年4月～

全学委員会 学務審議会 新しい全学教育のカリキュラムに関する準備委員 キャリア教育委員会準備部会長 2021年1月～2022年3月

全学委員会 学務審議会委員 2021年4月～

全学委員会 学生生活支援審議会 令和3年度学生生活調査ワーキンググループ 副委員長 2021年5月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要・出版委員会委員 2016年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 広報小委員会委員 2017年1月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 総務委員会委員 2021年4月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 教務委員会委員 2021年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 人事委員会委員 2021年10月～

その他の主要活動 キャリア支援センター副センター長 2016年4月～2022年3月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長 2014年4月～

〔学内教職員支援〕

国際文化研究科キャリア講習会において講演を行った。(講師)

教育学部教務委員会主催キャリア支援セミナーにおいて講演を行った。(講師)

第2回学生生活支援審議会FDにおいて講師を務めた(講師)
教育学部同窓会主催キャリア支援セミナーにおいて講演を行った。(講師)

〔プロジェクト活動〕

留学生就職促進プログラム「東北イノベーション人材育成プログラム(DATEntre)」

〔教育相談〕

のべ相談人数102名、のべ相談回数102回

〔学会活動および外部機関における活動〕

IDE大学セミナー実行委員会 委員 2015年4月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議運営) IDE東北支部セミナー「日本の大卒キャリアは変わるか?—ポストコロナを踏まえた大学教育—」 2021年11月15日

〔兼務、兼業など〕

学外 東北福祉大学 兼任講師 2003年4月～

学内 宮城学院女子大学 非常勤講師 2004年4月～

〔報道〕

新聞(その他) 「ほしい人材×育てる人材」 日刊工業新聞 2021年6月8日

新聞(その他) 「23卒インターン選考開始 ハイブリッド増加の見込み」 東北大学新聞 2021年7月2日

その他(その他) 「2020年度卒業生の就職状況等について」 経和会(東北大学経済学部同窓会)会報 第76号 2021年9月1日

新聞(その他) 「就活「始め方が分からない」8割」 東北大学新聞 2022年1月31日

〔その他〕

学生支援業務: キャリア支援センターにおける各種支援プログラムの企画・実施

門間 由記子(特任准教授)

〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 インターンシップ事前研修 1セメスタ

全学教育 インターンシップ実習 3セメスタ

全学教育 インターンシップ事前研修 1セメスタ

全学教育 基礎ゼミ—地域の課題と世界の課題 ディスカッション力を鍛えよう— 前期

全学教育 インターンシップ実習 後期集中

その他 TUJP II 「日本におけるキャリア構築とライフキャリア」

〔その他教育上に関する活動〕

外国人留学生採用に関心のある企業への対応 外国人留学生の採用を検討している企業やインターンシップの受け入れを実施している企業の問い合わせに対して、留学生の現状を説明し、企業の要望についても伺っている。インターンシップ実施中の企業に対してはプログラム作成から途中経過の観察まで行っている。

留学生のための就職活動準備講座 SPI対策講座や個別面接対策、企業研究、業界研究など日本語や日本文化への注意点を踏まえながら、留学生に必要な就職活動準備を行うための様々な講座を開催している。

OBOG×在学生交流会 東北イノベーション人材育成プログラムに参加し、日本に就職した留学生と日本で就職を考えている在学生との交流会を年3回程度定期的に企画・開催。定着に向けた課題の共有を目指している。

就職後の卒業生の相談対応・企業対応 宮城県内企業企業に就職した留学生のなかには職場での課題を抱え、孤立してしまう元留学生もいる。そうした元留学生と企業の人事担当者それぞれのサポートを行っている。日本語が不十分な学生に対しては日本語サポートも行っている。

(教育方針の実践例) キャリア教育特別演習A・B 東北イノベーション人材育成コンソーシアムに参加している留学生を対象とし、自己PRやSPI適性検査、面接対策、県内企業の研究会などを行うキャリア教育科目。課外セミナーとしてキャリア教育特別演習A(全6回)、キャリア教育特別演習B(全6回)を前期・後期それぞれ開講した。

(教育方針の実践例) 仙台市・JETRO 仙台との協働による「国際共修課題解決型インターンシップ」において、オンラインインターンシップにおける学生指導を行うと共に、企業へのプログラム作成指導も行った。

〔論文〕

(共著) 「産官学による外国人留学生の就職支援における取り組み—DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラムの5年間の活動から—」 『機関誌「東北活性研」』 "Vol.45"巻 16-23 2021年

(共著) 「地方都市の企業における外国人留学生の採用と定着の課題」 『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要』 第7号 365-374 2021年4月

(共著) 「新型コロナウイルス禍における東北イノベーション人材育成コンソーシアムの取り組み」 『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要』 第7号 133-138 2021年4月

(単著) 「イノベーション人材としての外国人留学生」 『第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究集録』 81-84 2021年9月

(単著) 「産官学による外国人留学生の就職支援における取り組み—DATEntre 東北イノベーション人材育成プログラムの5年間の活動から—」 『東北活性研』 44巻 16-23 2021年10月

〔会議の発表・講演〕

「中小企業による理系外国人留学生の採用戦略」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 日本貿易振興機構 (JETRO) ウェビナー 2021年8月

口頭 (招待・特別) : JETRO ウェビナー「中小企業による理系外国人留学生の採用戦略」 2021年9月

口頭 (一般) : 第70回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 2021年9月

シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 人材育成学会第19回年次大会 2021年12月

「外国籍学生を採用する企業と 採用しない企業 : 採用ループ 論の提案」 口頭 (一般) : 人材育成学会第19回年次大会 2021年12月

〔総説・解説記事〕

(単著) 「OJTを拒否する新人」 『Leadership Development Note』 2021年10月

〔共同研究活動〕

外国人留学生の日本におけるキャリア構築 国内 2019年5月～

〔その他研究活動〕

(フィールドワーク) 高度外国人材の地元定着に関する調査

グローバル人材の採用・育成に関する調査

東北地域におけるグローバル人材の採用・育成に関する調査 (東北活性化研究センター)

〔プロジェクト活動〕

グローバル人材プロジェクト

〔教育相談〕

のべ相談人数80名、のべ相談回数83回

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

キリンビール仙台工場 インターンシッププログラム開発・運営支援 2021年5月～2022年3月

定禅寺通り活性化検討会 インターンシッププログラム アドバイザー 2021年6月～2021年12月

〔報道〕

その他 (出演・執筆) 「東北大学における外国人留学生支援の取り組み」 2021年4月1日

新聞 (資料提供) 「東北大学におけるキャリア教育の取り組み」 2021年7月1日

新聞 (その他) 「オンラインインターンシップ合同説明会 (紹介)」 2021年8月1日

富田 京子 (特任准教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3セメスタ

全学教育 フィールドワーク実践 : 地域とビジネス 3セメスタ

他大学 弘前大学農学生命科学部大学院生キャリア開発セミナー 前期集中

その他 文学部・文学研究科職業関連科目「キャリアデザイン講座」及び「キャリア設計演習」 後期

〔その他教育上に関する活動〕

キャリア支援プログラムの企画・開発・運営

農学部・農学研究科キャリア形成ワークショップ 講師

「保護者のための就活支援ガイド 2021年度東北大学キャリア支援センター」 冊子作成

〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2019年4月～

〔教育相談〕

のべ相談人数282名、のべ相談回数282回

〔兼務、兼業など〕

学外 弘前大学 非常勤講師 2015年4月～

学外 特定非営利活動法人 宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2018年12月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

特定非営利活動法人宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2018年12月～

池田 忠義 (教授)

〔専門分野〕

臨床心理学

学生相談

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

大学院教育 投影法特論 I MC1年1学期

大学院教育 投影法特論Ⅱ MC 1年2学期

[その他教育上に関する活動]

新入生特別セミナーにおいて「安全・安心なキャンパスライフ」に関する講演

[論文]

(共著) 「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 42巻2号 91-104, 2021年7月

(共著) 「「学生生活概論」の教育効果についてーコロナ禍における授業形態の影響に着目してー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 109-122, 2022年3月

(共著) 「コロナ禍における工学系大学教員の感じる困難さに対処・工夫」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 147-158, 2022年3月

(共著) 「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能ーコロナ禍における学生相談機関の活動に基づく検討ー」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8巻 135-146, 2022年3月

[会議の発表・講演]

「形成的評価としての「学生相談機関充実イメージ表」の改良ー改良版の試案の作成と「評価の手引」の改良ー」 口頭(一般): 日本学生相談学会第39回大会 2021年5月

「「私たちは何に直面し、どんな工夫をして、そして何を学んだのかー1年3ヶ月を振り返って、明日を考える」 話題提供: 学生相談における多水準への働き掛けという視点から」 シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名): 日本学生相談学会第39回大会 2021年5月

「Collaboration between Student Counseling and Disability Services for University Students in Japan」 ポスター(一般): The 32th International Congress of Psychology 2021年7月

「発達障害学生における学生ピアサポーターによる支援実践ー発達障害理解とマッチングの問題についてー 指定討論: 障害学生の多様性・支援学生の多様性」 口頭(一般): 日本特殊教育学会第59回大会 2021年9月

[共同研究活動]

東日本大震災後の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究 神戸大学, 和歌山大学, 奈良女子大学 国内 2012年4月～

[その他研究活動]

令和3年度新入生意識調査

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(C) IT技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメント法の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018年4月～2023年3月 代表者

基盤研究(C) 多機関によるビッグデータ収集の基盤としての臨床実践の共通データセット開発 2020年4月～2023年3月 分担者

[その他の競争的資金獲得実績]

(共同研究費) 全国大学学生相談機関における危機対応ー現状課題の把握と基本指針の作成ー 2020年10月～2022年9月

[学内活動]

全学委員会 学生生活支援審議会委員 2015年4月～

全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2015年4月～

全学委員会 障害者差別解消推進委員会委員 2016年4月～

全学委員会 ボランティア活動支援運営委員会委員 2018年4月～

全学委員会 学生生活支援審議会第15回学生生活調査ワーキンググループ委員 2021年5月～2022年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2015年4月～

その他の主要活動 学生相談・特別支援センター副センター長 2014年4月～

[学内教職員支援]

東北大学新任教員研修において、「教育研究における学生との関わりとハラスメント」に関する講演(講師)

工学研究科等新規採用等教職員合同研修(前期・後期各1回開催)において、「大学におけるハラスメント」に関する講演(講師)

学生支援審議会 FD(1) (FD/S Dの企画・運営)

学生支援審議会 FD(2) (FD/S Dの企画・運営)

医学部・医学研究科 FDにおいて「ハラスメント」に関する講演(講師)

学生支援審議会 FD(3) (FD/S Dの企画・運営)

学生支援審議会 FD(4) (FD/S Dの企画・運営)

[教育相談]

のべ相談人数 104名、のべ相談回数 935回

[学会活動および外部機関における活動]

日本学生相談学会 理事(特別委員会) 2019年5月～

第59回全国学生相談研修会 分科会講師 2021年11月～2021年11月

[学外の社会活動]

広島修道大学教職員研修会にて講師

東京大学ピアサポーター研修会にて講師
仙台青葉学院短期大学教職員研修会にて講師
長崎県立大学ハラスメント研修会にて講師
麗澤大学教職員研修会にて講師

中島 正雄 (准教授)

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半
大学院教育 心理療法特論 前期
大学院教育 臨床心理学概論 後期
他大学 学校臨床心理学特論(TV) 通年

〔その他教育上に関する活動〕

自然科学総合実験 FD 学生対応の留意点

〔論文〕

(共著) 「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 42巻2号 91-104 2021年7月
(共著) 「職場内スーパーヴァイザーによる学生相談カウンセラーの成長支援—吉武清實先生へのインタビューから—」 『東北大学学生相談・特別支援センター年報』 7号 25-38 2021年10月
(共著) 「コロナ禍における工学系大学教員の感じる困難さと対処・工夫」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 147-158 2022年3月
(共著) 「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能—コロナ禍における学生相談活動に基づく検討—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 135-146 2022年3月
(共著) 「「学生生活概論」の教育効果について—コロナ禍における授業形態の影響に着目して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 109-122 2022年3月

〔著書〕

『学校臨床心理学特論21 (放送大学 2021DVD 教材)』 2021年11月

〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学相談窓口 2015年11月～
全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2019年4月～
部局内委員会 紀要・出版委員会 2016年4月～

〔学内教職員支援〕

国際文化研究科 FD ハラスメントの防止と学生対応の留意点 (講師)
歯学研究科 FD 教育研究におけるハラスメント (講師)
電気通信研究所・流体科学研究所 FD コロナ禍における工学系大学教員の感じる困難さと対応 (講師)
学生支援審議会 FD(1) (FD/SD の企画・運営)
学生支援審議会 FD(2) (FD/SD の企画・運営)
工学部・工学研究科 FD コロナ禍における工学系大学教員の感じる困難さと対応 (講師)
医学部・医学研究科 FD において「ハラスメント」に関する講演 (講師)
学生支援審議会 FD(3) (FD/SD の企画・運営)
学生支援審議会 FD(4) (FD/SD の企画・運営)

〔教育相談〕

のべ相談人数 346名、のべ相談回数 721回

〔兼務、兼業など〕

学外 放送大学 客員准教授 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

全国大学生サミット (全国大学生生活協同組合連合会主催)

小島 奈々恵 (講師)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半
全学教育 異文化理解【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 前期
全学教育 国際教養【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 後期
学部教育 医学・医療入門/行動科学 通年

大学院教育 コミュニティ心理学特論 前期

大学院教育 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） 後期

〔その他教育上に関する活動〕

新入学留学生オリエンテーション

工学部（マテリアル・開発系）新入生オリエンテーション

生命科学研究科新入生オリエンテーション

危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象）

新入学留学生オリエンテーション

危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象）

〔論文〕

（共著）「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 42巻2号 91-104 2021年11月

（共著）「『学生生活概論』の教育効果について—コロナ禍における授業形態の影響に着目して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 109-121 2022年3月

（共著）「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能—コロナ禍における学生相談活動に基づく検討—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 135-145 2022年3月

（単著）「アメリカの学生相談機関におけるグループ活動」 『学生相談研究』 42巻3号 2022年3月

〔その他研究活動〕

令和3年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

〔学内教職員支援〕

令和3年度 第1回 学生支援審議会 FD（FD/SDの企画・運営）

高度教養教育・学生支援機構 通訳支援に関するFD（講師）

高度教養教育・学生支援機構 通訳支援に関するFD（講師）

令和3年度 第2回 学生支援審議会 FD（FD/SDの企画・運営）

高度教養教育・学生支援機構 通訳支援に関するFD（講師）

高度教養教育・学生支援機構 通訳支援に関するFD（講師）

生命科学研究科 教育FD「大学の危機管理としてのハラスメント対策」（講師）

令和3年度 第3回 学生支援審議会 FD（FD/SDの企画・運営）

令和3年度 第4回 学生支援審議会 FD（FD/SDの企画・運営）

〔教育相談〕

のべ相談人数 363名、のべ相談回数 783回

〔学外の社会活動〕

JAFSA 特別 Webinar DE&I シリーズ「大学の国際交流における DE&I の取り組みについて-2-」にて講師

中岡 千幸（講師）

〔専門分野〕

臨床心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論—学生が会う大学生活の危機と予防— 前期前半

その他 教育相談・生徒指導 I（進路指導を含む） 前期集中

他大学 コミュニケーション学 後期集中

〔その他教育上に関する活動〕

工学部 機械・知能系新入生オリエンテーション

工学部 人間・環境系（学部2年生対象）オリエンテーション

工学部 人間・環境系（新入生対象）オリエンテーション

文学部新入生オリエンテーション

歯学研究科 FD 教育研究におけるハラスメント

（教育方針の実践例）総合技術部技術職員研修 教育研究支援系技術職員対象 ハラスメントについて

金属材料研究所教職員 FD 「学生指導や研究室運営で気を付けたいこと」

〔論文〕

（共著）「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 43号 91-104 2021年12月

（共著）「『学生生活概論』の教育効果について：コロナ禍における授業形態の影響に着目して」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 8号 109-121 2022年3月

（共著）「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能：コロナ禍における学生相談活動に基づく検討」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 8号 135-146 2022年3月

〔その他研究活動〕

令和3年度新入生意識調査

〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学学生相談窓口 2016年6月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員会委員 2017年1月～

〔学内教職員支援〕

令和3年度 第1回学生支援審議会 FD (ハラスメント全学防止対策委員会との共催) 内容: ハラスメント (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第2回学生支援審議会 FD 内容: 本学における学生支援の現状と課題 (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第3回学生支援審議会 FD 内容: 合理的配慮の理念、手続きについて (榊原先生: 北海道大) (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第4回学生支援審議会 FD 内容: 長期化するコロナ禍における学生の理解と対応 (鈴木先生: 名古屋大学) (FD/SDの企画・運営)

〔教育相談〕

のべ相談人数 363名、のべ相談回数 609回

〔その他〕

学生支援:

1) 学生相談所相談員として、学生 (留学生を含む)、教職員、学生の家族に対して相談援助活動を行った。相談人数は106名、のべ相談回数は609回。

2) ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、ハラスメント相談への対応を行った。延べ対応回数は68回。

センター業務:

1) 全学学生対象の「東日本大震災後の学生生活に関する調査」を実施し、その結果に基づく個別支援。

2) 各部局における新入生オリエンテーション等での学生生活のガイダンスおよび学生相談所の利用案内。

3) センターの自己啓発パンフレット ((EMPOWERMENT Series) の作成・編集。

4) センターの自己啓発パンフレットや休学のリーフレットの英語化を行った。

佐藤 静香 (助手)

〔専門分野〕

社会心理学

臨床心理学

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

〔その他教育上に関する活動〕

工学研究科電子情報システム・応物系新入生オリエンテーション

教育学研究科新入生対象 ハラスメント防止講習会

工学研究科化学・バイオ系新入生オリエンテーション

工学研究科機械・知能系新入生オリエンテーション

工学部マテリアル・開発系4年生ガイダンス

教育学部2年生対象 ハラスメント防止講習会

全学学生向けイーラーニング動画教材の作成

〔論文〕

(共著) 「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 42巻2号 91-104 2021年11月

(共著) 「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能—コロナ禍における学生相談活動に基づく検討—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 135-145 2022年3月

(共著) 「「学生生活概論」の教育効果について」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 109-121 2022年3月

〔その他研究活動〕

令和3年度新入生意識調査

令和3年度「大学生の心身の健康に関する調査」の実施と結果に基づく個別支援

〔学内活動〕

全学委員会 男女共同参画委員会委員 2011年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2014年4月～

〔学内教職員支援〕

令和3年度 第1回 学生支援審議会 FD (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第2回 学生支援審議会 FD (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第3回 学生支援審議会 FD (FD/SDの企画・運営)

令和3年度 第4回 学生支援審議会 FD (FD/SDの企画・運営)

[学外の社会活動]

第80回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

第81回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

[教育相談]

学生相談・特別支援センターでの相談・支援業務：相談人数145人、のべ相談回数818回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数46回

[その他]

「東北大学 学生相談・特別支援センター年報 第7号」の編集・発行

松川 春樹 (助教)

[専門分野]

臨床心理学

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 学生生活概論 前期前半

[その他教育上に関する活動]

医工学研究科の新入生オリエンテーションにおいてメンタルヘルスについて講演

工学研究科マテリアル・開発系の新入生オリエンテーションにおいてメンタルヘルスおよびハラスメント防止について講演

文学部2年次学生ガイダンスにおいてメンタルヘルスについて講演

医学部保健学科学学生対象キャンパスハラスメント講習会において講演

[論文]

(共著) 「新型コロナウイルス感染拡大状況下における大学新入生の不安とその支援」 『学生相談研究』 42巻2号 91-104 2021年11月

(共著) 「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能—コロナ禍における学生相談活動に基づく検討—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 135-145 2022年3月

(共著) 「『学生生活概論』の教育効果について—コロナ禍における授業形態の影響に着目して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 109-121 2022年3月

[会議の発表・講演]

「Collaboration between Student Counseling and Disability Services for University Students in Japan」 ポスター (一般) : The 32nd International Congress of Psychology 2021年7月

「心理臨床における「つまずき」について考える(10) —「つまずき」に影響を与える「心理臨床の専門家としての意識」—」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 日本心理臨床学会第40回大会 2021年9月

[その他研究活動]

令和3年度新入生意識調査

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018年4月~2023年3月 分担者

[学内教職員支援]

学生生活支援審議会 FD(1) (FD/S Dの企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(2) (FD/S Dの企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(3) (FD/S Dの企画・運営)

学生生活支援審議会 FD(4) (FD/S Dの企画・運営)

[教育相談]

のべ相談人数396名、のべ相談回数860回

[学外の社会活動]

全国大学生サミット

[学生相談・特別支援センター業務]

- 1) 全学生対象の調査である「大学生の心身の健康に関する調査」の計画や実施、分析を行った。さらに、その結果に基づき全学生にセルフケアの情報提供を行い、ハイリスクの学生に対して個別に予防的働き掛けを行った。
- 2) 学生生活支援審議会 FD (年4回実施) の企画・運営を行った。うち第1回 FD において、ハラスメント相談への対応やその際の留意点について講演した。
- 3) 部活・サークルの幹部学生等を対象とする課外活動 FD に関する動画作成に携わった。

長友 周悟 (講師)

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 全学教育「学生生活概論」 前期

全学教育 障害者支援入門 前期

全学教育 教職科目「教育相談・生徒指導Ⅱ」 後期

学部教育 関係行政論 後期

【論文】

(単著)「大学における発達障害学生への就労移行支援のあり方に関する考察—就職活動に関する支援を中心に—」『高度教養教育・学生支援機構紀要』 2022年3月

【学内教職員支援】

令和3年度第1回学生生活支援審議会 FD 「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」(FD/S Dの企画・運営)

令和3年度第2回学生生活支援審議会 FD 「東北大学における学生支援の現状と課題」(FD/S Dの企画・運営)

令和3年度第3回学生生活支援審議会 FD 「大学における障害学生への配慮・支援について」(FD/S Dの企画・運営)

令和3年度第4回学生生活支援審議会 FD 「長期化するコロナ禍における学生の理解と対応」(FD/S Dの企画・運営)

【教育相談】

のべ相談人数 295名、のべ相談回数 1014回

【行政機関・企業・NPO等参加】

NPO 法人ソイブラム 理事 2021年4月～2022年3月

社会福祉法人あおぞら 評議員 2021年4月～2022年3月

社会福祉法人仙台みんなの輪 評議員 2021年4月～2022年3月

鈴木 大輔 (特任講師)

【専門分野】

応用認知心理学

【担当授業科目 (他大学も含む)】

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 基礎ゼミ 障害者支援入門—障害のある学生への支援について学び考える— 前期前半

【その他教育上に関する活動】

(教科書・教材の開発) 発達障害のある学生への対応について —教職員向けヒントブック— 編集 教職員が発達障害のある学生へのサポートを行う際のヒントブックの編集を行った。

東北大学入試説明会 (仙台) 参加 (2021年6月21日) 本学における障害学生の支援体制について説明を行った。

学生相談・特別支援センター 特別支援室 学生サポーター指導 障害学生の支援を行う学生サポーターの指導・養成を行っている。

発達障害のある高校生・既卒者向け大学準備講座 1 DAY トライアル! 開催 (2022年3月5日) 障害のある高校生・既卒者向けの大学移行に向けた高大接続事業として開催した。

【論文】

(共著)「大学コミュニティの危機における学生相談機関の役割と機能—コロナ禍における学生相談活動に基づく検討—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 8号 135-145 2022年3月

【会議の発表・講演】

「自閉スペクトラム症者における試験時間延長による学力テスト変化に影響を与える要因 (1)」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「自閉スペクトラム症者における試験時間延長による学力テスト変化に影響を与える要因 (2)」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「試験における合理的配慮に関する研究 (1) 定型発達者における WAIS プロフィールと時間延長効果との関連から」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「試験における合理的配慮に関する研究 (2) ASD 者・TD 者における CANTAB と時間延長効果との関連から」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「発達障害者におけるテストアコモデーションに関する研究 (1) 自閉スペクトラム症者における時間延長効果」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「発達障害者におけるテストアコモデーションに関する研究 (2) —試験時間延長効果における ASD 者と定型発達者の比較—」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

「発達障害者におけるテストアコモデーションに関する研究 (3) —試験における困り感と ASD 特性との関連—」その他: 日本特殊教育学会 第59回大会 (2021つくば大会) 2021年9月

【科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)】

基盤研究(B) 大学における科学的根拠に基づく発達障害者への合理的配慮—当事者と周囲との合意形成 2018年4月～ 分担者

【学内教職員支援】

令和3年度 第1回学生支援審議会 FD 本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談対応について (FD/S Dの企画・運営)

令和3年度 第2回学生支援審議会 FD 東北大学における学生支援の現状と課題 (FD/S Dの企画・運営)

令和3年度 文学部・文学研究科 教育 FD コロナ禍における学生のメンタルヘルス、障害学生支援および学生対応について (講師)

令和3年度 第3回学生支援審議会 FD 大学における障害学生への配慮・支援について 合理的配慮提供の基本的考え方 (講師)

令和3年度 第4回学生支援審議会 FD 長期化するコロナ禍における学生の理解と対応 (FD/S Dの企画・運営)

[教育相談]

のべ相談人数 116名、のべ相談回数 457回

[会議の主催・運営]

(国内会議主催) 令和3年度 障害学生支援相互協力協議会 2021年9月16日

[学外の社会活動]

令和3年度 第1回障がい学生支援東北地区大学間情報交換会への参加

令和3年度 第1回在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会への参加

令和3年度 第2回障がい学生支援東北地区大学間情報交換会への参加

令和3年度 第2回在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会への参加

木内 喜孝 (教授)

[専門分野]

消化器内科学

ヒト遺伝学

[学位論文指導・審査]

博士2名(副査2名)、修士2名(予備審査2名)

[論文]

(共著) 「Liquid Biopsy for Colorectal Adenoma: Is the Exosomal miRNA Derived From Organoid a Potential Diagnostic Biomarker?」 『Clinical and translational gastroenterology』 12巻5号 e00356-2021年5月

(共著) 「The clinical practice of ulcerative colitis in elderly patients: An investigation using a nationwide database in Japan.」 『JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology』 5巻8号 842-848 2021年8月

(共著) 「Immunoglobulin subtype-coated bacteria are correlated with the disease activity of inflammatory bowel disease.」 『Scientific reports』 11巻1号 16672-16672 2021年8月

(共著) 「Analysis of the Long-Term Prognosis in Japanese Patients with Ulcerative Colitis Treated with New Therapeutic Agents and the Correlation between Prognosis and Disease Susceptibility Loci.」 『Inflammatory intestinal diseases』 6巻3号 154-164 2021年9月

(共著) 「Crohn's disease and early exposure to thiopurines are independent risk factors for mosaic chromosomal alterations in patients with inflammatory bowel diseases.」 『Journal of Crohn's & colitis』 2021年11月

[会議の発表・講演]

「2020年度健康診断実施状況について—本学における感染対策を中心に—」 口頭(一般): 第58回全国大学保健管理東北地方研究集会 2021年7月

「直腸癌術後吻合部完全閉塞に対し、内視鏡的切開拡張術を施行した1例」 口頭(一般): 第224回日本内科学会東北地方会 2021年9月

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(C) 潰瘍性大腸炎感受性遺伝子 MIR622 の感受性メカニズムの解明と臨床的応用の探索 2021年4月~2024年3月 代表者

基盤研究(C) ゲノム不安定性による体細胞モザイクを介したクローン病の発症・病態変化の解析 2021年4月~2024年3月 分担者

基盤研究(C) メディア上のいわゆる「新型うつ病」—精神医学の観点からみた医療報道の質の評価— 2021年4月~2024年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 入試実施委員会 2012年4月~

全学委員会 環境・安全委員会委員 2012年4月~

全学委員会 特別健康管理専門部会委員長 2012年7月~

全学委員会 災害対策推進室推進室会議 2013年7月~

全学委員会 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員 2014年4月~

全学委員会 学生生活支援審議会 2015年4月~

全学委員会 人を対象とする医学系研究実施委員会委員 2015年6月~

部局内委員会 情報科学大学院倫理審査委員 2012年4月~

部局内委員会 ハラスメント相談窓口 2012年5月~

部局内委員会 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口 2012年5月~

部局内委員会 研究倫理委員会委員長 2014年4月~

部局内委員会 機構研究倫理教育責任者 2015年3月~

部局内委員会 機構研究倫理推進責任者 2015年4月~

部局内委員会 ハラスメント防止対策委員長 2015年10月~

その他の主要活動 健康管理センター外来業務 2011年4月~

[学会活動および外部機関における活動]

日本消化器内視鏡学会東北支部 評議員 1998年7月~

日本消化器病学会 評議員 2000年10月～
日本内科学会東北支部 評議員 2005年2月～
日本消化器がん検診学会 地方評議員 2012年8月～
全国大学保健管理協会 評議員 2013年5月～
東北学校保健学会 世話人 2013年8月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

〔日本国内〕 宮城県対がん協会 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員 委員長 2002年4月～
〔日本国内〕 宮城県社会保険診療報酬支払基金 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員 2004年4月～

小川 晋 (准教授)

〔専門分野〕

代謝学
内分泌学
腎臓内科学

〔論文〕

〔共著〕 "Electrolyzed hydrogen-rich water for oxidative stress suppression and improvement of insulin resistance: a multicenter prospective double-blind randomized control trial." 『Diabetology international』 13巻1号 209-219 2022年1月

〔会議の発表・講演〕

「1型糖尿病における超速効型インスリンから超超即効型インスリンへの切り替えの検討」 口頭（一般）：第64回日本糖尿病学会年次学術集会 2021年5月
「過剰濾過におけるシトルリン・アルギニン動態の変化」 ポスター（一般）：第64回日本腎臓学会学術総会 2021年6月
「腎機能の変化に伴うシトルリン・アルギニン動態の変化」 口頭（一般）：第43回日本高血圧学会総会 2021年10月
「Diabetic kidney diseaseにおける酸化ストレス抑制によるeGFR上昇とtype B natriuretic polypeptide (BNP)の関連」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第43回日本高血圧学会総会 2021年10月
「過剰濾過と腎機構低下におけるシトルリン・アルギニン動態の変化」 口頭（一般）：第32回日本糖尿病性腎症研究会 2021年12月

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 腎糖新生におけるNrf2の役割とその制御メカニズムの解明 2021年4月～2024年3月 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 倫理委員会委員 2015年4月～
部局内委員会 出版・図書・資料委員会 2016年4月～
部局内委員会 環境・安全委員会原子科学安全専門委員会 2020年4月～
部局内委員会 環境・安全委員会エックス線取扱主任者専門部会 2020年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本肥満症治療学会 評議員 2008年4月～
日本内科学会東北支部 評議員 2010年6月～
日本高血圧学会 評議員 2013年10月～
日本腎臓学会 評議員 2015年4月～
日本内分泌学会 評議員 2016年4月～
高血圧学会 プログラム委員会 2017年1月～
糖尿病性腎症研究会 幹事 2017年4月～
日本糖尿病学会 学術評議員 2019年4月～

〔その他〕

岩手県立高田病院にて糖尿病外来を30年続けている。同地域には糖尿病専門医がおらず、地域医療の向上に努めている。また透析専門病院にて透析患者の血糖コントロールを行っている。透析患者の血糖変動はあまり知られておらず、そのコントロールには高度な専門的知識が必要である。

佐藤 公雄 (准教授)

〔専門分野〕

循環器内科学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

学部教育 薬理学I 後期前半

〔論文〕

〔共著〕 "Sirtuin-7 as a Novel Therapeutic Target in Vascular Smooth Muscle Cell Proliferation and Remodeling." 『Circulation Journal』 85巻12号 2241-2242 2021年11月

〔著書〕

『ポストコロナ時代へ向けた航海 ～パンデミック下の不確実性からの脱却～』東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要第8号 2022年3月
『令和の心不全治療 [VI] 合併症とその治療戦略 糖尿病患者の心不全発症予防、糖尿病治療薬の選択は?』 2022年3月

〔総説・解説記事〕

(共著) 「SGLT2阻害薬による心腎保護効果と Sirtuin-1」 『循環器内科』 89巻5号 2021年

(共著) 「新型コロナウイルス(COVID-19)流行後の男子学生の喫煙率の変化」 『全国大学保健管理研究会プログラム・抄録集』 59th (CD-ROM) 巻 2021年

〔共同研究活動〕

肺高血圧症の新しい早期診断試薬開発 アルフレッサファーマ株式会社 国内 2015年10月～

肺高血圧治療薬エメチンの合成ルート開発 スペラファーマ株式会社 国内 2017年4月～

肺動脈性肺高血圧症の新しい病因蛋白に着目した抗体医薬開発 ジーンテクノサイエンス株式会社 国内 2018年10月～

慢性血栓性肺高血圧症の新しい治療薬開発 日本新薬株式会社 国内 2020年12月～

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(B) 次世代型先制医療実現のための肺高血圧症病因蛋白群の抽出と治療法開発 2019年4月～2022年3月 代表者

〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 日本医療研究開発機構 (AMED) 橋渡し研究 (シーズ A)) ADAMTS8 を標的とする肺動脈性肺高血圧症抗体治療薬の開発 2020年4月～2022年3月

(その他補助金 日本医療研究開発機構 (AMED) 難治性疾患実用化研究事業) 肺動脈性肺高血圧症の新しい治療薬エメチンの治験準備 2020年4月～2023年3月

(その他補助金 東北大学 BIP(ビジネス・インキュベーション・プログラム)国際特許支援) フェーズ1 (国際出願支援) 2020年10月～2021年10月

(その他補助金 ベーリンガー奨学寄付) 肺高血圧症研究 2020年10月～2021年10月

(その他受託研究費 武田科学振興財団ビジョナリーリサーチ 2020年10月・2022年10月) 肺動脈性肺高血圧症の全く新しい治療薬開発 2020年10月～2022年10月

(その他補助金 東北大学 BIP(ビジネス・インキュベーション・プログラム)令和2年度第2回 BIP フェーズ1 育成) 患者由来の臨床検体を用いた早期診断薬及び治療薬開発とその事業化のための体制構築 2021年1月～2022年3月

〔学内活動〕

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 循環グループ再来 2008年9月～

その他の主要活動 保健管理センター 健康相談班長 2012年4月～

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 新患外来 2018年4月～

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本NO学会 評議員 2010年6月～

アメリカ心臓協会 (AHA) "国際学術誌 (Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology, ATVB) 編集委員会 委員" 2013年5月～

日本酸化ストレス学会 評議員 2013年5月～

日本心臓血管作動物質学会 評議員 2014年7月～

日本循環器学会 日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員 2015年4月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2015年4月～

日本循環器学会 Circulation Journal (日本循環器学会) 編集委員 2015年4月～

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員 2015年4月～

アメリカ心臓協会 (AHA) 国際学術誌 (Circulation Research) 編集委員会 委員 2015年7月～

日本肺高血圧・肺循環学会 評議員 2016年4月～

日本循環器学会 Fellow of Japanese Circulation Society (FJCS 日本循環器学会特別会員) 2017年4月～

日本心臓病学会 Fellow of Japanese College of Cardiology (FJCC 日本心臓病学会特別会員) 2017年4月～

ヨーロッパ心臓学会 Fellow of the European Society of Cardiology (FESC ヨーロッパ心臓学会特別会員) 2017年4月～

日本循環器学会 日本循環器学会 予防委員会 委員 2017年4月～

日本循環器学会 Circulation Report (日本循環器学会) 編集委員 2018年4月～

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院・循環器内科 准教授 2012年4月～

学内 東北大学大学院・医学系研究科・病態生理情報学分野 准教授 2012年4月～

学内 東北大学大学院・情報科学研究科 准教授 2012年4月～

〔学外の社会活動〕

日本循環器学会 禁煙推進委員会委員

日本循環器学会 予防委員会 委員

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員 2014年12月～

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2016年4月～

〔社会貢献〕

学会活動：下記の学会に所属し、日本心臓血管動物質学会（理事）および日本酸化ストレス学会/日本NO学会の評議員を務めている。

日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員

日本循環器学会 予防委員会 委員

日本循環器学会 第80回日本循環器学会学術集会 事務局長

日本NO学会 評議員（事務局担当）

第9回国際NO学会・第16回日本NO学会学術集会 事務局長

日本酸化ストレス学会 評議員

日本心臓血管動物質学会 理事

学術活動：

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS)審査委員

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

国際学術誌 編集委員会 委員 Editorial Board：

Circulation Report (Associate Editor, 日本循環器学会), Journal of Cardiology (Associate Editor, 日本心臓病学会), Circulation Journal (日本循環器学会), Circulation Research (アメリカ心臓協会), Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology (アメリカ心臓協会)

北 浩樹 (助教)

〔専門分野〕

社会系歯学

図書館情報学・人文社会情報学

〔その他教育上に関する活動〕

（教科書・教材の開発）デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用

〔論文〕

（共著）「新型コロナウイルス感染症流行下での学生健診—東北大学における実施経験—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7巻 139-149 2021年4月

（共著）「クローン病の報道—全国3大紙の計量テキスト分析—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7巻 387-394 2021年4月

〔会議の発表・講演〕

「2020年度健康診断実施状況について—本学における感染対策を中心に—」ポスター（一般）：第58回全国保健管理研究会東北地方研究集会 2021年7月

「新型コロナウイルス（COVID-19）流行後の男子新入学生の喫煙率の変化」ポスター（一般）：第59回全国大学保健管理研究会 2021年10月

〔共同研究活動〕

大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究 国内 2016年1月～

〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) メディア上のいわゆる「新型うつ病」—精神医学の観点からみた医療報道の質の評価— 2021年4月～ 代表者

〔学内活動〕

部局内委員会 施設整備委員会 2014年4月～

その他の主要活動 保健管理センターにおける医療業務 1997年4月～

〔学内教職員支援〕

2022年02月 講師 高度教養教育・学生支援機構PDプログラム 健康教育W-4【PDP】健康科学セミナー「電動歯ブラシの効用」（講師）

〔プロジェクト活動〕

学生健診を基盤とした共有型ライフロング（PHR）の構築と利活用促進のための標準化モデル創出に関する研究班

〔学会活動および外部機関における活動〕

全国大学保健管理協会「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」委員 2016年1月～

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 口腔保健に関する予防強化推進モデル事業（歯科疾患の一次予防モデル事業の検証等）に係る調査研究・大学生への口腔ケア行動の啓発事業 大学生への口腔ケア行動の啓発事業のための調査・助言・支援活動 2021年9月～

〔授業担当〕

情報科学研究科大学院教育（健康情報学）「歯科疾患と情報科学Ⅰ、Ⅱ」

〔教育支援活動〕

デジタルサイネージ（電子看板）を用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用。保健管理センターにおける健康診断の立案・実施、歯科医療等の医療活動。

〔その他〕

日本矯正歯科学会認定医

二宮 匡史 (助教)

〔論文〕

(共著) 「Hepatitis B Virus Reactivation with Discontinuation of Nucleoside Analogue in Patients Who Received Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation」 『Case Reports in Gastroenterology』 2021 年

(共著) 「Plasma free amino acids are associated with sarcopenia in the course of hepatocellular carcinoma recurrence.」 『Nutrition (Burbank, Los Angeles County, Calif.)』 84 巻 111007-111007 2021 年 4 月

(共著) 「Envelope Proteins of Hepatitis B Virus: Molecular Biology and Involvement in Carcinogenesis.」 『Viruses』 13 巻 6 号 2021 年 6 月

(共著) 「The Exosome-Associated Tetraspanin CD63 Contributes to the Efficient Assembly and Infectivity of the Hepatitis B Virus.」 『Hepatology communications』 5 巻 7 号 1238-1251 2021 年 7 月

(共著) 「Reactivation of hepatitis C virus with severe hepatitis flare during steroid administration for interstitial pneumonia.」 『Clinical journal of gastroenterology』 14 巻 4 号 1221-1226 2021 年 8 月

〔教育活動〕

- ・大学生の講義と実習の指導
- ・大学院生の指導

〔大学運営・支援及び医療業務〕

- ・化学療法プロトコール審査委員
- ・東北大学病院生理検査センター 部門アドバイザー

〔社会貢献〕

- ・市民公開講座での講演

松原 久 (特任助教)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ (題目: 東日本大震災から復興へ感じ、考え、議論する) 前期

全学教育 基礎ゼミ (題目: 被災地復興の課題に取り組む) 前期

全学教育 社会の構造 後期

全学教育 課題解決型 (PBL) 演習A 後期

全学教育 「復興」を学際的に考える 後期

他大学 社会運動・コミュニティ論 前期

他大学 ボランティア・NPO 論 後期

〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 「サービス・ラーニング」科目の開発

〔会議の発表・講演〕

「東北大学課外・ボランティア活動支援センターの取り組み: 学生を被災地に派遣する意義」 口頭 (一般): 日本 NPO 学会第 23 回研究大会 2021 年 6 月

「コロナ禍において学生ボランティア活動をいかに支援するか?」 口頭 (一般): 高度教養教育・学生支援機構 第 84 回正午 PD 会 2021 年 10 月

「地方都市圏の混住地域における復興まちづくり体制の変遷—東松島市野蒜地区・あおい地区の事例から—」 口頭 (一般): 第 94 回日本社会学会大会 2021 年 11 月

「旧雄勝町の復興まちづくりのプロセスで何が起きていたのか (コメント)」 その他: みやぎ震災研 震災復興 10 年検証枠組み検討プレスト (第 26 回) 2021 年 11 月

「正課・課外リンクによる被災者/被災地支援活動の継続とその意義・課題」 その他: 東北大学学生ボランティア支援 10 年検証シンポジウム 2021 年 12 月

「学生ボランティアが被災地に関わりつづけることの意義—11 年目を振り返って—」 その他: 講演会「被災地で学生ボランティアに何ができるのか?—東日本大震災 12 年目に考える—」 2022 年 3 月

〔総説・解説記事〕

(単著) 「学生ボランティアと被災地域が再びつながる支援—震災 11 年目×コロナ禍 2 年目の取り組みから—」 『2021 年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』 1-6 2022 年 3 月

(単著) 「コロナ禍における学生ボランティア活動支援プログラムの開発・ボランティア入門講座の事例から—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要第 8 号』 293-304 2022 年 3 月

〔学会活動および外部機関における活動〕

東北社会学会 会計委員 2016 年 8 月~2021 年 7 月

[学外の社会活動]

仙台市社会福祉協議会と連携したボランティア派遣（仙台市大和地区等）
台風19号被災地丸森町へのボランティア派遣
尼崎西・宝塚東高校ボランティアとの交流
石巻じちれんと連携したボランティア派遣（石巻市のぞみ野地区等）
みやぎ連携復興センターと連携したボランティア派遣（仙台市荒井東地区等）

[行政機関・企業・NPO等参加]

おらほの自治を考える会 副代表 2016年9月～
みやぎボランティア総合センター 運営委員会 運営委員 2020年4月～
つながりデザインセンター 理事 2020年6月～
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家 運営協議会委員 2020年9月～
被災地に学ぶ会 監事 2021年4月～

高橋 結 (特任助教)

[担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ 前期
全学教育 課題解決型(PBL)演習 A 後期
全学教育 社会の構造 後期

[その他教育上に関する活動]

(教育方針の実践例) 「サービス・ラーニング」科目の開発

[論文]

(共著) 「コロナ禍におけるサービスラーニングの実践体制構築と学生の学びに関する一考察」 『2021年度東北大学課外・ボランティア活動支援センター紀要』 7-12 2022年3月

[著書]

『東日本大震災活動記録 これからのふたば・ふくしまを担う 想い人』 2022年3月

[会議の発表・講演]

「パネル・ディスカッション 大学・学生とNPO・多様な主体は、今後どのように何のために連携協働を進めていくか」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名) : 日本NPO学会第23回年次研究大会 2021年6月

[学会活動および外部機関における活動]

日本計画行政学会東北支部 事務局 2016年4月～
日本NPO学会東北大会 大会実行委員 2021年4月～2021年6月

[学外の社会活動]

福島県へのボランティア派遣
基礎教育保障にかかるボランティア派遣
フードバンク活動へのボランティア派遣
震災遺構の維持活動へのボランティア派遣

IV 資 料 編

1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第15回 東北大学学生生活調査」(令和3年12月実施)

- ・東北大学の学部・大学院に在籍し、調査可能であるすべての学生を対象に、令和3年12月1日現在の状況について調査を実施(専用Webページによる回答)
- ・令和2年度に作成したランディングページ「学生の声@東北大学」を改修して、令和3年度からは「東北大学ミライ・プロジェクト」(http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp/student_voices_15/)と改めた。同ページでは、過去の調査結果に基づく改善事例を紹介するとともに、対象の学生を上記調査回答に導く工夫を行った。
- ・有効回答数 5,817名、有効回答率 34.2%

○「第4回 東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」(令和3年12月～令和4年1月実施)

- ・以下の3カ年度の卒業生・修了生 11,374名を対象に調査を実施(専用Webページ及び紙媒体による回答)
 - ①平成24(2012)年度学部卒業生 769名・大学院修了生 1,462名(修士 1,226名、博士 236名)
 - ②平成28(2016)年度学部卒業生 2,244名・大学院修了生 1,940名(修士 1,584名、博士 356名)
 - ③令和2(2020)年度学部卒業生 2,431名・大学院修了生 2,552名(修士 2,020名、博士 532名)
- ・有効回答数 1,532名、有効回答率 13.5%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「1on1英会話」(オンライン)の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 SLA「1on1英会話」利用者数(単位:人)

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
延べ利用者数	486	489	449	435	503

*H29～R2年度には「英会話カフェ」利用者数を含む。

表2-2 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
開講クラス数	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	学期内4 集中2
受講者数(学期内)(人)	計312	計267	計295	計306	計64
受講者数(集中)(人)	計127	計113	計111	計121	計76

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○ディシプリンにとらわれない意識の涵養

- ・全学教育科目・カレントトピックス科目「遊学」の実施(受講者18名、授業評価アンケート「総合評価」5.0) 様々な学部の学生が集まり、自身の興味を他者と共有することで、視野を広める経験を醸成できた。

○多次的な視野を育成するための科学教育(文・理教員および外国人教員協働講義)の推進

- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学」(前期・後期合計 受講者293名、授業評価アンケート「総合評価」4.1)

- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「【展開ゼミ】あなたの選択：事例で考える学びと研究における倫理」の実施（受講者 21 名，授業評価アンケート「総合評価」4.7）：研究倫理関連科目
 - ・全学教育科目・展開科目・総合科目「memento mori-死を想え-」（受講者 237 名，授業評価アンケート「総合評価」4.6）
- 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展
- ・全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」「英語による自然科学総合実験（国際学士コース）の充実
 - ・受講者数：計 1,678 名
 - ・自然科学総合実験実施委員会：年 2 回開催
 - ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
 - ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス（FD）： Semester 開始前に開催
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために，対面実験とオンラインによる対話を融合したハイブリッド型の理科実験（2 週間で 1 つの実験課題に取り組む）を実施することで，受講者にレポート作成の負荷をかけつつ，実験結果を自分なりに振り返る時間を与えて学習効果を高めることができた（授業評価アンケート「総合評価」が過去最高の 3.95 に上昇）。
 - ・Google Classroom を利用して，教材管理・レポート授受・質問対応をオンラインで完結できるシステムを構築し，すべてのレポートにルーブリック評価とレポートの良い点と改善点に関するコメントを付して返却した。また，多くの学生から出た同様な質問については，FAQ としてまとめて，ホームページ上で公開した。
 - ・これまで対面に特化した出席成績管理システムを運用していたが，今般のコロナ禍によりオンラインと対面を併用した出席成績管理システムを自然科学教育開発室の小俣助教が独自開発した。この開発したシステムは初期不良がいくつかあったため，通常業務を行いながら改良を進め，日々 300 名近い学生の出欠や成績に関する情報を処理することができるようになった。
- 多様な「知」を大学教育の場面に導入
- ・連続セミナーはコロナ禍のため，休止した。
 - ・教養教育セミナー「パンデミックの時代を生きる」の実施
 - ・ILAS コロキウム「研究がおもしろい！－未踏への挑戦－」の実施
- 移転可能スキル（Transferable Skills）の修得（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
- ・高等大学院挑戦的研究支援プログラムの必修科目（トランスファラブルスキル研修）を，JST の協力のもとで開発し，オンデマンド教材として公開した（受講者 504 名）
- 高度教養教育の共通科目化（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
- ・全学教育科目・「みせる学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？」の実施（後期受講者 7 名，授業評価アンケート「総合評価」4.7）（学部 3～4 年生対象の高年次教養教育科目）

表 3-1 自然科学総合実験受講者数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
理科系クラス	1,544	1,596	1,604	1,607	1,603
文科系クラス	54	20	29	37	45
国際学士コース	30	29	27	25	30
計	1,623	1,645	1,660	1,669	1,678

(4) 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

○国際共修ゼミ（日本語クラス／英語クラス）の充実

- ・日本語クラス：34クラス，延べ受講者数：624名（内訳：日本人学生459名，留学生165名）

表4-1 国際共修ゼミ開講クラス数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
日本語クラス	32	34	39	29	34

表4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
日本人学生	433	393	404	292	459
外国人留学生	421	385	239	143	165
計	854	778	643	435	624

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表4-3 東北大学サマープログラムボランティア学生数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
TUJP	51（採用数）	33	24	50	166
TSSP	TSSP 実施せず	5	9	実施せず	実施せず
計		38	33	50	166

R2年度，コロナ禍を受けて TUJP はオンライン実施，TSSP は実施見送り

(5) 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

- 国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム
 - ・受入学生数：20名，派遣学生数：0名
- 国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学コース，農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施
 - ・志願者数：110名，合格者数：42名，入学者数：21名

○交換留学生の受入れ促進

- ・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム）について，コロナ禍に対応し，R4年4月の渡日に向けた準備学習期間として，オンラインで授業履修ならびに課題研修を行う，オンライン受入れを行った。

○New Normal に対応した，オンラインを活用した学生交流機会の創出

- ・環太平洋大学協会（APRU: Association of Pacific Rim Universities）のオンライン学生交流事業のパイロットプログラムに参画。R3年度（春・秋学期）は，単位互換可能な「Academic Program」では，8大学に本学学生11名が履修申込。本学は各学期授業科目10科目を提供，APRU加盟大学学生51名が履修申込。単位互換を伴わない「Co-Curricular Program」には，「Tohoku Global Campus Project-Meet new friends at Tohoku University and around the world!」「Exploring Japanese "Manzai" - Intercultural

Comedy Show」 「Welcome to the Winter Owarai Live!」 の3プログラムを提供、 のべ197名の申込があった。

○短期研修プログラムの整備

・東北大学サマープログラム、 夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラム（オンライン）の実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期3名，後期16名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

・受講者数：前期283名，後期305名

○外国人留学生対象の日本語学習支援プログラムの開発・推進

・学習支援センターでの「1on1日本語会話」（オンライン）および日本語学習ワークショップの実施

表5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
受入学生数	3	10	14	12	20
派遣学生数	2	2	0	0	0

表5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
JYPE	56	50	58	5	2
IPLA	62	29	53	12	36
COLABS	35	60	72	2	13
DEEP	17	10	15	0	1
DEEP-Bridge	53	27	47	0	0

*R3年度はコロナ禍に対応し，オンラインに限定して受け入れ。

表5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
TUJP	58	53	38	35	49
TSSP	実施せず	22	25	0	0
短期日本語・日本文化研修プログラム	11	9	17	実施せず	実施せず

*H29年度はワシントン大学学生16名を対象とした理工学特別サマープログラムを実施。

*R2年度はコロナ禍に対応し，TUJPはオンラインで実施。TSSPは実施見送り。

表5-4 外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）研修生数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
日本語研修コース（前期）	19	27	28	0	3
日本語研修コース（後期）	8	7	9	15	16
日韓共同理工系学部留学生プログラム	7	6	7	—	—
MEXT 日本語・日本文化研修プログラム	6*	3*	4*	2	4

*日韓共同理工系学部留学生プログラムは2019年（H31/R1）受入れで終了。

*MEXT 日本語・日本文化研修プログラムは、H31年度まで文学部で実施。

表5-5 外国人留学生等特別課程（日本語）の受講者数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
外国人留学生等特別課程（前期）	366	375	370	164	283
外国人留学生等特別課程（後期）	513	471	465	268	305

表5-6 SLA「日本語会話カフェ」・「1on1日本語会話」・「日本語学習ワークショップ」利用者数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
延べ利用者数	-	55	243	289	349

*「日本語会話カフェ」は、H30～R1年度実施

*「1on1日本語会話」は、R2年度より実施

*「日本語学習ワークショップ」は、R3年度より実施

②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム（SAP）、ファカルティレッドプログラム（FL）の開発・実施

・SAP：プログラム数：8、派遣者数131名

・FL：プログラム数：4、派遣者数73名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

・研究型海外研鑽プログラム：派遣者数1名、入学前海外派遣プログラム：派遣者数87名

○東北大学グローバルリーダー（TGL）育成プログラムの推進

・登録者数：2,724名、指定科目：244科目、TGL修了者：23名、グローバルリーダー認定者：37名

表5-7 SAP, FL実施状況

		H29	H30	H31/R1	R2	R3
SAP	プログラム数	17	15	14	8	8
	派遣者数（単位：人）	288	273	256	64	131
FL	プログラム数	5	7	4	3	4
	派遣者数（単位：人）	74	110	67	49	73

表5-8 TGLプログラム実施状況

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
登録者数（単位：人）	2,873	3,007	2,406	1,898	2,724
指定科目数	323	340	307	226	244
TGLプログラム修了者数（単位：人）	43	44	42	62	23
グローバルリーダー認定者数（単位：人）	17	27	23	28	37

(6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進

①学習支援（学習支援センター）

○SLA並びに教員による学習支援活動：利用者数

- ・理系支援担当 SLA（前期 20 名・後期 21 名）による個別対応型学習支援：延べ 508 名
- ・英会話支援担当 SLA（前期 8 名・後期 7 名）による個別対応・企画発信型学習支援：延べ 503 名
- ・ライティング支援担当 SLA（前期 6 名・後期 6 名）による個別対応型学習支援：延べ 182 名
- ・企画担当 SLA（前期 8 名・後期 6 名）による学習企画・イベント実施：計 23 回，参加者延べ 115 名
- ・留学生対象日本語学習支援担当 SLA（前期 5 名・後期 4 名）による個別対応型学習支援およびイベント実施：延べ 349 名

表 6-1 理系支援担当 SLA による個別対応型学習支援実績（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
延べ人数	800	729	1,011	460	508
実数	240	224	257	160	194
予約枠数	-	-	-	1,275	759

表 6-2 英会話支援担当 SLA による個別対応・企画発信型学習支援実績（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
延べ人数	472	489	449	435	503
実数	111	73	91	129	129

②学生相談・援助活動（学生相談・特別支援センター）

○相談・援助・予防活動及び全学的支援体制の構築

- ・学生相談所における個別支援（出張カウンセリング含む）：来談者数 760 名，対応回数 5,231 回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動：相談件数 15 件，対応回数 144 回
- ・特別支援室（H26.4 設置）での障害のある学生，学生と関わる教職員等への専門的支援：来談者 140 名，対応回数 2,083 回
- ・特別支援室学生サポーター：登録人数 52 名
- ・学生相談・特別支援等に関する FD：17 回（学生生活支援審議会 FD：4 回，部局 FD：13 回）
- ・星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 2 名，相談回数 10 回（令和 3 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため，星陵キャンパスでの出張相談は対面相談ではなく，川内キャンパスにおいてオンラインで相談を行った）。
- ・全学生対象調査については，令和 3 年度から質問項目を刷新し，震災の心身への影響等を測るものから学生の生活状況，不安・抑うつ状態，発達障害関連の困り感を把握できる内容へ変更した（表 6-6，表 6-7，表 6-8）。

表 6-3 学生相談における来談者数（単位：人）

		H29	H30	H31/R1	R2	R3
学生相談・特別支援センター		808	955	1,120	800	890
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	744	822	850	669	760
	特別支援室	132	133	308	153	140
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		13	28	26	13	15
計		821	983	1,146	813	905

表6-4 学生相談における相談回数（単位：回）

		H29	H30	H31/R1	R2	R3
学生相談・特別支援センター		7,368	7,945	7,703	6,472	7,246
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	5,415	5,521	5,316	4,259	5,231
	特別支援室	2,266	1,974	2,620	2,255	2,083
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		36	131	126	63	144
計		7,404	7,626	7,829	6,535	7,390

表6-5 FD等の実施回数（単位：回）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
FD・SD（学生支援審議会FD、部局FDを含む）	16	15	15	11	17
部局と連携した学生対象の講演	8	7	7	3	8
部局新生オリエンテーション等	19	23	19	16	17
計	43	45	41	30	42

○新生を含む全学生を対象とした、大学生活への適応状態（a.生活状況、b.不安・抑うつ、c.発達障害関連の困り感という3側面）を把握するための調査の実施と個別支援

表6-6 全学生対象調査（不適応ハイリスク：生活状況）の概要

	R3
回答者数（人）	9,981
回収率（%）	55.5
不適応ハイリスク群：生活状況（人）	1,125
不適応ハイリスク群の割合（%）	11.3
個別対応実施者数（人）	117

表6-7 全学生対象調査（不適応ハイリスク：不安・抑うつ）の概要

	R3
回答者数（人）	9,981
不適応ハイリスク群：不安・抑うつ（人）	575
不適応ハイリスク群の割合（%）	5.8
個別対応実施者数（人）	69

表6-8 全学生対象調査（不適応ハイリスク：発達障害関連の困り感）の概要

	R3
回答者数（人）	9,981
不適応ハイリスク群：発達障害関連の困り感（人）	148
不適応ハイリスク群の割合（%）	1.5
個別対応実施者数（人）	48

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

○各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談

- ・学生定期健康診断：受診者数 11,383 名（受診率 63.1 %）
- ・学生特殊健康診断：受診者数 4,759 名
- ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 53 名

- ・診療及び日常の健康相談：受診者数 1,987 名
- ・健康診断証明書発行回数：1,417 回

表 6-9 学生定期健康診断受診者数および受診率

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
受診者数 (人)	13,769	13,488	13,438	9,331	11,383
受診率	75.5%	74.4%	73.1%	48.8%	63.1%

表 6-10 各種健康診断, 診療及び日常の健康相談受診者数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
学生特殊健康診断 (人)	6,823	6,777	6,448	1,917	4,759
秋季胸部 X 線検診 (人)	351	425	545	0	53
診療及び日常の健康相談 (学生及び職員) (人)	4,721	4,176	3,575	1,558	1,987
診断書・証明書等の発行 (枚)	2,147	1,914	2,116	1,196	1,417

○健康に関する講演会等の開催

- ・健康科学講演会 (学生対象) : 年 1 回
- ・健康科学セミナー (教職員対象) : 年 4 回

④キャリア支援活動 (キャリア支援センター)

○全学教育科目でキャリア教育科目開講

- ・開講科目数 : 8 科目, 受講者数 : 243 名

○進路形成のための各種支援プログラム実施

- ・事業件数 : 24 件, 開催回数 : 71 回
- ・アクセス者数 : 学部学生延べ 4,337 名, 大学院学生延べ 4,088 名, その他既卒者等延べ 4,276 名, 計 12,701 名

○進路や就職に関する個別相談

- ・対応件数 (川内) : 学部学生 1,106 件, 大学院学生 1,589 件, その他既卒者等 2 件, 計 2,697 件

表 6-11 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
開講科目数	7	7	8	8	8
受講者数 (人)	133	146	146	200	243

表 6-12 進路形成のための各種支援プログラム事業件数, 開催回数および延べ参加者数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
事業件数	28	23	21	22	25
開催回数	57	64	29	40	59
延べ参加者数 (人)	9,531	7,433	2,128	9,448	12,701

表 6-13 進路や就職に関する個別相談対応件数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
対応件数	3,600	3,001	3,487	2,502	2,697

⑤課外活動支援（課外・ボランティア活動支援センター）

○東日本大震災およびボランティア関連の授業の提供

- ・実施授業数・受講学生および評価：6科目・6コマ（12単位），受講学生 152名

○学生ボランティア活動の支援

- ・センターが把握しているボランティアツアー・ボランティア派遣活動：年 56回，のべ 395名

表6-14 ボランティアツアーや被災地での学生ボランティア活動回数及び延べ参加学生数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
開催回数	108	142	150	35	56
延べ参加学生数(人)	1,062	1,240	1293	286	395

○ボランティア活動紹介イベントの開催

- ・ボランティア・フェアの実施：1シーズン・3日間開催，参加者数 75名
- ・ボランティア体験会の実施：第一弾 企画数 5，参加者数 19名 第二弾 企画数 11，参加者数 28名

表6-15 ボランティア・フェアの開催日数及び参加学生数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
開催日数	13	12	10	8	3
延べ参加学生数(人)	282	342	369	117	75

○震災関係以外のボランティア体験プログラムの実施

- ・ボランティア体験会の実施：企画数 16，参加者数 47名

○学生スタッフの育成・支援

- ・ボランティア支援学生スタッフの登録者数：56名
- ・学生スタッフ対象の集中会議：2回開催
- ・その他勉強会等：震災伝承に関わるツアー（2回），学習会（4回）。人権課題に関わる学習会（4回）。

○学生ボランティア登録団体の支援

- ・登録団体数：12団体
- ・ボランティア団体連絡会議の開催：8回開催
- ・ボランティア団体の助成金取得数：獲得数 4件，総額約 111万円（学生スタッフ SCRUM 内団体）

○ボランティア団体に所属する学生への研修会の実施

- ・課外・ボランティア活動研修会の開催：6回開催，本学学生参加者数 99名

○学生ボランティアの学内外での成果報告機会の提供

- ・課外・ボランティア活動支援センター紀要発刊：100部
- ・Volunteer Seminar Journal 発刊：1,000部

○課外活動団体の支援

- ・課外活動連携を含めた定例会議：8回開催

○国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携

- ・国内大学生との交流：2回（のべ他大学生 29名，本学学生 8名参加）
- ・国内高校生との交流：1回（のべ高校生 6名，本学学生 9名参加）

(7) 東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オンラインオープンキャンパスウェブサイト開設：訪問者 158,256 名
- ・高校生対象のオンライン進学説明会ウェブサイト開設：訪問者 27,433 名
- ・高校教員対象のオンライン入試説明会の開催：20 回実施 参加者 229 名（34 都道府県 202 校）
- ・高校及び民間業者主催のオンライン入試説明会・相談会への参加：2 会場

表 7-1 オープンキャンパス参加・訪問者数（単位：人）

		H29	H30	H31/R1	R2	R3
参加者数	来場	65,958	68,228	68,403	オンラインによる代替*	オンラインによる代替*
	オンライン				76,278	158,256

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

表 7-2 高校生対象の進学説明会参加・訪問者数（単位：人）

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
仙台会場			927	オンラインによる代替*	オンラインによる代替*
札幌会場	428	398	376		
静岡会場	273	272	227		
東京会場	823	1,045	1,180		
大阪会場	209	269	256		
福岡会場		(工学部主催) 43	44		
オンライン				52,077	27,433

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

表 7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績

		H29	H30	H31/R1	R2	R3
対面型	会場数	21	21	21	オンラインによる代替*	1
	参加者数 (人)	552	486	557		142
オンライン	実施回数				39	20
	参加者数 (人)				226	229

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(8) 大学教職員の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：23 回
- ・参加者数：2,488 名（46 都道府県，530 機関）
- ・受講満足度（全体）：3.5/4.0

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数（令和 3 年度末時点）：90
- ・動画閲覧数（令和 3 年度中）：34,488 件（動画アクセス数：98,159 件）
- ・機関利用登録：39 機関（国立大学 3，公立大学 4，私立大学 30，民間組織 2）

○職員に加えて教員や執行部も対象とする SD の実施（大学マネジメント力開発プログラム）

- ・提供セミナー数：1 回，参加機関：106 機関，参加者数：121 名（内，東北大学 14 名，他大学 83 名）

○大学教育イノベーション日本（HEIJ）を通じた他機関との連携

- ・ HEIJ 加盟組織（令和3年度末時点）：15 組織（13 大学 14 組織及び1 コンソーシアム）
- ・ 全ての教育関係共同利用拠点（FD・SD）が加盟

○海外大学との国際連携によるプログラム開発の高度化

- ・ STEM（科学・技術・工学・数学）分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた「分野別教育方法研究」（DBER: Discipline-Based Education Research）の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏（スタンフォード大学教授。2001年ノーベル物理学賞受賞者）による、先進的・組織的取組の全貌を詳述した著書『Improving How Universities Teach Science: Lessons from the Science Education Initiative』の翻訳作業を進め、令和3年7月に『科学立国のための大学教育改革—エビデンスに基づく科学教育の実践』（大森不二雄他監訳）を玉川大学出版部より出版。

○持続的な産学共同人材育成システム構築事業

- ・ 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（令和元年～5年度）の運営拠点・中核拠点（代表校：東北大学，連携校：熊本大学・大阪府立大学・立教大学）として、「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組を推進した。
- ・ 中核拠点の取組として、履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を開発・実施し、受講満足度は3.5（4件法）と高い評価を得た。
- ・ 運営拠点の取組として、全国4中核拠点が実施する「実務家教員育成研修プログラム」の受講者・修了者と、大学等（大学，短期大学，高等専門学校，専門職大学，専門学校など）高等教育機関とのマッチングを支援する「大学等と実務家教員のためのマッチングサポート」ウェブサイトを開発した。令和3年度末時点で、実務家教員育成研修プログラム受講者・修了者は337名（内，情報公開数148名），採用側である大学等の登録機関数は32機関である。
- ・ 運営拠点の取組として、中核拠点の取組にて開発した「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の動画コンテンツを、全国の大学等における教育FDコンテンツとして無償提供した。令和3年度は，54機関（利用対象者：3,356名）が利用した。

表8-1 専門性開発セミナー開催実績

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
提供セミナー数	59	56	48	13	23
内，高等教育のリテラシー形成関連	9	7	5	5	4
専門教育での指導力形成関連	15	5	8	2	3
学生支援力形成関連	2	6	2	0	1
マネジメント力形成関連	14	14	3	3	1
その他	19	24	30	3	14
参加者数（人）	2,742	2,469	2,483	2,226	2,488

表8-2 セミナー動画のオンライン配信動画数及び閲覧数

	H29	H30	H31/R1	R2	R3
提供動画数	76	79	90	95	90
内、高等教育のリテラシー形成関連	22	22	23	23	26
専門教育での指導力形成関連	14	14	16	17	17
学生支援力形成関連	11	11	12	12	12
マネジメント力形成関連	23	26	31	35	35
その他	6	6	8	8	0
動画閲覧数 (アクセス数)	21,823 (90,833)	20,850 (88,528)	33,726 (98,822)	43,498 (127,669)	34,488 (98,159)

2. 外部資金獲得状況

(単位：千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄附金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和3年度	93	122,939	4	130,504	2	2,000	5	11,997

※科学研究費補助金、受託研究、共同研究は、直接経費と間接経費の合計額である。また、他大学からの分担金を含めている。

3. 共同研究員受入状況

氏名	研究課題	研究期間	本務先の所属・職	受入教員
高橋 哲也	STEM教育の変革に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	大阪府立大学 副学長, 高等教育推進機構 教授	大森教授
関沢 和泉	大学教育マネジメントにおけるIR活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	東日本国際大学東洋思想研究所・教授	大森教授
鈴木 久男	STEM教育の変革に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	北海道大学 大学院・理学研究科 教授	大森教授
鈴木 克明	授業設計及びeラーニングに関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	熊本大学 教授システム学研究センター教授/ センター長, 大学院教授 システム学専攻長	大森教授
吉田 文	リカレント教育に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	大森教授
林 隆之	内部質保証に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	政策研究大学院大学 教授	大森教授

氏名	研究課題	研究期間	本務先の所属・職	受入教員
田中 秀明	大学の財政と評価に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	明治大学 大学院ガバナンス研究科 教授	大森教授
王 帥	中国高等教育政策と経済支援	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	東京大学 社会科学研究所 准教授	戸村准教授
Andy Leger (アンディー リージャー)	大学変革リーダー育成プログラムの開発と評価	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	Associate Professor, Center for Teaching and Learning, Queen's University, Canada	大森教授
Gabriel Hervas Nicolas (ガブリエ ル・エルバス・ ニコラス)	スペインの高等教育とファカルティ・ディベロップメント (FD) に関する研究	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	Assistant Professor, Department of Teaching and Learning and Educational Organization, the University of Barcelona	大森教授
黄 文哲	台湾における高等教育政策と学士課程教育	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	三重大学 地域人材教育 開発機構 講師	戸村准教授
齋藤 渉	大学マネジメント力開発プログラムの研究	平成31年4月1日～ 令和4年3月31日	東北学院大学 学長室イ ンスティテューショナ ル・リサーチ (IR) 課 課 長補佐	大森教授
高良 要多	大学マネジメント力開発プログラムの研究	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	桃山学院大学 教務部教 務課 課員	大森教授

4. 研究業績による受賞

氏名	概要
倉元 直樹 教授	日本テスト学会大会発表賞 (第19回大会) 授与機関:日本テスト学会 2022年3月
山下 琢磨 助教	分子科学会優秀講演賞「水素化ポジトロニウム二重励起非自動電離状態の輻射解離スペクトルの計算」 授与機関:分子科学会 2021年10月
山下 琢磨 助教	日本陽電子科学会奨励賞「精密三体系計算による陽電子と原子の結合状態の理論的研究」 授与機関:日本陽電子科学会 2021年12月

5. 規程類

(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、東北大学（以下「本学」という。）の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長

副機構長

部門長

院長

教授

准教授

講師

助教

助手

総長特命教授

技術職員

その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室
国際化教育開発室
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室
自然科学教育開発室
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室
臨床医学開発室
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、次に掲げる業務センターを置く。

教育評価分析センター
大学教育支援センター
入試センター
言語・文化教育センター
グローバルラーニングセンター
学際融合教育推進センター
学習支援センター
キャリア支援センター
学生相談・特別支援センター
保健管理センター
課外・ボランティア活動支援センター

2 保健管理センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前二項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程(平成16年規第151号)の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程(平成16年規第311号)及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程(平成17年規第93号)は、廃止する。

附 則(平成29年3月28日規第29号改正)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授（任期又は期間を定めて雇用される者を除く。）をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年1月19日改正）

この内規は、平成29年1月19日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。

	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日

制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を発議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定有期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（退職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教育研究評議会評議員
- 二 各部門長
- 三 教養教育院長
- 四 業務センターの各センター長
- 五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第12条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議（以下「高度教養教育諮問会議」という。）の組織及び運営について定める。

(組織)

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

(委員の範囲)

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生（以下「学生」という。）並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

(議長及び副議長)

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

(開催)

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

(委嘱)

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員（以下「受入れ教員」という。）から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

(遵守遂行)

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 専門研究員には、給与を支給しない。

3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

(7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2021

発行 2022年8月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,

Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University